

女性の視点に立った
新規就農の課題や支援施策のあり方
調査結果

—平成 24 年度—

全国農業会議所
(社) 農山漁村女性・生活活動支援協会

—2013 年 3 月—

は し が き

本書は、農林水産省新規就農等相談支援事業を活用し、「女性の視点に立った新規就農の課題や支援施策のあり方調査」をまとめたものである。

新規就農者のうち新規参入者の就農実態に関する調査としては、全国農業会議所 全国新規就農相談センターが実施した、平成22年度の全国的なアンケート調査により明らかにされたが、調査対象の9割以上が男性であった。

これまで、農業への新規参入者の女性すなわち「独立就農女性」を対象に、就農の動機や経緯から農業経営内容、抱負やアドバイス、女性の独立就農が進むための施策などを把握するための全国的なアンケート調査は行われていなかった。

独立就農女性は、毎年、女性の新規就農者の内の2%程度であり、極めて少数であるため、調査対象を選定することが難しい。しかし、このたび、都道府県新規就農相談センター(都道府県青年農業者等育成センターおよび都道府県農業会議)の御協力をいただき、調査対象の選定を行うことができた。業務多端な中で、本調査の実施にあたり、多大な御尽力をいただいた。厚くお礼を申し上げます。

更に、調査票を発出した後しばらくすると毎日毎日アンケート票が返信されてきて、封筒を開けるとアンケート票に答えた上にその他欄や自由記入欄にギッシリと細かく書き込まれていた。

「あ～伝えたいことがたくさんあるのだ。」と思い胸が熱くなる時もあった。何よりも、このアンケートにご回答いただいた独立就農女性の皆さまに深く感謝したい。そして、彼女達の声をしっかり受け止める必要が、新規就農の推進に関わる我々にはあると思う。

本調査結果が、新規就農希望者や新規就農相談活動の参考となる基礎資料として役立つとともに、女性の新規就農の促進施策の一層の充実のために役立つのならば、幸いである。

平成25年3月

全国農業会議所 全国新規就農相談センター
(社) 農山漁村女性・生活活動支援協会

女性の視点に立った新規就農の課題や支援施策のあり方調査

目次

I	はじめに	
1	調査の実施に当たって	1
2	調査の目的	1
3	調査の実施方法	2
II	調査結果	
1	アンケート調査の回収状況	3
2	回答者の年齢	3
3	回答者の年齢区分と就農年数区分	4
4	就農の動機関係	5
1)	家族など農業との関わりの有無	5
2)	就農前の様子	5
3)	就農の理由	6
4)	独立就農の理由	7
5	就農の経緯関係	8
1)	営農技術・知識の習得	8
2)	就農先地域の選定理由	9
3)	就農先の生活環境	11
4)	農地の状況	11
5)	農地の確保ルート	12
6)	住居の確保ルート	13
7)	就農までの苦勞	14
8)	就農までの苦勞（男性との比較）	16
9)	就農までの苦勞（女性の方が苦勞と思った理由）	16
10)	就農までの苦勞の対処法（女性の方が苦勞と思った方への自由記入）	17
11)	就農にあたり男性より良かった点	18
12)	就農にあたり男性より良かった点の内容	19
6	農業経営の状況	20
1)	経営作目（種類）	20
2)	経営作目（面積）	20
3)	農業従事状況	21
4)	農業経営スタイル	21

5) 経営内役割	23
6) 多様な農作業外活動	23
7) 年間売上高	24
8) 年間農業所得	24
9) 休日の取り決め	25
10) 農業経営上の苦勞	25
11) 経営改善方向	26
12) 農業経営の苦勞 (女性の方が大変)	27
13) 農業経営の苦勞 (女性の方が大変)	28
14) 農業経営の苦勞の対処法 (女性の方が大変と思っただ方への自由記入)	29
15) 農業経営にあたり男性より良かった点	30
16) 農業経営にあたり男性より良かった内容	31
7 農村での生活状況	32
1) 農村生活で苦勞している内容	32
2) 農村生活で苦勞している点の改善・工夫	32
3) 農村生活で良かった点	33
8 家庭の様子	34
1) 同居家族の人数	34
2) 配偶者の有無	34
3) 家事の従事状況	35
4) 未就学児童の有無	36
5) 保育所の送迎	36
9 将来の抱負	37
10 独立就農女性へのアドバイス	39
11 女性の独立就農が円滑に進むために必要な対策	40
Ⅲ まとめ	
1 分析に当たって	44
2 アンケート結果の小括	46
Ⅳ 統計表	
1 「女性の視点に立った新規就農の課題や支援施策のあり方調査」 調査結果表	53
2 「その他回答および自由記入」一覧表	68
3 アンケート調査様式	108

女性の視点に立った
新規就農の課題や支援施策のあり方
調査結果

—平成 24 年度—

女性の視点に立った新規就農の課題や支援施策のあり方調査

I はじめに

1 調査の実施に当たって

今般、全国農業会議所から平成 24 年度「新規就農等相談支援事業」の一部である（女性の視点に立った新規就農の課題や支援施策のあり方調査）について（社）農山漁村女性・生活活動支援協会が受託し、調査を実施した。当協会は、これまで長く農山漁村女性の地位向上に取り組み、最近では、農村女性の経営参画・社会参画の促進や農村女性のネットワークづくりなどに取り組んでいる。また、女性のための就農ガイド「ヒメ、農民になる」を出版するなど、女性の新規就農に関心を持っている社団法人である。この度、女性の独立就農者*を対象に、調査を行ったので、その結果を報告する。

独立就農*

農業法人への雇用就農や、実家・配偶者の実家等の農業に従事する形ではなく、本人のみ、または配偶者等とともに新たに農地や機械、ハウスなどを手に入れて独立して農業を開始し経営するタイプ（農業法人等から独立された方も含む）。

2 調査の目的

昨今、農業を仕事に選びたいという女性が数多く新規就農フェアに参加したり、就農相談に訪れている。しかし、現実には農業への就農は圧倒的に男性が多くなっている。

農業法人への雇用就農は、勤務先が農業の会社であることから一般の会社への就職と大差はないとの意識などから、最近女性の新規雇用就農は増加の傾向にある。しかし、女性の独立就農者は極めて少ないのが現状である。

農業に関心があり、農業を職業として選びたい女性が、どのようにすれば独立就農を果たし、継続して経営発展していけるのか、その実態については、ほとんど統一的な調査がなされていない。

これまでの女性の農業就農は、大部分が、農家の跡取り息子に嫁いだ女性が農業に従事するいわゆる家族就農タイプであり、農業への独立就農女性とは、その置かれている状況は大きく異なっており、改めて、独立就農女性の実態を調査し、今後の就農支援に活かして行くための知見を得るものとする。

そこで、この度、独立就農女性に焦点をあて、アンケート調査を行い、報告書をまとめた。

調査項目は、人物のプロフィール、経営内容、就農に至る動機・経緯、就農時の取り組み、苦労したこと、地域との関係、家族の協力、これからの農業経営展開方向等を調査した。

3 調査の実施方法

平成 24 年度 女性の視点に立った新規就農の課題や支援施策のありかた調査実施要領に基づき実施した。(平成 24 年 11 月)

1) 調査主体

全国新規就農相談センター（全国農業会議所）

2) 調査業務委託先

(社)農山漁村女性・生活活動支援協会

3) 協力

都道府県新規就農相談センター

(都道府県青年農業者等育成センターおよび都道府県農業会議)

4) 調査方法

調査は全国新規就農相談センターと(社)農山漁村女性・生活活動支援協会と都道府県新規就農相談センターが協力・連携して実施した。

①全国新規就農相談センター

調査の企画、立案等の全体的な方向付け・調整を行った。

②(社)農山漁村女性・生活活動支援協会

調査の企画、立案等を行い、調査票を印刷作成し、必要部数を都道府県新規就農相談センターへ送付するとともに、都道府県新規就農相談センターから回収した調査票を整理・分析し、報告書を作成・印刷した。

③都道府県新規就農相談センター

調査票の必要部数を全国農業会議所に報告するとともに、調査対象者へ調査票を配布した。

5) 調査項目

調査の項目（詳細は調査票を参照）

年齢、作目、経営内容、就農に至る動機・経緯、就農時の取り組み、苦勞したこと、地域との関係、家族の協力、これからの農業経営展開方向など。

6) 調査対象者

農業外から新規就農した女性のうち【独立就農】のタイプ

概ね各都道府県5人

※1：夫と共に独立就農している女性、1人で独立就農している女性、グループで独立就農している女性のいずれでも良い。

※2：独立就農とは、農業法人への雇用就農や、実家・配偶者の実家等の農業に従事する形ではなく、本人のみ、または配偶者等とともに新たに農地や機械、ハウスなどを手に入れて独立して農業を開始し経営するタイプ（農業法人等から独立された方も含みます）

7) 調査時期

調査時点：平成24年12月1日

II 調査結果

1 アンケート調査の回収状況

平成25年1月17日までに調査票が回収できた、43都道府県、計130名の独立就農女性のアンケート結果を分析した。回収率は、63.7%。

表1 アンケート調査回収状況

	配布票数	回収票数			回収率
		有効票	無効票	合計	
独立就農女性	204	130	0	130	63.7%

2 回答者の年齢

最も多かったのが、30～39歳で49人（37.7%）、次いで40～49歳で45人（34.6%）となり、両方で約7割を占めている。次いで、50～59歳が15人（11.5%）、29歳以下が12人（9.2%）、60歳以上が9人（6.9%）となっている。

3 回答者の年齢区分と就農年数区分

最も多かったのが、5～10年未満で36人（27.7%）と最も多く、次いで3～5年未満が32人（24.6%）となり、2年未満と10年以上が同数の23人ずつ（17.7%）、2～3年未満が16人（12.3%）と最も少なかった。

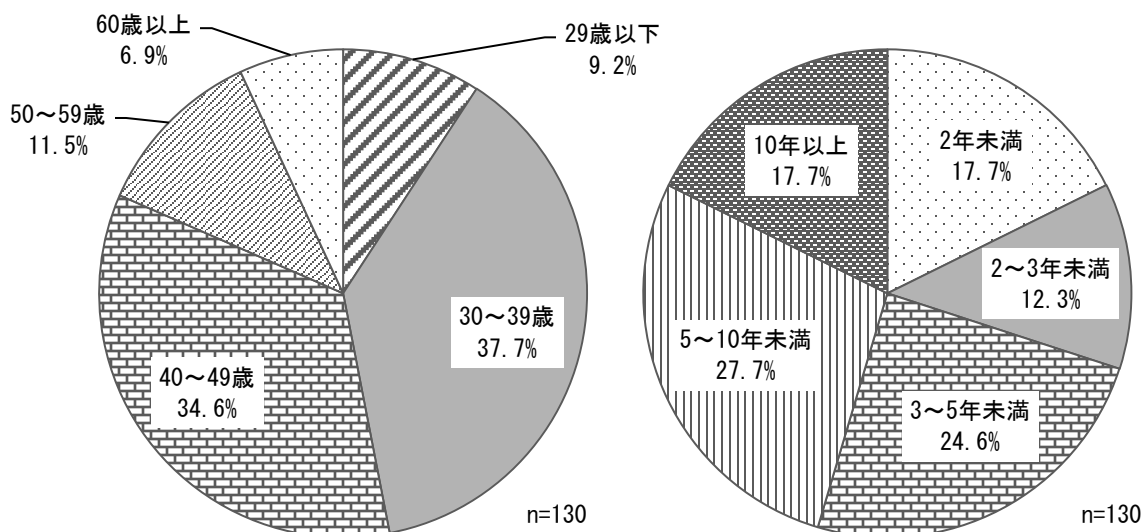


図1 回答者の年齢区分と就農年数区分

これを就農年数とクロスしてみると、29歳以下は全員が就農5年未満であり、39歳以下は、就農5年未満が就農5年以上より多い。40歳以上の各階層は、就農5年以上の方がやや多くなっている。

表2 就農年数と年齢区分のクロス表

		年齢区分					合計
		29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	
5年未満	人数	12	28	21	7	3	71
	%	16.9%	39.4%	29.6%	9.9%	4.2%	100.0%
5年以上	人数	0	21	24	8	6	59
	%	0.0%	35.6%	40.7%	13.6%	10.2%	100.0%
合計	人数	12	49	45	15	9	130
	%	9.2%	37.7%	34.6%	11.5%	6.9%	100.0%

4 就農の動機関係

1) 家族など農業との関わりの有無

【問4—①家族など農業との関わりがありましたか。○を1つ付けて下さい。】

「実家や親戚に農業を営んでいる者はいない」が最も多く5割を占める。

次いで、「祖父母や親戚が農業」、「実家が農業」と続き、農業と関わりのある者があわせて4割となっている。

「その他」の回答は1割であり、内容は、夫の家が農業、夫の実家が兼業農家、夫が新規就農、兄が新規就農などの回答が見られた。回答者により、実家や親戚の範囲に、夫側を含めない方等が「その他」に記入したものとみられる。

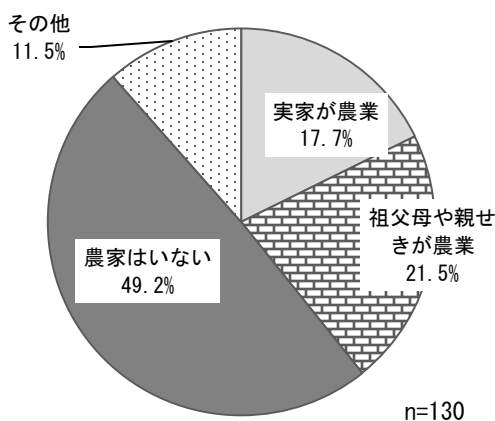


図2 就農との関わり

2) 就農前の様子

【問4—②農業法人等での雇用就農や現在の独立就農など、農業で働く前は何をされていきましたか。○を1つ付けて下さい。】

「会社勤務」が最も多く51.5%であり、次に多かったのが「その他」の14.6%次いで、「農家・農業法人研修生」7.7%、「家事手伝い」6.2%となっている。

「その他」の内容をみると、「主婦」の回答が多く見られ、「保育士」、「国際協力」、「料理の仕事」などがあがっている。

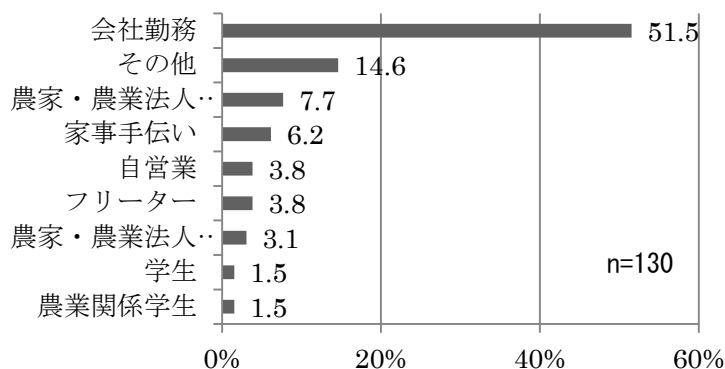


図3 就農前の様子

3) 就農の理由

【4-③あなたはどのような理由で就農しましたか。就農した理由を3つ選び○をつけて下さい。】

就農した理由をみると、「自然や動植物が好き」(31.5%)、「農業が好き」(31.5%)、「家族と一緒に仕事」(30.8%)の3項目が共に全体の3割以上の方が選んでいる。次いで「田舎暮らしが好き」(22.3%)、「時間が自由」(18.5%)が続いている。

また、「その他」が37回答(28.5%)あり、その内容をみると、「夫が就農を希望したから」、「自然農法で農業をしたいという夫に共感して」など夫の意向に添って就農した方が10回答あった。「人に喜ばれる仕事がしたい」、「食に関わる仕事をしたかった」、「定年がないから」、「食と農と子どもをつなげたい」等の回答もあった。

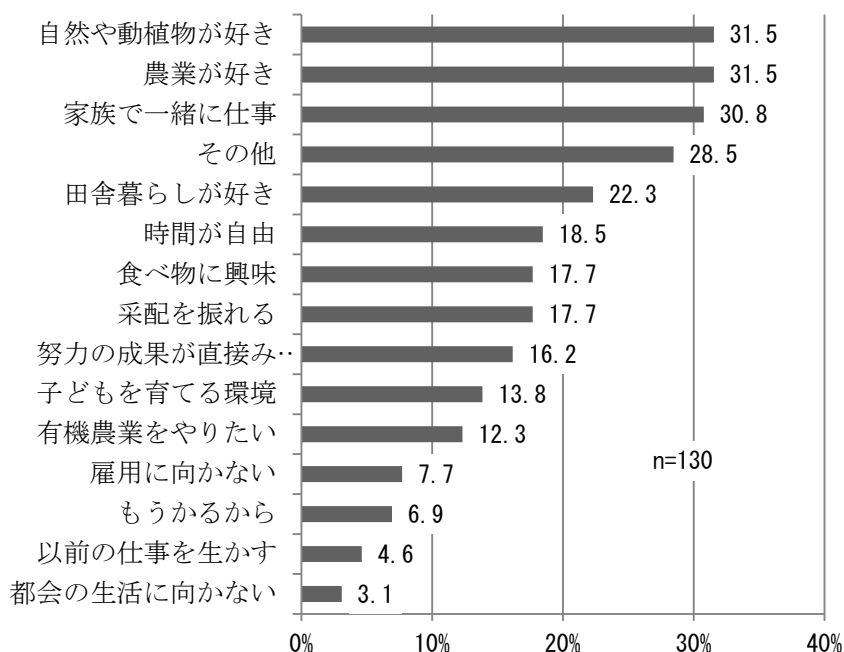


図4 就農理由

この問は、調査方法や調査人数が異なるものの、調査項目を今回調査と同一としたことから、平成22年度新規就農者(新規参入者)の就農実態に関する調査*(全国新規就農相談センター)の調査結果(以下「22新規参入調査という。」と比較してみたところ、

「農業が好き」は両調査ともトップの就農理由であった。一方、独立就農女性調査と22新規参入調査の就農理由で大きな差がある項目は、以下のとおりである。

独立就農女性調査の方が22新規参入調査よりもポイントがかなり高いのは、「自然や動植物が好き」が、9.6ポイント、「家族と一緒に仕事ができる」が12ポイント高くなっている。

逆にかなり低い項目は、経営に関する項目であり、「自ら経営の采配を振れる」が△16ポイント、「努力の成果が直接みれる」が△14.2ポイント、「農業はやり方次第でもうかる」

が△12.1 ポイントとなっており、独立就農女性は、家族や自然に重点を置く一方、経営については強い就農理由となっていない傾向がみられる。

*平成 22 年度新規就農者（新規参入者）の就農実態に関する調査

全国新規就農相談センター（全国農業会議所）

調査対象は、就農してから概ね 10 年以内の農業外からの新規就農者（新規参入者）を対象に、2010 年 11 月に実施した。回収数は 1,753 人、集計数 1,517 人（うち男：93.1%、女：6.9%）であり、ほぼ男性新規参入者の意見が反映されていると言える。

表 3 就農理由 平成 22 年度新規参入調査との傾向比較

	就農した理由	独立就農女性調査 %	22 新規参入調査 %
自然・環境	農業が好き	31.5	37.3
	農村の生活（田舎暮らし）が好き	22.3	23.9
	自然や動植物が好き	31.5	21.9
安全・健康	食べ物の品質や安全性に興味があった	17.7	20.4
	有機農業をやりたい	12.3	16.2
家族・自由	時間が自由	18.5	25.2
	家族と一緒に仕事ができる	30.8	18.8
	子どもを育てる環境が良い	13.8	9.1
経営	自ら経営の采配を振れる	17.7	33.7
	努力の成果が直接みれる	16.2	30.4
	農業はやり方次第でもうかる	6.9	19.0
	以前の仕事の技術を生かしたい	4.6	4.9
消極的	雇われて働くことに向かない	7.7	10.0
	都会の生活に向いていない	3.1	4.2
	その他	28.5	-
	N. A.	6.2	-
	回答者数	100.0	100.0

注) 独立就農女性調査では、あてはまるものを 3 つ選択、平成 22 新規参入調査では、あてはまるものを 3 つまで（順位づけ）選択の回答である。

4) 独立就農の理由

【問 4 - ④あなたは、農業法人等への雇用就農ではなく、独立して農業をはじめたのほどのような理由ですか。あてはまるもの全てに○をつけて下さい。そのうち一番重視するも

のひとつに◎をつけてください。】

農業法人等へ社員として雇用されるのではなく、何故、独立就農したのかを聞いたところ、一番重視する理由、当てはまる理由とも、「やりたい農業の実現」が最も高くなった。次いで、当てはまる理由でみると、「雇われずに働きたい」、「家族で農業をやりたい」の順であり、一番重視する理由でみると、「家族で農業をやりたい」、「雇われずに働きたい」の順となった。

また、「その他」が37回答あり、その内容をみてみると、「夫が農業をやることに決めたから」、「結婚相手が新規就農したため」等夫の考えに関連しての就農理由が数例あった。更に「農業法人が身近になかったから」、「雇用就農だと生活に困ってしまうため」、「自宅から通える範囲に雇用先がなかった」等雇用先の理由、「研修先では独立する人しか受け入れていなかった」等の回答があった。

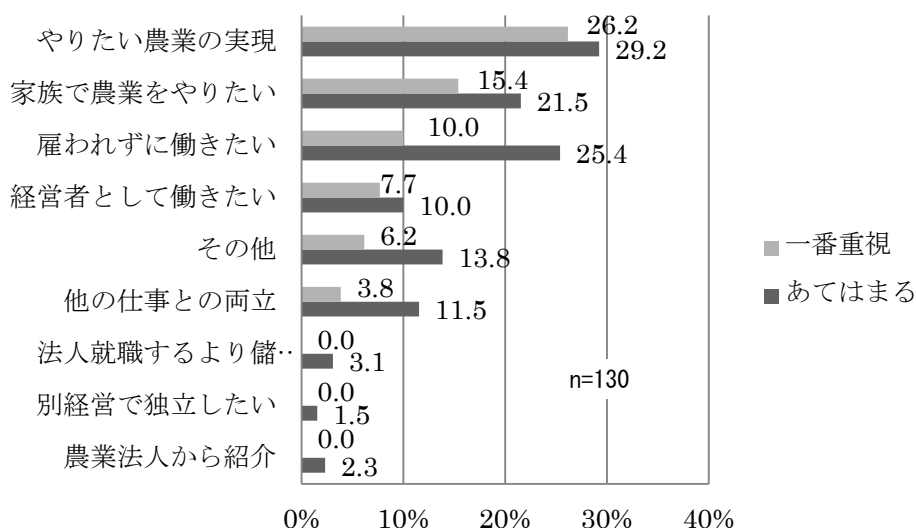


図5 独立就農理由

5 就農の経緯関係

1) 営農技術・知識の習得

【問5-①就農前に営農技術・知識はどのようにして身につけましたか。役だったもの全てに○をつけて下さい。また、一番重視するものひとつに◎をつけてください。】

役だったものをみると、高い順に「書籍や雑誌」(31.5%)、「先進的な農家での研修」(23.1%)、「インターネット」(19.2%)、「農業大学校等」(17.7%)、「普及センター」(16.9%)であった。また、一番役だったものをみると、高い順に「先進的な農家での研修」(17.7%)、「農業大学校等」(9.2%)であった。

また、「その他」が26回答あり、その内容をみてみると、「夫から教えてもらった」、「夫が農業大学校で学んできたことを教えてもらっている」など夫から習得したという回答が数例あった。その他には、「独学」、「JAの研修ハウス」、「出荷組合での研修」、「普及員の直接指導」、「ニューファーマー制度」、「援農ボランティア」、「農業公社での研修」等の回答

があった。

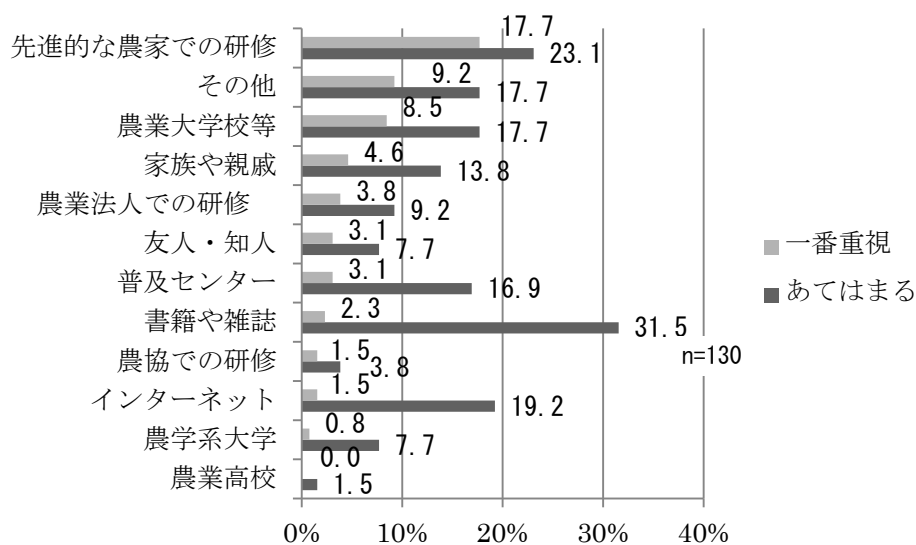


図6 知識技術の習得

2) 就農先地域の選定理由

【問5-②就農に当たりあなたが現在の地域を選んだ理由であてはまるもの全てに○をつけて下さい。また、一番重視するものひとつに◎をつけてください。】

重視する地域選定理由は、「自然環境が良い」(20.0%)、「取得できる農地があった」(16.2%)、「家族の実家に近い」(15.4%)の順であった。また、一番重視する就農先の地域選定理由は、「取得できる農地があった」(11.5%)、「行政等の受け入れ・支援対策が整っているから」(10.8%)、「家族の実家に近い」(8.5%)の順であった。また、「その他」が40回答あり、その内容をみると、「結婚相手の実家」「結婚のため」等が夫による理由が数例あり、「自宅に近い」、「持ち家に近い」等就農前からの住居地近くでの就農理由が数例、「農業委員からの紹介」、「観光農園のため集客しやすい場所」、「土地の人達が親切」等の回答があった。

更に、調査方法や調査人数が異なるものの、調査項目を今回調査と同一としたことから、平成22年度新規就農者(新規参入者)の就農実態に関する調査*(全国新規就農相談センター)の調査結果(以下「22新規参入調査という。')と傾向を比較してみた。

独立就農女性調査と22新規参入調査の就農理由で大きな差がある項目は、以下のとおりである。

独立就農女性調査の方が22新規参入調査よりもポイントがかなり低いのは、「取得できる農地があった」が、△30.6ポイント、「行政の受け入れ・支援対策が整っているから」が、△17.1ポイントとなっている。

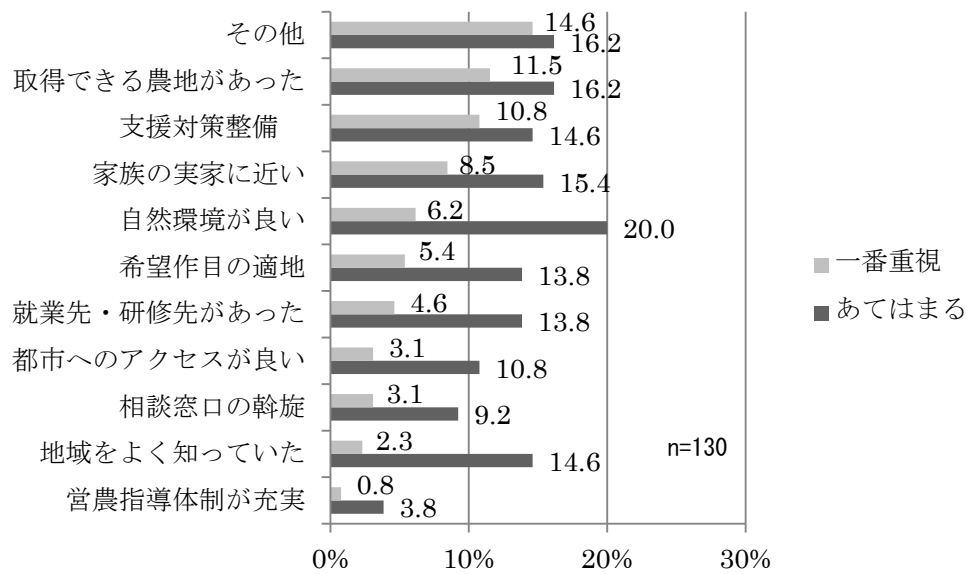


図7 地域選定理由

表4 地域選定理由 平成22年度新規参入調査との傾向比較

就農地域選定理由	独立就農女性調査 当てはまる %	22 新規参入調査 当てはまる %
支援対策整備	14.6	31.7
営農指導体制が充実	3.8	11.4
取得できる農地があった	16.2	46.8
希望作目の適地	13.8	24.7
都市へのアクセスが良い	10.8	14.4
自然環境が良い	20.0	33.5
地域をよく知っていた	14.6	27.1
相談窓口の斡旋	9.2	12.6
就業先・研修先があった	13.8	27.4
家族の実家に近い	15.4	30.0
その他	16.2	18.3
N. A.	7.7	-
回答者数	100.0	100.0

注) 独立就農女性調査では、あてはまるもの全て選択、平成22 新規参入調査では、あてはまるものを3つまで(順位づけ) 選択の回答である。

3) 就農先の生活環境

【問5-③ 就農先の生活環境については、何を重視しますか。あてはまるもの全てに○をつけて下さい。また、一番重視するものひとつに◎をつけてください。】

「防犯上安心できること」が最も多く、「あてはまるもの」が40.0%、一番重視するものが20.8%だった。これは、独立就農女性ならではの不安の裏返しであると考えられる。次いで多かったのが、「あてはまるもの」では、「買い物に不便でない」(33.8%)、「病院や医者などへのアクセス」(26.2%)の順であり、「一番重視するもの」では、「子育てに不便でない」(12.3%)、「隣近所と良好」(9.2%)、「病院や医者などへのアクセス」(9.2%)の順となっている。

「その他」は33回答あり、「自然環境が恵まれていること」、「住み続けたいと思えるか」、「農地が自宅近くに確保できること」、「日当たり、土」、「水はけ、掘って井戸水が出るか」、「畑と住宅の距離の近いこと」、「直売所など売りに行きやすいところ」、「出荷先、農協施設等が近いこと」、「周りに理解してくれる仲間がいること」等があげられている。

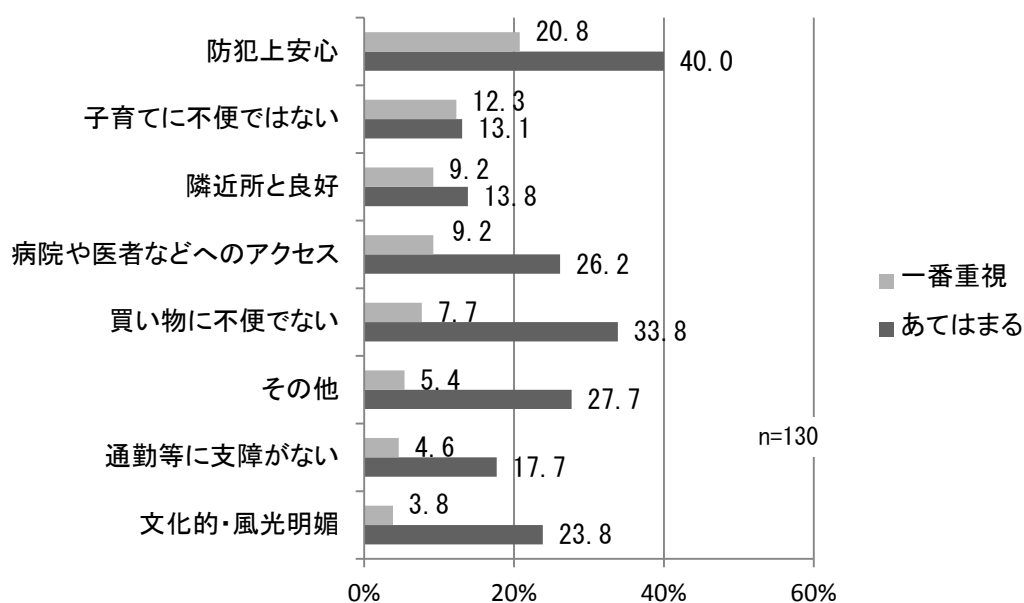


図8 重視する生活環境

4) 農地の状況

【問5-④農地について、所有地、借地の割合はおおよどれくらいですか。○を1つ付けて下さい。昨年1年間の実績でお答え下さい。】

農地の所有地と借地の割合をみると、「すべて借地」(66.2%)、「約7割が借地」(6.9%)をあわせて73.1%がほぼ借地経営であった。一方、「すべて所有地」(13.1%)、「約7割が所有地」(6.2%)をあわせて19.3%がほぼ所有地経営となった。

表5 所有借地の割合

	人数	%
すべて借地	86	66.2
約7割が借地	9	6.9
約5割が借地	2	1.5
約7割が所有地	8	6.2
すべて所有地	17	13.1
その他	6	4.6
N. A.	2	1.5
回答者数	130	100.0

5) 農地の確保ルート

【問5-⑤農地はどのようなルートから確保しましたか。○を1つ付けて下さい。】

農地の確保ルートは、その他以外では、「研修先からの紹介」(18.5%)、「友人・知人の情報」(17.7%)、「市町村や農協」(13.1%)、「就農相談機関から紹介」(10.8%)の順となった。研修先や友人・知人と言った、独立就農女性個人々々をよく知っているルートが多い傾向がうかがわれた。

また、「その他」が46回答あり、その内容をみると、「親が土地を所有」、「親の土地を相続」、「夫が相続」のように、姻戚関係によるもの、「夫が研修先農家の知人から紹介」、「子どもの学校関係の付き合いから」、「地域の方から頼まれて」、「ご近所さんからの紹介」のように日頃の付き合いによるもの、「農業委員からの紹介」、「市町村や農協が農地を用意」のように農業関係機関や農業委員などによるもの、「直接地権者を調べ交渉した」、「車で回って地主さんをお願いした」のように、独力で確保というように分類できる。

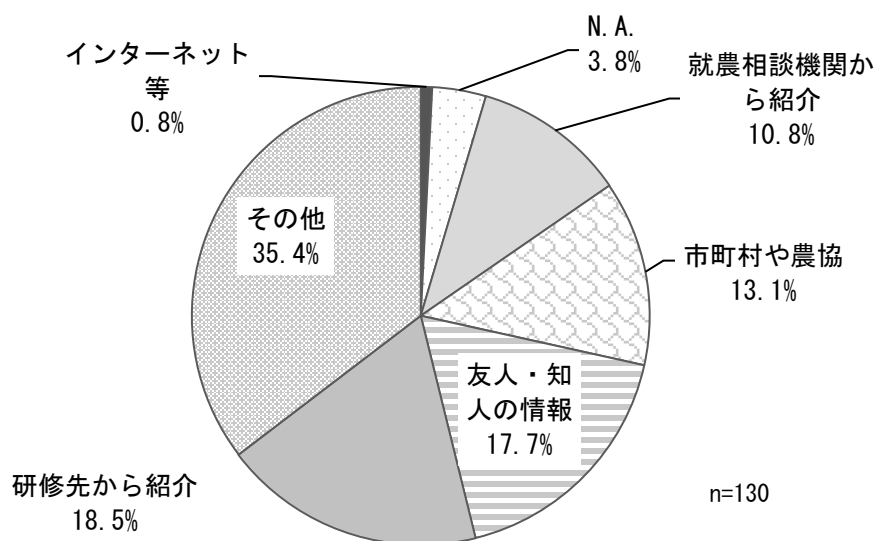


図9 農地確保ルート

6) 住居の確保ルート

【問5-⑥住まいの確保状況はいかがですか。○を1つ付けて下さい。】

住居の確保ルートは、その他以外では、「一般の空き家を借りた」(13.1%)、「新築した」(11.5%)、「民間のアパートを借りた」(10.0%)の順となった。

また、「その他」が44回答あり、その内容をみてみると、もともと「自宅」が15回答(11.5%)、「実家」が11回答(8.5%)、「夫の実家」「夫の家」が5回答(3.8%)などであった。

このことから住居の確保は、独立就農にともない、借家をしたのが49人(37.7%)で、購入したのが35人(26.9%)であった。一方「その他」の内容をみると、元々自宅や実家のある地域内で就農しているケースが多くあることがうかがわれた。

これを22年新規参入調査と比較してみると、「一般の空き家を借りた」(11.7%)、「民間のアパートを借りた」(11.5%)、「農家の空き家を借りた」(9.3%)など、借家をしたのが38.9%で、今回の独立就農調査の借家の率と類似しているとうかがわれた。一方購入の割合は、22年新規参入調査では、18.1%であるが、今回調査では、26.9%とやや高い傾向がみられた。

表6 住居の確保状況

	人数	%	22 新規参入調査 %
農家の空き家を借りた	9	6.9	9.3
農家の空き家を買った	9	6.9	6.3
一般の空き家を借りた	17	13.1	11.7
一般の空き家を買った	11	8.5	2.6
公営アパートを借りた	10	7.7	6.8
民間のアパートを借りた	13	10.0	11.5
新築した	15	11.5	7.2
その他	44	33.8	42.5
N. A.	2	1.5	-
回答者数	130	100.0	-

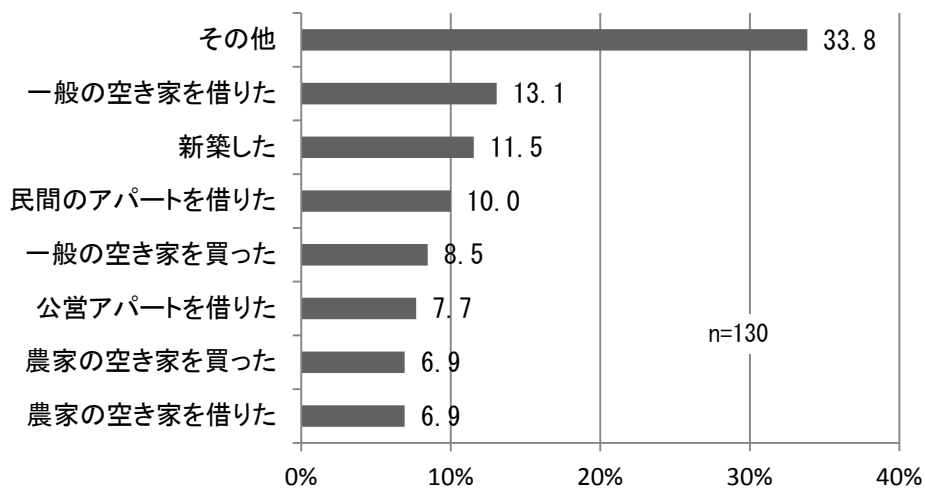


図 10 住居の確保状況

7) 就農までの苦勞

【問 5-⑦ 就農するまでに苦勞した点であてはまるもの全てに○をつけて下さい。

また、苦勞の一番大きいものひとつに◎をつけてください。】

就農するまでに苦勞した点で当てはまるものは、「営農技術の習得」(39.2%)、「資金の確保」(26.2%)、「農地の確保」(25.4%)の順であった。最大の苦勞を1つ選定した結果では、「農地の確保」(22.3%)が最も高く、次いで「資金の確保」(21.5%)だった。営農技術の習得は、多くの独立就農女性が苦勞しているものの各自の努力により一步一步習得していくことが可能である一方、最も苦勞するのは「農地の確保」や「資金の確保」の確保であることがうかがわれた。

「その他」は17回答あり、その内容をみると、「青年就農給付金手続きの市とのやりとり」、「就農計画等普及センターへ提出する書類の作成」、「働きながら就農の準備をしたこと」、「女性が就農することへの周囲の理解を得ること」などが記述されている。

これを22年新規参入調査と比較すると、「農地の確保」(64.3%)、「資金の確保」(54.5%)、「営農技術の習得」(49.7%)の順であり、いずれも苦勞の割合が高かった。

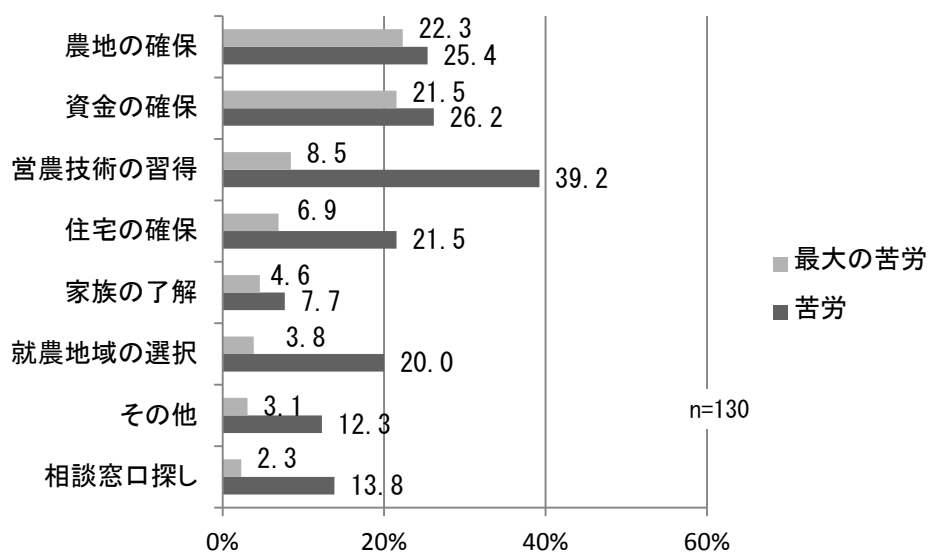


図 11 苦勞した点

表 7 就農するまでに苦勞した点

	最大の苦勞人数	%	苦勞人数	%	22 年新規参入 調査 %
相談窓口探し	3	2.3	18	13.8	20.3
家族の了解	6	4.6	10	7.7	20.3
就農地域の選択	5	3.8	26	20.0	23.3
営農技術の習得	11	8.5	51	39.2	49.7
農地の確保	29	22.3	33	25.4	64.3
資金の確保	28	21.5	34	26.2	54.5
住宅の確保	9	6.9	28	21.5	27.5
その他	4	3.1	16	12.3	12.3
N. A.	5	3.8	5	3.8	-
回答者数	130	100.0	130	100.0	-

注：平成 22 年新規参入調査では、就農時に苦勞したことを 3 つまでを順位付けして選択。
今回の独立就農女性調査では、あてはまるもの全てを選択とした。

8) 就農までの苦勞（男性との比較）

【問5-⑧あなたが女性ということで就農するまでに男性に比べて苦勞が多かったと思っ
たことがありますか。○を1つ付けて下さい。】

「思ったことはない」が66人（50.8%）で「思ったことがある」の50人（38.5%）より12ポイント上回った。「その他」は13回答あり、その内容は、「夫婦での就農のためわかりません」、「夫婦での就農だったため、就農するまでの苦勞は感じなかったが、2人それぞれ就農計画をたてるのが資金的に難しく、契約全てが夫の名前となり、同じ努力をしても女性の地位は低いと感じることが多々ある」、「農業も男社会で各種会合など女性の参加はほとんどなかった」などの声がある。

表8 女性の方が苦勞多い

	人数	%
思ったことがある	50	38.5
思ったことはない	66	50.8
その他	13	10.0
N. A.	1	0.8
回答者数	130	100.0

9) 就農までの苦勞（女性の方が苦勞と思った理由）

【問5-⑨前問で「思ったことがある」と答えた方に伺います。それはどのようなことですか。あてはまるもの全てに○をつけて下さい。】

女性ということで就農するまでに男性に比べて苦勞が多かったと思っ
たことがあると答えた50人に対し、その内容を聞いたところ、「体力的に自信がない」（58.0%）、「好奇の目でみられた」（36%）、「関係機関の発言」（24.0%）の順となった。「その他」は20回答あり、その内容を抜粋すると、「女性が独立就農は無理だと言われた」、「女性が一人で農業することは大変だから止めた方がいいと相談窓口や関係機関の担当者から反対された」など同様の発言が数例、『『農家に嫁に行け』と様々な人に言われた』『関係者からのセクシャルハラスメント』など同様の発言が数例、「お腹に子どもがいたので高所作業が難しかった」、「農機具が使えない」、「農業の窓口は全て通帳も夫の名前で、自分は常に表に出ないような感じがする」などであった。就農意欲を削ぐような独立就農女性への冷たい否定的な発言や農村に残る男性優位の慣習が浮かび上がっている。

なお、全体的にみれば、「女性の方が苦勞が多いと思っ
たことはない」が50.8%と多数を占めていることを念頭に置く必要がある。また、全体の130人を分母としてみれば、「体力的に自信がない」（22.3%）、「好奇の目でみられた」（13.8%）、「関係機関の発言」（9.2%）の順となる。

表9 就農苦勞の内容

	人数	% * 1	% * 2
親や親戚の反対	6	4.6	12.0
関係機関の発言	12	9.2	24.0
体力的に自信がない	29	22.3	58.0
農地を賃貸、売買しない	2	1.5	4.0
住宅を賃貸、売買しない	0	0.0	0.0
資金を女性に貸さない	3	2.3	6.0
好奇の目でみられた	18	13.8	36.0
その他	20	15.4	40.0
N. A.	1	0.8	2.0
回答者数	130	100.0	100.0

注：* 1の構成比は回答者全体 130 人を分母とした。

* 2の構成比は非該当を除く 50 人を分母とした。

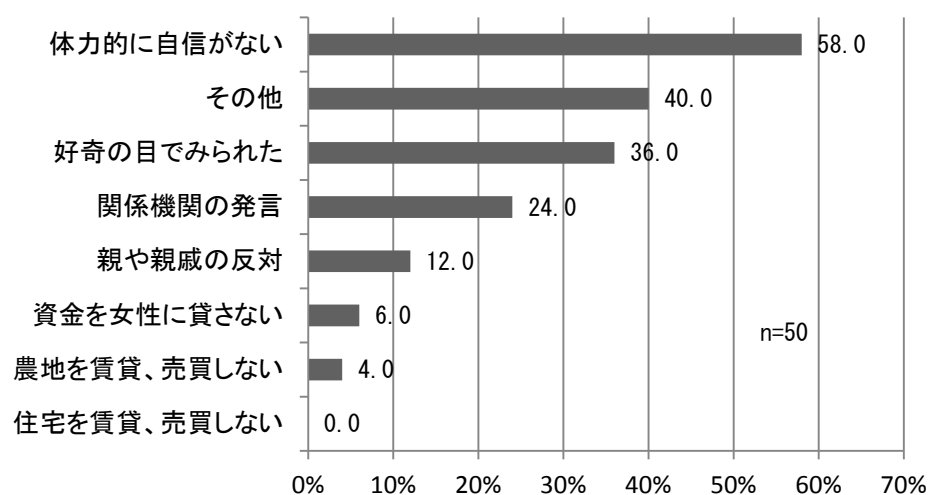


図12 就農苦勞の内容

10) 就農までの苦勞の対処法（女性の方が苦勞と思った方への自由記入）

【問5-⑩前々問で「思ったことがある」と答えた方に伺います。就農するまでに大変だと思ったことを、あなたはどのようにして対処・工夫しましたか。主なことを具体的に記述して下さい。】

「女性の方が苦勞と思った」と回答した50の方のうち自由記入は45回答あった。

これは、本調査有効票130人のうち、(34.6%)である。

内容は、関係機関との対応、体力面、知識技術面等があげられている。若干抜粋し記載する。詳細は、巻末統計表参照。

- ・公の場に行く時は、男性（夫）と一緒に行くようにしている。土地を新規で借りる場合等も。
- ・機械等の改修、力仕事で困った。研修先の先生や知人に聞きアドバイスをしてもらった。
- ・反対されたことに関しては押し切りました。
- ・体力的に一人では出来ないことは周りの方々に手伝ってもらったり業者に頼んだりしました。
- ・どうでもいい人にはニコリ笑って「そうですね～」と流した。そうでない人にはなぜ「自分」が就農したのかを正直に筋道を立てて説明したらわかってもらえたと思う。体力面に関しては作物を軽いものにし、大型の機械や設備を導入しなくてもいい栽培法を選んだ。
- ・技術的な面は研修を受け入れて下さった農家さん、県の職員さん(普及員さん)、研修で出会う事が出来た方々に聞きまわりました。資金面は夜、アルバイトをして一定の生活費、貯金をしました。
- ・その地域は頼れる農家さんに相談し、その人を通じて農地を貸してくれそうな方の所へ挨拶に言ってもらったりした。具体的に農業を始めるにあたりシュミレーションするのに農家さんにいろいろ質問したりした。
- ・結婚しないと前に進まないと思ったので自分の考えを理解して同じ目的をもってやっていけそうな価値観を持った人と結婚した。
- ・地域の農業委員から、途中で投げ出して周りに迷惑をかけられたら困るので、ここで就農しないでくださいと言われた。そこで実績を作り周りに認めてもらう事が大事だと思い、畑をよく手入れし、新植した苗木の生育に注力した。

表 10 就農苦勞の対処方法

	人数	%
回答	45	34.6
無回答	4	3.1
非該当	81	62.3
回答者数	130	100.0

11) 就農にあたり男性より良かった点

【問5-⑪あなたが女性ということで就農にあたり男性に比べて良かった点がありますか。○を1つ付けて下さい。】

「男性に比べて良かった点がない」(35.4%)、「男性に比べて良かった点がある」(33.8%)とほぼ同率であり差がない。また、「男性、女性の違いはない」(23.8%)だった。

表 11 1 就農男性より良かった点

	人数	%
ある	44	33.8
ない	46	35.4
男性、女性の違いはない	31	23.8
その他	4	3.1
N. A.	5	3.8
回答者数	130	100.0

12) 就農にあたり男性より良かった点の内容

【問5-⑫前問で「ある」と答えた方に伺います。それはどのような点ですか。思い起こして記述して下さい。】

「男性に比べて良かった点がある」と回答した44人のうち自由記入は42回答あった。

これは、本調査有効票130人のうち、(32.3%)である。

内容は、人の記憶に残りやすい、周りの人がやさしい、販売面で有利等があげられている。若干抜粋し記載する。詳細は、巻末統計表参照。

- ・草取りや束ねたりする細かい作業は男性よりも女性の方が向いていると思う。直売所の出荷時のラッピング等も男性よりもセンスがあると思う。
- ・女性ならではの見方で販売方法を考えられる。たとえばラベルのデザインや店頭のディスプレイ。箱売りギフトの提案。加工についてもいろいろ試作、検討できる。
- ・女性ということで注目度が高く、色んな人が自分を覚えていてくれたり、話題に取り上げてくれたりするおかげで、少しずつ顧客が増え、信用が上がってきました。
- ・農村は人の流動が少ないので珍しがられて、おじさん達に興味を持たれて気さくに話かけられた。栽培方法などいろいろ教えてもらった。
- ・女性ということで周りの皆様に気にかけていただいている部分が相当あると思います。不用な資材をいただき、農地の紹介などして頂きました。目立ってしまうことを生かし、赤い服を着て作業しています。話しかけてくださる方も多いです。
- ・近所のおばさん達が「女ひとりでよう頑張るとるわ」と励ましてくれ、立ち上げの時、初収穫で、てんてこまいしてたら、パートに来てくれた(安い賃金で)女性の応援は大きい。

6 農業経営の状況

1) 経営作目

【問6-①経営している作目を次から選んで、あてはまるもの全てに○をつけて下さい。また、販売金額が一番大きいものひとつに◎をつけてください。】

経営作目は、露地野菜（34.6%）が最も多く、次いで施設野菜（23.8%）、雑穀・いも・豆類（20.8%）、稲作（15.4%）の順となっている。

販売金額の一番大きい作目の順は、施設野菜（22.3%）がトップで、次いで露地野菜（20.0%）、果樹（7.7%）の順となっている。

このように、独立就農女性の経営作目では、直売などで収入を得やすく、農地面積が大きなくても、作付け回数を増やすことで経営面積が確保できる露地野菜、施設野菜を経営作目にしていることがうかがえる。また、販売の主力ではないが、農地の利用や自給農産物の観点から、雑穀・いも・豆類や稲作を行っていると思われる。

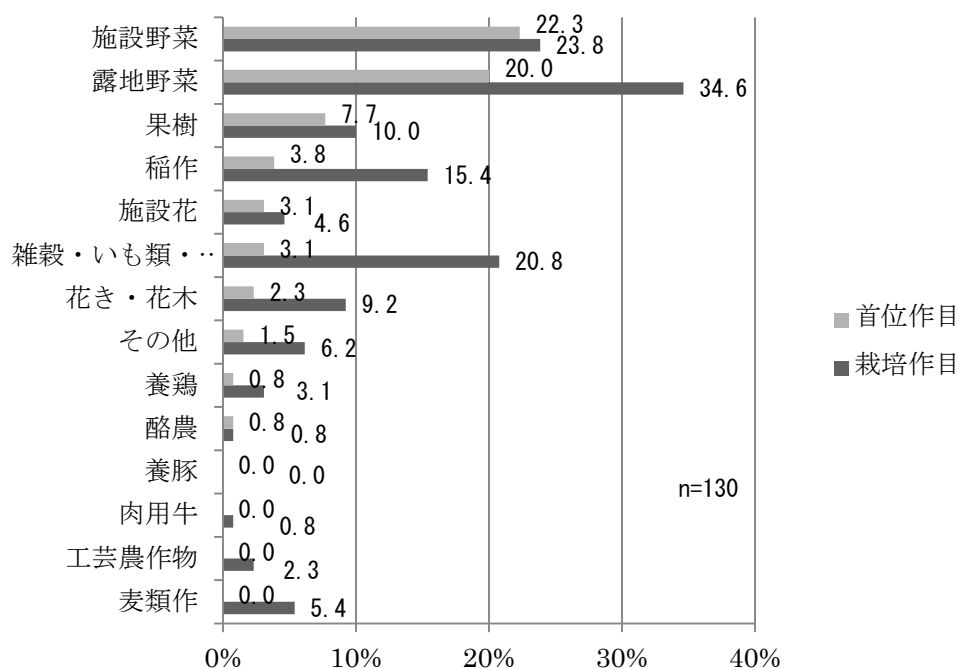


図13 経営作目

2) 経営作目

【問6-②経営規模と施設面積、のべ作付け面積はおよそどれくらいですか。昨年1年間の実績でお答え下さい。】

水田の農用地面積を記載したのは、31人であり、4アールから30ヘクタールまでの範囲で分布している。

畑地の農用地面積を記載したのは、77人であり、1.9アールから37ヘクタールまでの範囲で分布している。

樹園地の農用地面積を記載したのは、19人であり、2.4アールから13ヘクタールまでの範囲で分布している。

施設の農用地面積を記載したのは、60人であり、2㎡から1.2ヘクタールまでの範囲で分布している。

3) 農業従事状況

【問6-③農業はいつもどなたと行っていますか。あてはまるものを全て選んで下さい。】

一緒に従事している割合が、圧倒的に多いのが夫で59.2%、次いで親が20.8%、期間雇用が16.2%だった。一方、自分のみは17.7%だった。

夫婦で農業に従事しているケースが半分以上を占め、更に、親が関わり、時に期間雇用を入れて農業経営を行っていることがうかがわれる。

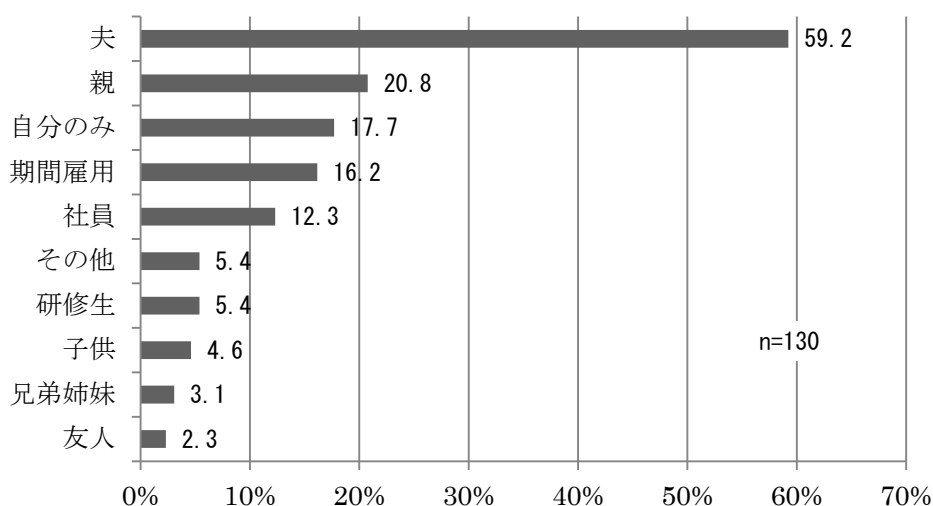


図14 農業従事者

4) 農業経営スタイル

【問6-④農業経営のスタイルについて当てはまるものに○を1つ付けて下さい。】

「自分一人で経営」が36.9%と最も多く、「夫が主で自分は従事」の経営が、27.7%、「自分と夫で共同経営」が17.7%となっている。

「その他」が16回答あり、その内容をみると、「両親」、「自分と息子」、「自分と親と姉」、「自分と祖母」、「自分が経営主で夫が協力」、「自分が経営主で夫、雇用人がいる」などであり、家族関係を活かした経営が行われている。

このように、独立就農女性が単独で農業経営主である経営が36.9%と3分の1強を占めており、夫との共同経営も含めると71人(全体の54.6%)の経営において独立就農女性が経営の中心にあり、更にその他の内容も独立就農女性が経営主のケースもみられることから、経営主あるいは共同経営主の独立就農女性は6割近いと推察できる。

また、経営スタイルと就農年数のクロス集計の結果では、「自分一人で経営」と「自分と

夫で共同経営」が「就農5年未満」の方が「就農5年以上」よりも割合が高くなった。「夫が主で自分は従事」では逆の傾向だった。

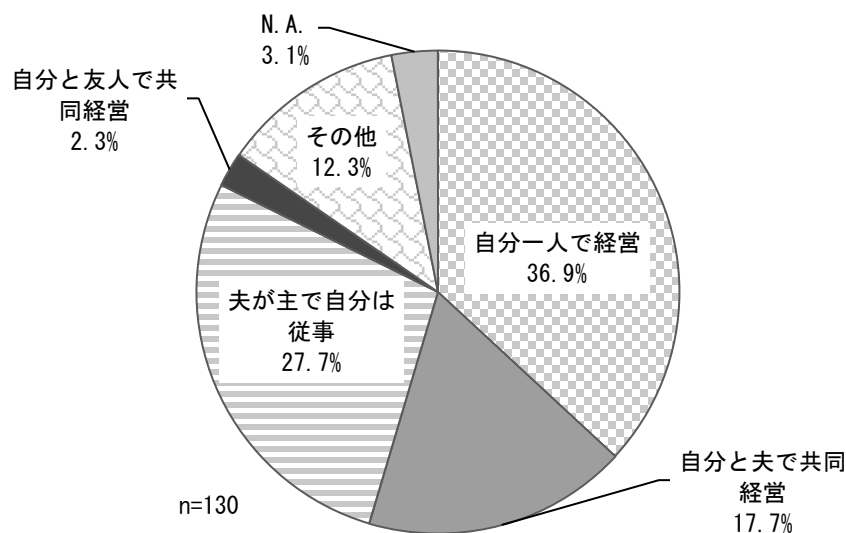


図 15 経営のスタイル

表 12 経営スタイルと就農年数のクロス表

		就農年数		合計
		5年未満	5年以上	
自分一人で経営	人数	32	16	48
	%	66.7%	33.3%	100.0%
自分と夫で共同経営	人数	14	9	23
	%	60.9%	39.1%	100.0%
夫が主で自分は従事	人数	14	22	36
	%	38.9%	61.1%	100.0%
自分と友人で共同経営	人数	0	3	3
	%	0.0%	100.0%	100.0%
その他	人数	9	7	16
	%	56.3%	43.8%	100.0%
合計	人数	69	57	126
	%	54.8%	45.2%	100.0%

5) 経営内役割

【問6-⑤あなたの経営内での役割であてはまるもの全てに○をつけて下さい。】

経営において果たしている役割は、ほぼ全員が「農作業・飼育管理」(93.1%)を行っており、次いで「出荷・販売」(86.2%)、「事務・経理」(75.4%)の順となっている。「その他」は、「ネットでの配信」、「ポップアップやラベルなどの販促ツール作り」等がある。

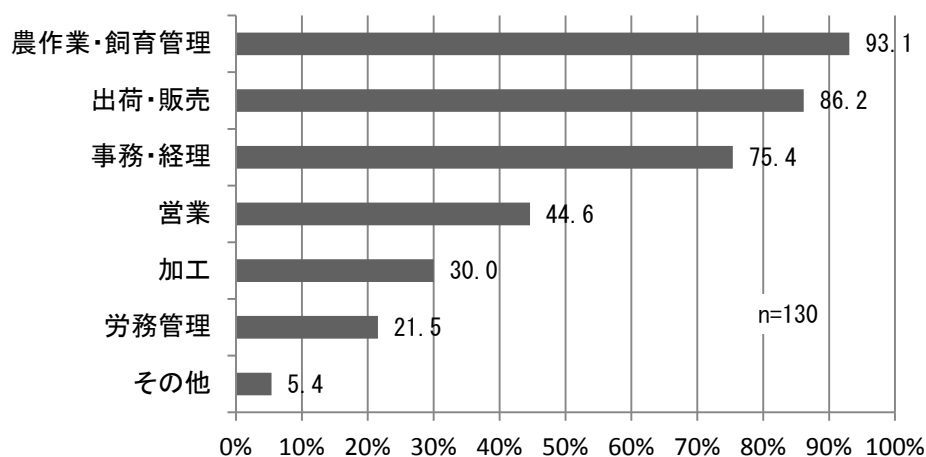


図16 経営内役割

6) 多様な農作業外活動

【問6-⑥農作業や飼育管理の他に次のことを実施していますか。あてはまるもの全てに○をつけて下さい。】

70.8%の経営で「直売・直販」に取り組んでおり、「ホームページ作成」は33.8%、「農畜産物加工」は23.1%、「農業体験」は22.3%が取り組んでいる。

独立就農女性の販売先として顔が見え、自ら値決めできる「直売・直販」をかなり重視していることがわかる。また、ホームページ作成にも力を入れているがインターネット販売は16.2%に留まっている。

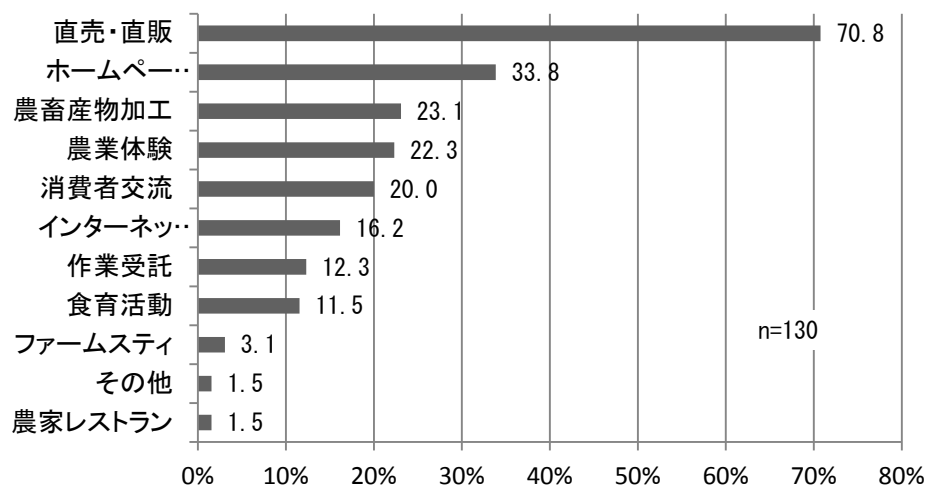


図17 多様な農作業外活動

7) 年間売上高

【問6-⑦年間の売上高（農産加工等を含む）はおよそどのくらいですか。○を1つ付けて下さい。】

年間売上高は、割合の多い順に、300～500万円が最も多く17.7%、50万円未満が13.8%、100～200万円が13.1%となっている。一方、1,000万円以上は、16.9%と経営を伸ばしているケースもみられる。

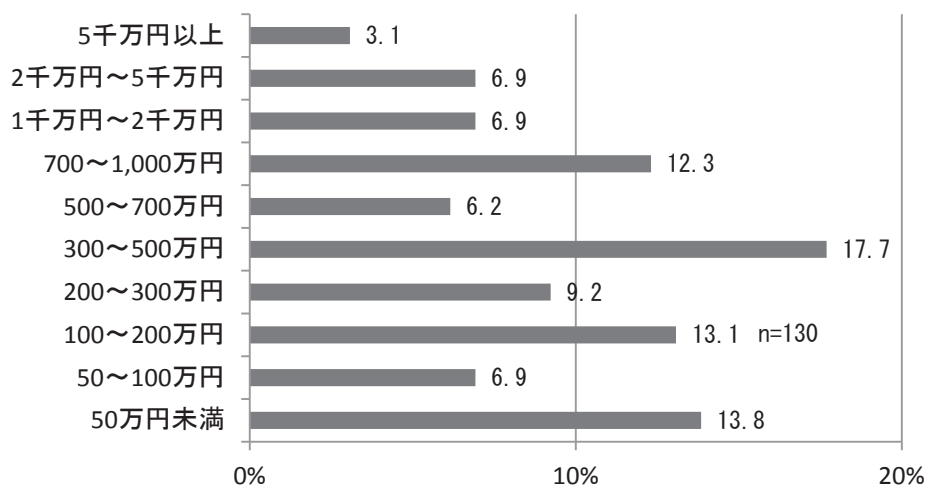


図18 売上高

8) 年間農業所得

【問6-⑧年間の農業所得（農産加工等を含む）はおよそどのくらいですか。○を1つ付けて下さい。】

年間農業所得は、割合の多い順に、50万円未満が30.0%と最も多く、次いで、100～200万円が23.1%、50～100万円が13.1%となっている。

以上のように、年間農業所得200万円以下が66.2%と全体の3分の2を占めており、独立就農女性の農業所得水準はかなりが厳しいことがうかがえる。

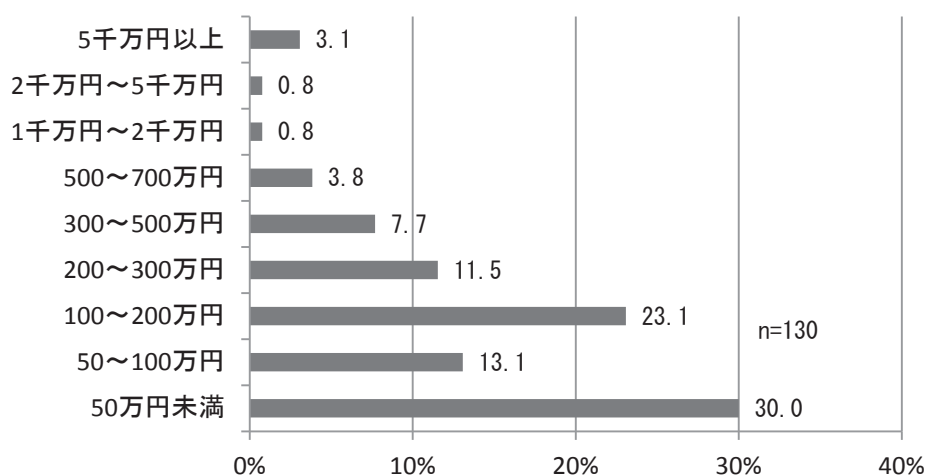


図19 農業所得

9) 休日の取り決め

【問6-⑨休日は、取り決めがありますか。○を1つ付けて下さい。】

休日が決まっていない経営は全体の65.4%と最も多く、次いで週休一日制が11.5%、天候の悪い時が10.8%となっている。「その他」は13回答あり、その内容は、「農繁期は週休1日、閑散期は週休2日」、「平日の週に半日と日曜の午後」、「冬期は休み。雪のためほとんど出来ない」などの記述がある。

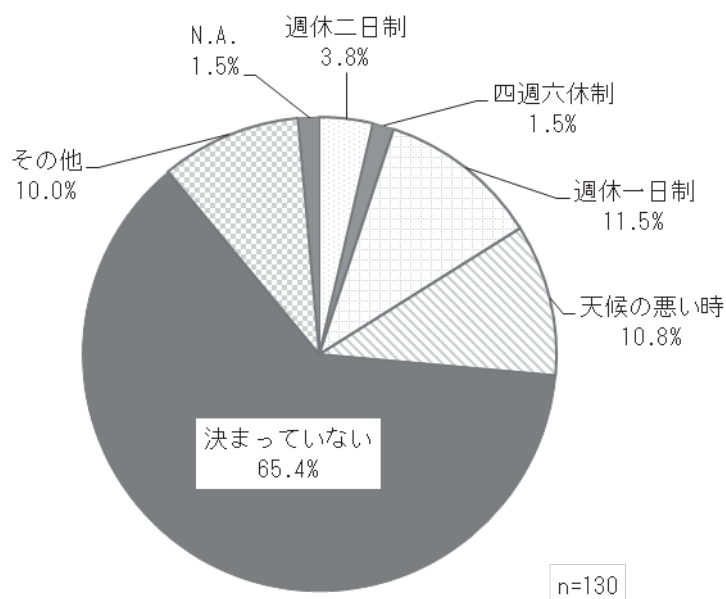


図20 休日

10) 農業経営上の苦勞

【問6-⑩農業経営上で苦勞している点の全てに○をつけて下さい。また、苦勞の一番大きいものひとつに◎をつけてください。】

農業経営上で苦勞している点で当てはまるものは、「所得が少ない」(36.9%)、「農業機械が高い」(36.9%)が共に最も高く、次いで「資材費が高い」(34.6%)の順であった。最大の苦勞を1つ選定した結果では、「所得が少ない」(29.2%)が最も高く、次いで「人手が少ない」(7.7%)と「栽培飼養技術の未熟さ」(7.7%)が同率だった。前々問で農業所得50万円未満が3割を占めていることから分かるように、「所得が少ない」苦勞が際だって高く、所得を上げるためには、農業機械の高さや資材費の高さに悩み、また、適期適作業の人手や技術の未熟さにも困っている様子がみえる。このことが、高品質生産や有利販売に結びつかず、所得向上につながらないジレンマとなっていることが推察される。

「その他」は21回答あり、その内容は、「獣害」、「果樹なので収益が上がるまで年数がかかる」、「妊娠出産中の経営難」、「農作業と子育ての両立」などの声がある。

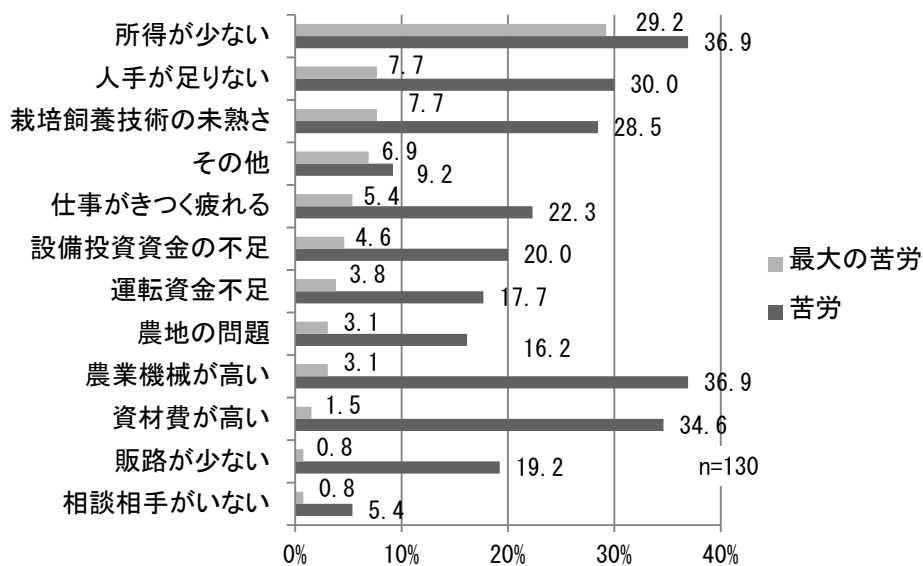


図 21 経営上の苦勞

11) 経営改善方向

【問 6 - ⑪農業経営をよくするために今後何に取り組もうと思っていますか。あてはまるもの全てに○をつけて下さい。また、一番重要なものひとつに◎をつけてください。】

経営改善のために取り組みたい内容の割合の高い順にみると、「他産業・異分野との連携」(79.2%) が最も高く、次いで「直売など販路の拡大」(33.1%)、「農産加工」(26.9%)、「コスト削減」(同%) である。一番重要な取組としては、「栽培飼養技術の向上」(19.2%)、「他産業・異分野との連携」(13.8%) である。

経営改善のため、「他産業・異分野との連携」に取り組みたいとする意欲の高さがうかがわれた。

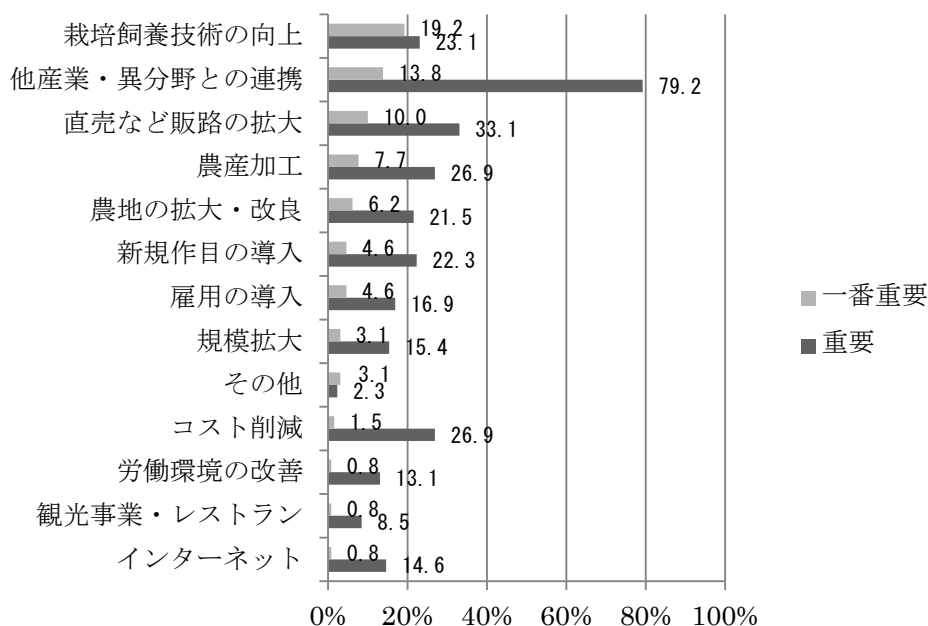


図 22 経営改善の方向

12) 農業経営の苦勞（女性の方が大変）

【問6-⑫あなたが女性ということで男性に比べて農業経営を行う上で大変だったと思ったことがありますか。○を1つ付けて下さい。】

「思ったことがある」が78人（60.0%）で「思ったことはない」の45人（34.6%）を25.4ポイント上回った。

これは、問5-⑦の「就農までの苦勞」では、「思ったことはない」（50.8%）が「思ったことがある」（38.5%）を12ポイント上回ったのと比較すると、大きく異なっている。6割の独立就農女性が男性に比べて農業経営を行う上で大変と思っている事実は、就農までの苦勞よりも就農後の農業経営において、男性よりも大変である状況が推察される。

また、農業経営の苦勞を就農年数別にクロス集計によりみてみると、「思ったことがある」は、就農5年未満と5年以上で違いがなく、就農年数に関わらず、女性の方が男性に比べて農業経営が大変だと思っていることがわかる。一方、「思ったことはない」は、やや「5年未満」の方が「5年以上」より多かった。

表13 農業経営の苦勞（女性の方が大変）

	人数	%
思ったことがある	78	60.0
思ったことはない	45	34.6
その他	3	2.3
N.A.	4	3.1
回答者数	130	100.0

表14 農業経営の苦勞（女性の方が大変）と就農年数のクロス表

		就農年数		合計
		5年未満	5年以上	
思ったことがある	人数	40	38	78
	%	51.3%	48.7%	100.0%
思ったことはない	人数	26	19	45
	%	57.8%	42.2%	100.0%
その他	人数	2	1	3
	%	66.7%	33.3%	100.0%
合計	人数	68	58	126
	%	54.0%	46.0%	100.0%

13) 農業経営の苦勞（女性の方が大変）

【問6－⑬前問で「思ったことがある」と答えた方に伺います。それはどのようなことですか。あてはまるもの全てに○をつけて下さい。また一番大変だったものひとつに◎をつけてください。】

女性ということで男性に比べて農業経営を行う上で大変だったと思ったことがあると答えた78人に対しその内容を聞いた。その結果、割合の高い順に「体力的に力が弱い」(29.6%)、「トイレがない」(同%)、「農業機械があわない」(25.6%)、「日焼けなど美容面で心配」(20.7%)の順となった。

また、一番大変だった内容は「体力的に力が弱い」(32.5%)が際だって高くなった。「その他」は「大変」と「一番大変」をあわせると21回答あり、その内容を抜粋すると、「育児・主婦業との両立」、「農作業をフルにしても家事もあること」、「夫と同じ時間帯で同じ作業をし、帰宅してから夕食の準備をすること」など、女性の方が農業に加え家事、育児に振り回されている様子の記述や、「出産前後でも同じように仕事をしなければならない」、「妊娠中に赤ちゃんが農薬の影響を受けないか」など妊娠出産に関する記述、「機械類の調整や修理などがわからない」、「農業者同士の交流も男性主体で女の人は交流がない、孤独」との記述もあった。

以上のような農業経営において男性に比べ大変だと思っているそれぞれの内容は、独立就農女性の切実な声であり、真摯に受け止め、改善の手立てを講じていくことが求められる。

なお、全体の130人を分母としてみれば、大変だった内容の高い順に「体力的に力が弱い」(23.1%)、「トイレがない」(同%)、「農業機械があわない」(20.0%)、「日焼けなど美容面で心配」(16.2%)となった。このように、独立就農女性全体でみても4人に一人か5人に一人がこのような大変さを抱えて農業経営をおこなっていることが浮かび上がった。

表15 経営苦勞の内容

	一番大変 人数	%*1	%*2	大変 人数	%*1	%*2
体力的に力が弱い	33	25.4	32.5	30	23.1	29.6
農業機械があわない	5	3.8	4.9	26	20.0	25.6
同世代の女性がない	1	0.8	1.0	15	11.5	14.8
トイレがない	3	2.3	3.0	30	23.1	29.6
日焼けなど美容面で心配	6	4.6	5.9	21	16.2	20.7
男性の雇用者を採用しづらい	2	1.5	2.0	6	4.6	5.9
資金が借りられない	0	0.0	0.0	6	4.6	5.9
農地が借りられない	1	0.8	1.0	6	4.6	5.9
その他	7	5.4	6.9	14	10.8	13.8
N. A.	4	3.1	3.9	4	3.1	3.9
回答者数	130	100.0	100.0	130	100.0	100.0
注：*1の構成比は回答者全体130人を分母とした。 *2の構成比は非該当を除く78人を分母とした。						

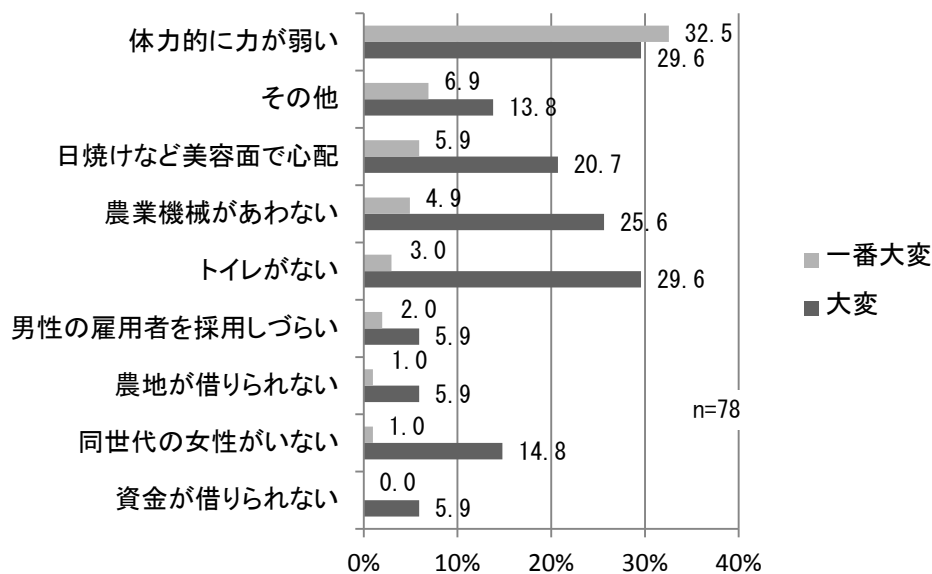


図 23 経営苦勞の内容

14) 農業経営の苦勞の対処法（女性の方が大変と思った方への自由記入）

【問 6 - ⑭前々問で「思ったことがある」と答えた方に伺います。農業をやっていて大変だと思ったことを、あなたはどのようにして改善・工夫しましたか。主なものを具体的に記述して下さい。】

「女性の方が大変と思った」と回答した 78 人のうち自由記入は 73 回答あった。これは、本調査有効票 130 人のうち、(56.2%) である。

内容は、体力的な面、生理的な面、役割分担の面等である。生理的な面では、トイレに関する記述が 12 回答あり、トイレが大変と思っている女性が多くいることがうかがわれる。若干抜粋し記載する。詳細は、巻末統計表参照。

体力的な面

- ・体力的に大変なことは周りの方々に手伝ってもらおう。
- ・なるべく女性でも使いやすい機械を選ぶ。
- ・筋力の差は埋められないので軽い作業を選び、負担にならない栽培法を模索した。体力はあって当然と思われる世界なので体調管理に細心の注意を払う。(休養はきちんと取る。食事に気を付ける。深酒はしないなど)
- ・体が体格的に不利な点については頑張れるということは頑張りますがダメなときは夫に任せます。向いている仕事、出来る仕事をそれぞれやればよいと考えます。
- ・資格を取る（大型特殊、牽引、リスト、農業機械など）野菜ソムリエなどの専門的なことなどの知識などの勉強をしたい。

生理的な面

- ・生理日は思いっきり休みにする。
- ・トイレは圃場の片隅で人目がないときにさっとすませる。日焼け止めはいくら塗っても汗を拭いたら落ちる。ひらきなおって小麦色の肌を自慢する。
- ・トイレは近くのコンビニを利用。
- ・トイレは近いうちに設置を考えています。今は近場のスーパーや自宅に帰ったりしています。
- ・日焼けはUVカットクリームや長袖長ズボンを着用して防ぐようにしています。
- ・トイレは近所の公園を利用させてもらい、時にはハウス内で用を足すこともあります。それくらいできないと続けられないと思います。
- ・トイレはゴム長をはきかえ近くのコンビニへ。

役割分担の面等

- ・夫婦経営協定をむすび役割をはっきりさせたら気持ちが少しすっきりした
- ・家事・育児の為に農作業時間が限られるので家で夜に出来る事務作業は自分がして早朝に短時間だけま
ず畑へ行って作業する。
- ・夫と相談し作業時間を減らしてもらいたい、家事も労働として考えてもらうように変更した。夫よりも早く帰宅し、夕食の準備を以前より早く始めることができ、体力的にも負担が減りよかった。

表 16 経営苦勞の対処法

	人	%
回答	73	56.2
無回答	5	3.8
非該当	48	36.9
N. A.	4	3.1
回答者数	130	100.0

15) 農業経営にあたり男性より良かった点

【問6-⑮あなたが女性ということで農業をやっている男性に比べて良かった点がありますか。○を1つ付けて下さい。】

「男性に比べて良かった点がある」(38.5%)、「良かった点がない」(21.5%)と、良かった点があると答えた方が17ポイント上回った。前問で明らかになったように、農業経営において男性よりも大変だと思うところがある反面、男性よりも良かった点もあることがうかがえる。

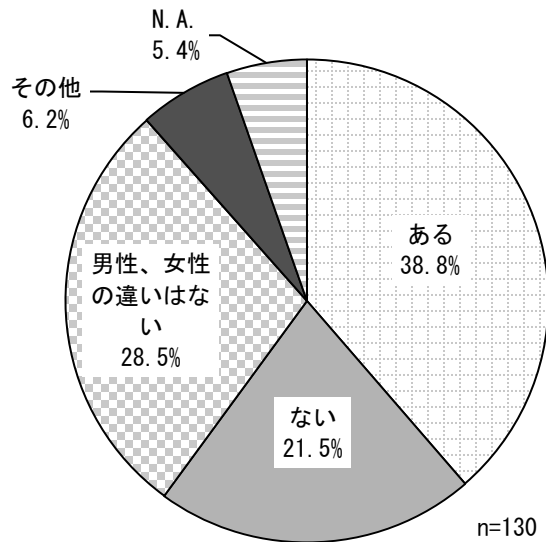


図 24 経営男性より良かった点

16) 農業経営にあたり男性より良かった内容

【問 6-⑩前問で「ある」と答えた方に伺います。それはどのような点ですか。思い起こして記述して下さい。】

「男性に比べて良かった点がある」と回答した 50 人のうち自由記入は 50 回答あった。これは、本調査有効票 130 人のうち、(38.5%) である。

内容は、目立つので覚えてもらいやすい、消費者ニーズがわかる、調理法などのコミュニケーションを図れる等があげられている。若干抜粋し記載する。詳細は、巻末統計表参照。

- ・珍しいので覚えてもらいやすい。気を使ってもらえるのかキツイ厳しいことは言われたことがない。女性が食に関わっているということでイメージアップが図れる。
- ・人との接触の仕方に男性よりも柔らかさがあるのではないかと思う。近隣の方々が惣菜などを持ってきてくれて夕飯に食べたらと優しくしてくれる。
- ・女性の方が食べ物（農産物）への関心が高いため、私の友人知人の多くが注文、購入をしてくれている。
- ・以前研修時に店頭販売等お客様と直接交流する機会がありました。野菜を購入して下さる大半は女性なので、同性どうし話しかけやすいと言われた事があります。
- ・お客様の大半が女性の方なので、コミュニケーションがとりやすい部分がある。また、お客様の立場に立った商品作りがしやすい

7 農村での生活状況

1) 農村生活で苦勞している内容

【問7-①農村生活で苦勞している点を3つ選び○を付けて下さい。】

農村生活で苦勞している点は、「買い物不便」(20.8%)、「生活費が足りない」(同%)、「同世代の友人がいない」(17.7%)、「よそ者に見られてしまう」(同%)、「病院が遠い」(16.9%)の順となっている。

「その他」は、28回答あり、その内容を抜粋すると、「学校、幼稚園が遠すぎる。子どもの遊び相手がない」、「同世代の農業人がいない」、「地域に入りきれない」などの記述があった。

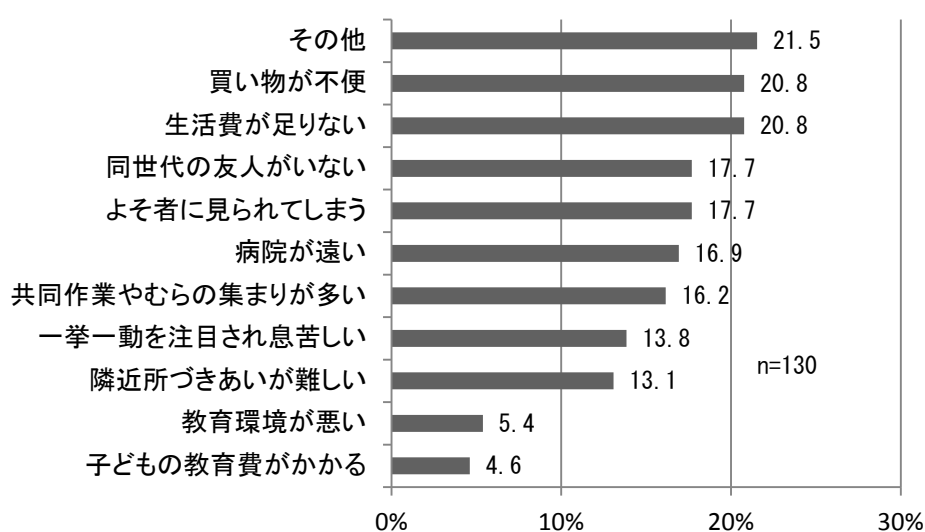


図25 生活の苦勞

2) 農村生活で苦勞している点の改善・工夫

【問7-②前問で「苦勞している点」を、あなたはどのようにして改善・工夫していますか。前問で選んだ点について具体的に記述して下さい。】

本調査有効票130人のうち、80人(61.5%)の自由記入をいただいた。

内容は、買い物、子育て、近所付き合いなどに関するもの等に分けられる。若干抜粋し記載する。詳細は、巻末統計表参照。

買い物・生活費

- ・インターネットを利用し届けてもらう。
- ・買い物はまとめて購入し、病院は行きつけの所をなるべく近くで探します。
- ・生活費が足りないので少しでも収入をあげるため加工品を工夫して出したり野菜や花苗など、直売で売れそうなものを育てたりするよう努めている。
- ・生活費に関しては、できるだけ自給する。アルバイト等による補足。

近所付き合いなど

- ・ムラ社会の為、都会の感覚でいると知らぬ間に問題を起こしてしまう。あいさつをしっかりしてムラの仕事には積極的に参加している。
- ・「一挙一動を注目され息苦しい」は、注目してもらえると、とらえて前向きに取り組んだ。見ている人が元気もらえた！となるよう一生懸命頑張ろうかと思うようになった。
- ・自ら積極的に行動、地域のルールをきちんと受け入れる。経営内容で結果をだし認めてもらう。あとは時間をかけて解決。
- ・共同作業等は改善しようがない。田舎は同居が多く、地元の人には年寄りが出る、若者が出ると分担できるが、私は核家族なため、全て参加せねばならずその分農作業休まないといけない。

3) 農村生活で良かった点

【問7-②前問で問7-③農村生活で満足している点や充実している点など住んで良かったと思っている点を3つ選び○を付けて下さい。】

回答割合の高い順に、「自然環境が良い」(66.9%)、「新鮮な農畜産物の入手」(53.8%)、「家族と一緒に過ごせる」(40.0%)となっており、前問で買い物など不便を感じつつも、自然環境の良さや新鮮な農畜産物など農村の良さを味わう暮らしをしていることがうかがえる。

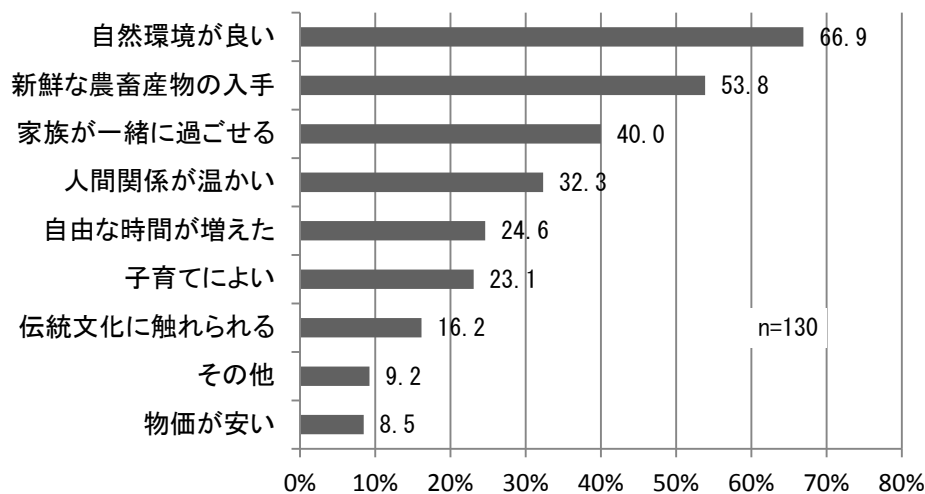


図 26 生活満足の内容

8 家庭の様子

1) 同居家族の人数

【問8-①同居家族は何人ですか。】

「2人以下」が約半数の48.5%と最も多く、次いで「3～4人」の34.6%、「5～6人」の10.0%となっている。

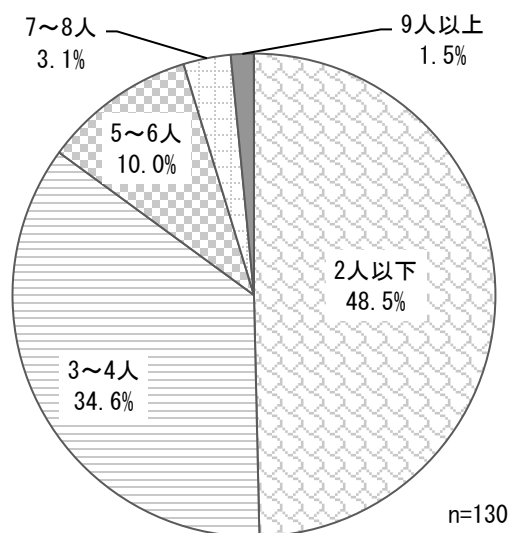


図 27 家族人数区分

2) 配偶者の有無

【問8-②あなたには配偶者（夫）がいますか。】

「配偶者がいる」が73.1%、「いない」が25.4%であった。このことから、独立就農女性は、配偶者と共に新規参入しているケースとそうないケースがほぼ3対1の割合であった。

これを、就農年数別にクロス集計したところ、配偶者が「いる」内、就農5年未満と5年以上ではほぼ同数で差がなかった。一方「いない」場合は、就農5年未満の方が多かった。

表 17 配偶者有無

	人数	%
いる	95	73.1
いない	33	25.4
N. A.	2	1.5
回答者数	130	100.0

表 18 配偶者有無 と就農年数のクロス表

		就農年数		合計
		5年未満	5年以上	
いる	人数	49	46	95
	%	51.6%	48.4%	100.0%
いない	人数	20	13	33
	%	60.6%	39.4%	100.0%
合計	人数	69	59	128
	%	53.9%	46.1%	100.0%

3) 家事の従事状況

【問8-③家事はどうしていますか。(あてはまるもの全てに○をつけてください)】

「ほとんど自分」の割合が最も高く51.5%、次いで「自分と他の家族で分担」が36.2%であった。

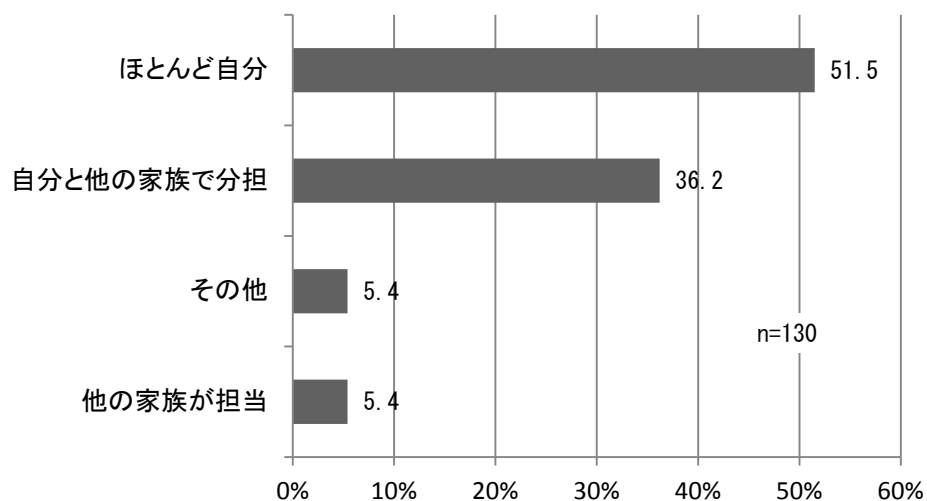


図 28 家事従事状況

4) 未就学児童の有無

【問8-④あなたの家では、未就学児童（小学校に入学前のお子さん）がいますか。】

未就学児童が「いる」が 70.8%、「いない」が 25.4%であった。このことから、農業経営を行いながら7割の女性が子育て真っ最中の状況がうかがえる。

表 19 未就学児童有無

	人数	%
いる	92	70.8
いない	33	25.4
合計	125	96.2
N. A.	5	3.8
回答者数	130	100.0

5) 保育所の送迎

【問8-⑤前問で「いる」と答えた方に伺います。(いくつでも○)】

【保育所等の送迎は誰がしていますか】

未就学児童が「いる」と答えた92人を100とした場合、保育所の送迎の割合の高い順に、「姑」(31.5%)、「舅」(同%)、「自分」(27.2%)であった。姑や舅の協力を得ていることがうかがわれる。

表 20 保育所送迎

	人数	%*1	%*2
自分	25	19.2	27.2
夫	10	7.7	10.9
姑	29	22.3	31.5
舅	29	22.3	31.5
その他	3	2.3	3.3
N. A.	9	6.9	9.8
回答者数	130	100.0	100.0

注：*1の構成比は回答者全体130人を分母とした。

*2の構成比は非該当を除く92人を分母とした。

【お子さんの夕食の支度は主に誰がしていますか】

未就学児童が「いる」と答えた92人を100とした場合、夕食の支度の割合の高い順に、「姑」(32.6%)、「舅」(同%)、「自分」(31.5%)であった。夕食も姑や舅の協力を得ていることがうかがわれる。

表 21 夕食支度

	人数	% * 1	% * 2
自分	29	22.3	31.5
夫	1	0.8	1.1
姑	30	23.1	32.6
舅	30	23.1	32.6
その他	3	2.3	3.3
N. A.	8	6.2	8.7
回答者数	130	100.0	100.0

注：* 1の構成比は回答者全体 130 人を分母とした。

* 2の構成比は非該当を除く 92 人を分母とした。

9 将来の抱負

【問 9. 将来の抱負はなんですか。こんな事をしたい、こんなふうになりたいなど自由に記述して下さい。】

本調査有効票 130 人のうち、116 人 (89.2%) の自由記入をいただいた。

内容は、農業経営の発展方向に関するもの、生計・仕事と生活に関するもの、地域の展開方向に関するもの等に分けられる。若干抜粋し記載する。詳細は、巻末統計表参照。

農業経営の発展方向に関するもの

- ・農産加工やレストランなど野菜ソムリエなどの資格を使って、その土地の農産物を使ってできる 6 次産業などしてみたい。
- ・女性だから可能な農業をしたい。消費者の目線の農業。規模拡大より多品目、集約的な野菜栽培。所得率の高い農業、家族経営。
- ・営農技術を高め、仕事が苦にならず収入を増やしたい。自分の作ったものを買いたいと思ってもらえるようになりたい。自分の農地が欲しい。
- ・美味しい農産物でおいしく加工し、美味しく提供していく。農業・食を通して情報の発信をし、農業の大切さ、やりがい等を知ってもらいたい。
- ・まずは経営、栽培方法を安定、確立させる。情報発信を充実させる。自分が作るモノにどのような付加価値がつけられるか、どのような価値が求められるかを常に考えどうしたらつけられるか、どのようにつけるか実行する。
- ・自分がお金を払って買いたいと思うものを提供していきたい。自分が会社員だった頃に出会いたかった提供方法を作り出したい。年間農業所得を最終の会社員の時の年俸までにしたい。
- ・みつばちとバラを核に、年をとっても続けられる農業を行う。
- ・有機農業を通して、地域の自然を守るための核となる場を作り、子ども達が農作業の体験を通して生きる喜びを知ることが出来るような事を行いたい。自然や命を守る・大切にすることを伝えられるような場所作りを行いたい。

- ・法人化をする。農作業は若者に任せて自分達が生産した農作物や加工品を日本中に紹介して、納得して購入してもらえるように営業したい。
- ・子どもや孫に継いでもらえるような農業経営者になりたいです。農薬や除草剤、化成肥料を使わないでも経営を継続できる栽培技術を身につけたいです。そして、農業をやりたい女性の研修生を受け入れたと考えています。
- ・多品種栽培で直売出来る野菜を増やしたい。経営が安定したら、小さい子を持つ女性の雇用を積極的にし、女性のやる気を応援したい。加工品にも取り組み、冬の収入を増やしたい。

生計・仕事と生活に関するもの

- ・頭を柔軟にして考え、どんな形でもいいので農業に関わって35歳までに目標1,000万！（売上）のこりが700万あるといいなあ…と思い、それに向けてプランを立てている所です。
- ・無理のない程度の農作業をし、その収入のみで生産できるようになりたい。（贅沢な生活でなくて良いので）
- ・子育てと仕事を両立し、農業を元気に続けながら家族で朗らかな暮らしをしていきたい。
- ・定期的な休みを取れる。ゆとりをもった経営。野菜のみでなく、穀物、その加工、エネルギーの自給等身のまわりのものは、なるべく自分で作るようになりたい。障害を持った方の雇用など・・・
- ・夫婦二人で始めた農業を会社化しました。次世代に引き継がせたい為です。今年こそ赤字体質を抜け出し、私達二人がいなくなっても営農、経営が安定化するよう、頑張りたいです。そのあとは草むしりボランティアで会社に貢献したい。死ぬ間際まで土に触れる毎日が夢です。
- ・現状に満足せず常に栽培技術の向上を目指して頑張りたい。シーズン中は子供と遊ぶ時間、趣味を楽しむ時間など、ゆとり時間が少なくなりがちなので、さらに作業効率を上げる工夫をして農業一色でなく充実した生活を送れるようにしたい。

地域の展開方向に関するもの等

- ・ぶどう園での直売を充実させるだけでなく、そこが地域の交流の場、オアシスのような場になればいいと思っています。自家産の農作物を使って美味しい加工品を生み出していきたい。
- ・小さな村でこれといった産業がなく、各自で農業を（自分たちだけの）している状態です。地域の特産物をもっとアピールして村全体が協力できる地域づくりをしたい。
- ・安心安全の食材の生産農園から「いこいの場」としての農業体験（食育、日本文化の伝承）、カフェ地域貢献（放棄地の改善、雇用（過疎化の改善、地域の活性化）、新規就農者のお手伝い）。
- ・イチゴ園の規模を拡大して、もっとたくさんの人に美味しいイチゴを提供したい。農園にカフェなどを併設して、地域のみなさんが気軽に集まるようなコミュニティスペースを作りたい。

10 独立就農女性へのアドバイス

【問 10. これから新規参入（独立就農）しようと考えている女性がいた時に、あなたが真っ先にしてあげたいアドバイスは何ですか。自由に記述して下さい。】

本調査有効票 130 人のうち、121 人（93.1%）の自由記入をいただいた。

これらは、独立就農女性であるからこそその体験・実践に添った貴重なアドバイスである。内容は、就農に当たってのアドバイス（場所、技術、知識、資金、仲間・組織）、地域生活に関するアドバイス、出産・結婚・子育てに関するアドバイス等に分けられる。

若干抜粋し記載する。詳細は、巻末統計表参照。

就農に当たってのアドバイス（場所、技術、知識、資金、仲間・組織）

- ・知人のいる地で就農したほうが良い。始めは中古の資材や機械を安くゆずってもらう事が多いので顔の広い知人がいると探してもらえる。
- ・直売、6次産業をできるように資金の確保や知識を身に着ける事や JA 女性部などの参加で若い人達との交流を積極的にすること。
- ・本当に自分がやりたいと思ったらすぐ始めれば良い。始めてからが勉強だから。
- ・資金繰りが大変。独立する前に技術を習得した方が良い。研修見学は十分に行う。一流の産地一流の技術は知って置くこと。
- ・やれば出来る。しかしサラリーマンのような安定した収入を（特に始めのころは）売ることは難しいため工夫（バイトをするなど）が必要。
- ・自分の意思をしっかり持って家族や相談窓口の人や知り合った農家の人など、周りとなんでも話したり相談したりして少しずつやりたい農業に近づいて行くとよいと思います。一生懸命やっていたら道は開けると思います。
- ・新規参入する人がスローライフをしたいタイプか、経営したい人なのかによる。前者なら「いいね～」としかいいようがない。後者なら農業の栽培技術よりも経営感覚を磨くことをすすめたい。現在の農業者はたとえ若くても頭が堅く、経営感覚を持っている人は少ないので幅広い職種の人の話を聞けるといいと思う。栽培技術は基本をマスターすればあとは毎年の積み重ねなのでコツコツ工夫を重ねるのみ。これを楽しめる人に向いていると思う。
- ・女性だから厳しい、どう克服するかよりも女性だからこそ有利、向いていることをたくさん見つけてください。
- ・新規参入される方一般に向けたアドバイスとしては農業をするという事は起業することであるという事です。資金の準備、業務の知識等の事前準備はもちろん必要ですが本人の持つ総合力が発揮できる（試される）ので人付き合いや数値管理など不得手があるようなら克服しておく（これからする覚悟）のが良いと思います。

地域生活に関するアドバイス

- ・まわりの行政や農協はもちろんですが農家の人々となるべく積極的にかかわることは大切だと思います。

質問もどんどんした方がいいと思います。

- ・自分はこの地で長くやっていく！と決めた場所でやるといい。また、お金や農作業の事だけでなく地域全体を通して自分はこの地域のどんな部分になりたいとか大きくみるようにしたらよい。
- ・誰とでも仲良くなれる様に周りの人に心を開いていくことが大切です。その実、土地の人々をすなおに受け入れる事が大切です。農業であろうが、どんな仕事であっても人間関係をうまくすることが一番大切です。十分な貯金があった方が追い詰められないと思います。
- ・頑なにならず人の意見を聞いて。でもその意見などに流されず柔軟な態度でいてほしいです。笑顔で楽しく農業をして下さい。
- ・無自覚なセクハラに注意して欲しい。悪気がこないとか、よくあることとかでうやむやにしない。失礼なことは変わらない。
- ・女性として細やかな視点を大切にすること。周囲のアドバイスや好意は素直にうけること。頼める関係を作っておくこと。

出産・結婚・子育てに関するアドバイス等

- ・配偶者(家族)と一緒にやるならばきちんと約束をつくりお互い守る。子供が小さい時は子供にしっかり目をかける。子供と一緒に楽しめる環境、人づくり、地域にゆっくりと溶け込む。
- ・結婚して二人でやる方が地域にも受け入れられやすいし、自分ひとり+相手で、1 + 1 = 2以上のことができる。自分ひとりでは出来ないことがお互い出来る。
- ・結婚をしている、していないで大きく変わりますが結婚をしていない人の場合はどこに行っても嫁候補の目で見られることを覚悟してどれだけ受け流せるか。頑張ってくださいと言いたい。結婚している人なら配偶者と得意、不得意で作業を分担し、男だから、女だからと性別にとらわれないで仕事をしてくださいと言いたい。
- ・農家の嫁にならなくとも農業はできる。が、就農するとあちこち（の農家）から嫁入り話を持ちかけられる。それを受け入れると経営者というよりヨメになる。断ってひたすら我が道を行くと自分のように一生独身が見えてくる。農業は結婚すれば旦那が主人となり代表者となる職業（今の日本では）自分の自由にやりたければサラリーマンの夫を捕まえるのが一番。
- ・栽培作物の一年間のサイクルをよく習得すること。小さい子供がいる状況では自分自身が作業に集中する事が出来ない様に思うのでサポートしてくれる人がいるのが良いと思う。
- ・同年代の仲間づくり。両親への理解（理解があれば出来る職業）。外に出ていく行動力。精神的に頼れる人をつくる。「経営者になる」という強い意志を持つ。既婚者には育児と主婦業の両立の大変さ。未婚者には将来パートナーになる人への理解。

1.1 女性の独立就農が円滑に進むために必要な対策

【問 11. 女性の新規参入（独立就農）が円滑に進むために必要だと思う新規就農対策は、どのようなことだと思いますか。自由に記述して下さい。】

本調査有効票 130 人のうち、114 人（87.7%）の自由記入をいただいた。

これらは、独立就農女性が就農に至るまでに経験したことがらや、実際の農業経営に取り組んだ中からの耳を傾けるべき提案である。

内容は、農地、就農相談、資金、労働環境、セミナーなど資質向上、仲間づくり、農業と生活の両立に関するもの等に分けられる。これまでの新規参入に関するアンケートは、ほぼ男性が大多数のアンケートであったため、浮かび上がってこなかった点が多々含まれている。女性の新規参入者だからこそ経験し見えてきた切り口からの具体的な提案を真摯に受け止めることが必要である。

その内容を抜粋し記載する。詳細は、巻末統計表参照。

【農地】

- ・単身女性はとにかく農地が借りられない。女性に関わらず関係機関の土地の管理が必要。
- ・女性も男性も同じだと思いますが突然農村へ入り、畑を借りるのは難しい状況です。畑が決まらなると全く事は進みません。出来れば公共団体の方々がもっともっと力を入れて新規の方々の相談にのっていただけたらと思います。JA や普及センターさん、農政課さんが独立出来る様に心を持って責任を持って力を入れて頂きたい。昔より農家さんと離れていっているのではないのでしょうか。
- ・女性は特に資金を借りるどころか借家もなかなかかりられません。そのうえ農地はぜんぜん無理です。本当に考えてください！ 1 ha と言わず 100 坪でも用意してください。スタートだけでもさせてあげる環境作りをお願いします。
- ・女性でも作業しやすい畑（車が入れる、平坦地、作業できる小屋がある等）を集め、希望者に紹介する。女性が活躍している農家、農業法人を研修受け入れ先にし、女性ならではの技術や作業方法を伝える。
- ・受け入れてくれる道府県が市町村と連携し空き家、空き農地等の情報を公開し、受け入れ体制を整える。後、補助金などの事業が通るまでに時間がかかりすぎていると思うので、円滑に対応することだと思います。
- ・農地の貸し出し

【就農相談窓口】

- ・資金援助、住居の確保、農地の確保。でも他業種に比べて資金援助については農業は恵まれていると思います。（相談機関の方がよく対応してくれたからかもしれませんが）住居や農地のあっせんがあると心強いです。
- ・住居の相談、あとは住む場所が田舎になればなるほど借りにくいので雇用促進のアパートなどでもあるといいと思います。
- ・私がつもつもおおそれていたことは①地域に受け入れられるか、でした。県や、自治体職員さんが地域の方とのパイプ役となってくれたら、心強いし地域の方も安心して接してくれると思います。就農後、悩んだ事は②の孤独感でした。県の職員さんは夫とのやりとりがメインなので、夫との意見の違う事などは話せないし、友人もおらず、気楽に妻の方へも「困っていることないですか」と一声かけてもらえるといいかなあと思いました

- ・相談窓口で質問しやすくしてほしい。地元の農家さんへの紹介の仲介員のような方がいて農家さんとの顔合わせがスムーズにいくようにしてほしい。自分たちはそこが少し苦勞したから。知り合いがいなかったのだ。
- ・行政からの経済的支援。農地の提供。研修先農家の確保。販路の確保。・・・JAの理解。実績の増加（女性が就農して結果を出す事、途中で辞めさせないこと）
- ・形式的でない、就農、営農、技術指導。条件不利農地ではない農地斡旋、農地集約。心と力のある（やる気）営農指導員の配備。既存の農家、農協に独占利用されない資金支援。
- ・新規就農の相談員が女性だと話はしやすいと思います。（私は初めて相談に行った日に「女性で独身だと就農しにくいですか？」と聞いたら、「今の時代、そんな事あるわけじゃない！！」と女性の相談員にいわれて、とても嬉しかったです。
- ・女性でも独立就農ができるという実績を発信する。
- ・女性の新規参入だから特別にしなくてはならない対策などないと思う。そういった考えや質問を持つ時点で、男女差別や比較してしまって、誰でも新規参入できる職業ではなくなっているのではないか。より多くの方に農業を始めてもらいたいのであれば、男性社会という固定概念を捨てるべきだ。サラリーマン社会では、男女関係なく、女性でも管理職や役職のある仕事をしているのが普通になってきていますよ。

【資金】

- ・男女の分け隔てなく広い情報提供して行政の方のサポートも同じ女性の方に担当してもらおう等、相談しやすい環境も必要だと思います。
- ・青年就農給付金の拡大
- ・施設の設備の資金補助
- ・どうにも資金がかかるのでスムーズな資金準備制度が必要だと思います。私は県の就農支援資金を利用しましたが申請から決済まで半年以上かかりましたので少し大変でした。
- ・資金を調達できるような仕組みを、もっと女性にわかりやすく説明してもらえればほしい
- ・6次産業を円滑にする対策

【労働環境】

- ・力仕事の時の援農システム(ネットワーク作り)
- ・女性だけの場合、地域の人に慣れるまで大変なので、せめて、農作業の負担を軽くしてあげられる対策があると良いと思う。また、男女問わず、住まいの補助（修理等の費用）が絶対必要だと思います。
- ・どうやっても女性だけではこなせない（こなすには相当な苦勞のある作業）ときにカバーしてくれる体制が整っているかどうか、または整っている地域を紹介し就農させられるか、就農した後にダメだったでは負債は返せない。
- ・トイレの無料貸し出し。農地内に作業小屋を建てても良いことにしてほしい。
- ・トイレが近くにある畑や周りに同年代の方がいる地区、家と圃場が近い場所

- ・人材派遣（一人女性だけではできない作業を手伝ってくれる人）

【機械・施設】

- ・耕作放棄地を借りることになった場合、農地作りのために農業機械の無料貸出しがあると良い。堆肥などの運搬サービスなどあればなお良い。
- ・使われていない農地やハウスなどの施設を安いリースで使えるように行政の方でなんとかしてもらえたら。
- ・農機具や資材などのレンタルやリサイクルシステムがあるといいと思います。高額で買うことはなかなか出来ないし人をお願いして借りるのも大変です。
- ・機械や農薬を使用することに抵抗を感じるなら無理に使用しないこと。女性の立場から意思表示をはっきりする。

【仲間づくり】

- ・たまたま私が研修を受けた時、もう一人女性の方がいましたし同期の方もいました。そして地元、地域にUターンを受ける組織がありました。
- ・仲間がいたからこそ頑張れたと思います。そして、先輩農家さんに相談し多大に助けられました。たくさんの出会いがあれば良いと思います。就農までも就農してから不安なので。
- ・同じ志をしている方々との仲間づくりの場の提供。農家ファミリーサポートのような地域の方々の協力が得られる体制。2、3年ごとに営農計画の見直し。
- ・グループ作り（出来るだけ近場での話が出来る体制）以前は地域での指導者がいてその方がその地域でのグループ作りをして下さり、勉強会等もあり、お互いの話を聞いたりすることでやる気も出たものです。今は国の方針が違ってきているため、予算の関係等で無くなってしまった。
- ・各地域の女性就農者のネットワークづくりも大切だと思います。
- ・直接、新規就農した女性と話す機会を増やすことだと思います。講演会では一方通行になってしまうので女性同志、いわゆる女子会みたいな形をセッティングしてみると良いと思います。
- ・女性農業者との交流の場をもうける。

【セミナー、研修など】

- ・農業機械の講習や研修、定期的な指導
- ・女性だけでも資金、土地が借りやすく、子育て期間中であっても融通のきく研修、勉強会(実践を伴うもの)、環境づくり。女性の声も大事にするしくみ。
- ・情報の開示と就農した後のサポート。
- ・農作業の技術指導、販売先、経営資金についてなどなど。
- ・女性を経営者として育てようと考えている研修の受け入れ農家さんが必要だと思います。
- ・販売先の確保が必要です。独立就農しても売り先がないと安心して生産できないからです。自分たちは組合で販売先が決まっていますので安心していちごをつくっています。

- ・新規就農受け入れ地での研修兼パートナー探し。

【農業と生活の両立】

- ・家族で行う場合、家族経営協定をきちんと結び、家事との両立ができるように家族に理解を求めること。
- ・男性の教育（家事、仕事）への協力、ホームヘルパー（老人）、ベビーシッター等、地域の介護、保育、教育の充実。何しても女が社長になるということは3足のわらじをはくということ。（妻、母、家政婦）どう両立するか、または面倒を見てもらえるか、男は仕事さえしていれば良い、というのは女にとって負担が重過ぎ。
- ・生活環境面での支援→子供（保育園、病院）、家事に関する問題・婚活、出会いの場の提供
- ・保育所の充実（農繁期の休日保育、育児保育）

【扱われ方】

- ・男と女と同じ研修生なのにお茶くみなどで無意識の差別があったりするのが、悲しいことだと感じていました。
- ・農業者としての対応（嫁ではないという認識）
- ・女性だからこそ新規参入だからこそバックアップしなければならないのに最初から芽をつむような言動をしないで助けてあげて欲しい。今は女性も普通に働く時代。農家は減る時代。ならば古い考えは捨てて、農業にチャレンジする女性を応援すべきです。

【様々な働きかけ】

- ・婚活できるようなイベント。すでに新規参入している所へのバスツアー見学などのイベント
- ・もっともっと女性も強くなってそして女性が農業をする事が普通になってほしいです。
- ・新しいこと（消費者に近い目を持っている大切な女性だから）を始めても見守る事が大事だと思います。
- ・いろんな体験が出来るよう、いろんな分野や村民の集まりに声をかけてあげる。

Ⅲ まとめ

1 分析に当たって

本稿では、単純集計と一部クロス集計によってアンケートの分析を行い、女性の独立就農者（新規参入者）の就農の動機や経緯や農業経営の状況、農村生活の状況、将来の抱負、独立就農女性へのアドバイス、必要と思われる施策などを検討した。また、一部平成22年度の新規就農者（新規参入者）の就農実態に関する調査結果との比較を行った。これは、平成22年度調査の調査対象が、（男性）対（女性）が（93.1）対（6.9）であることから、ほぼ男性の新規参入者の意向を明らかにした調査結果と読めるため、本独立就農女性との違いを明らかにするねらいからである。

本調査結果は、配布票数 204、回収票数 130（回収率 63.7%）であり、決して多いサンプルではないが、独立就農女性の意向を 130 人から把握できた本調査は、極めて貴重なもので、これまでの新規就農調査では明らかにされなかった内容を豊富に含むものとなっている。特に注目すべき点として、各選択枝に設けた「その他」覧への丁寧な記述や記入者割合が回収票の 9 割近くになる「自由記入」欄へ記述内容は、独立就農女性の切実で真摯な訴え、主張がこのアンケート調査の中で明らかにされたものと考えられる。従って、本調査結果の読み取りにおいて、「その他」と「自由記入」を可能な範囲で抜粋し本文中に盛り込んだ。しかし、あくまで抜粋であるので、巻末の統計表に記載した「その他」欄と「自由記入」欄を丁寧に読み込んでいただきたい。

また、独立就農女性の位置づけを下表で確認したい。

新規就農者全体に占める独立就農（新規参入者）は、全体では 2,100 人（全体の 3.6%）で、内女性は 240 人で新規就農者全体の 0.4%にすぎない。女性の新規就農者全体でみれば 2.0%と極めて少数である。39 歳以下で見ると、女性の新規就農者全体の 54.0%が農業法人等への新規雇用就農であり、新規自営就農が 43.6%であるが、新規参入者は 2.4%に過ぎない。これを経年でみると、独立就農女性は、全国で毎年 200 名程度で、そのうち 39 歳以下は 50~80 名程度となっている。（独立就農女性全体：平成 22 年 180 人、平成 23 年 240 人。うち 39 歳以下：平成 22 年 50 人、平成 23 年 80 人）

本調査の回収票 130 は、決して多いサンプルではないが、独立就農女性自体が元々かなり少ないことからみれば、全体的な傾向を把握する上では、十分意味を持つと言えよう。これまで、独立就農女性の実態はほとんど事例調査で把握することがあっても、今回のように全国的なアンケートの結果ははじめてであり、今後の新規就農の推進に活かしていただきたい。

表 22 平成 23 年 女性の年齢別就農形態別新規就農者数と割合

(単位：人、%)

	新規就農者計		新規自営農業就農者		新規雇用就農者		新規参入者	
	計	女性	計	女性	計	女性	計	女性
39歳以下	14,220	3,300	7,560	1,440	5,860	1,780	800	80
割合①	100		53.2		41.2		5.6	
割合②		100		43.6		54.0		2.4
割合③	(100)	(23.2)	(100)	(19.0)	(100)	(30.4)	(100)	(10.0)
新規就農者合計	58,120	11,810	47,100	8,670	8,920	2,900	2,100	240
割合④	100		81.0		15.4		3.6	
割合⑤		100		73.4		24.6		2.0
割合⑥	(100)	(20.3)	(100)	(18.4)	(100)	(32.5)	(100)	(11.4)

出典：農林水産省新規雇用者調査、新規参入者調査（調査期日）平成 24 年 4 月 1 日現在から抜粋し作成

- (注 1) ①は、39 歳以下の新規就農者の就農タイプ別割合
 ②は、39 歳以下の新規就農女性の就農タイプ別割合
 ③は、39 歳以下のそれぞれの就農タイプ別に占める女性の割合
 ④は、新規就農者合計の就農タイプ別割合
 ⑤は、新規就農女性合計の就農タイプ別割合
 ⑥は、それぞれの就農タイプ別に占める女性の割合

2 アンケート結果の小括

本調査の回収票 130 のうち、39 歳以下が 47%、40 歳以上が 53%とほぼ半々であり、若手の独立就農女性の意向の把握もできている。また、就農 5 年未満が 55%、5 年以上が 45%とこちらもほぼ半々であった。以下、アンケートの問の順番に添ってみていくこととする。

第 1 就農の経緯関係

家族など農業との関わりは、関わりのないケースとあるケースが半々であった。就農前の職業では「会社勤務」が半数であった。就農の動機では、「自然や動植物が好き」、「農業が好き」が共に 3 割と高く、まずは、「好き」であることを重視していると言える。ほぼ全員が男性の新規参入者である 22 年度調査と比較すると、独立就農女性は、「自然や動植物が好き」や「家族と一緒に仕事ができる」を強い就農動機としているが、「自ら経営の采配を振れる」、「努力の成果が直接みれる」、「農業はやり方次第でもうかる」と言った農業経

営に魅力を感じての就農動機は低い傾向がみられた。但し、何故独立就農を選んだのかを聞くと、「やりたい農業の実現」が最も高く、就農前にやりたい農業のイメージを描いていると見られる。また、「夫が農業をやることに決めたから」と夫の意向を踏まえての就農もあった。「知識技術の習得」では、「書籍や雑誌」、「インターネット」が広く情報を得るのに役だったと思われるが、「先進的な農家での研修」は身近で直接的に役だったとしている。農業大学校や普及センターも役立っていることがわかる。「就農先の地域選定理由」では、「自然環境が良い」、「所得できる農地があった」、「家族の実家に近い」の順となっており、実家や自宅に近いなど就農前に土地勘のあるところが選定される傾向にある。

就農先の生活環境では、「防犯上安心できること」が最も多く次いで「買い物に不便でない」、「病院や医者などへのアクセス」の順であった。防犯面は、女性ならではの就農先選定重視項目であると言えよう。

次に、農地の確保状況をみると「全て借地」と「約7割が借地」を合わせると、約7割が借地経営である。農地の確保ルートは、「研修先から紹介」と「友人・知人の情報」を合わせて3分の1以上であり、「市町村や農協」と「就農相談機関から紹介」は合わせて全体の4分の1だった。本人の人脈での農地確保ルートが比較的多くなっている。

「就農までの苦労」は、「営農技術の習得」、「資金の確保」、「農地の確保」、「住宅の確保」の順となった。いずれの項目も、以前から就農のために重視している項目である。

「住宅の確保」をみると独立就農にともない、借家をしたのが約4割、購入したのが約3割であるが、その他の記載をみると元々自宅や実家のある地域で就農しているケースがかなり含まれている。「就農までの苦労」は、「営農技術の習得」が挙げられているが、最も苦労が大きいのは、「農地の確保」、「資金の確保」であり、独立就農女性が農地の入手にかなり困っている様子が浮かび上がってくる。

「就農に当たっての苦労」（男性との比較）については、「女性の方が苦労が多い思ったことはない」が「思ったことがある」よりも12ポイント上回ったのは、少し安心した。

「思ったことがある」の内容を聞いてみると、「体力的に自信がない」、「好奇の目で見られた」、「関係機関の発言」の順となっていた。「その他」にも数多くの記述があり、「女性が独立就農するのは無理だ」、「農家に嫁に行けとなんどもいわれた。」等の記述がある。

独立就農女性が少数派である事で農山村地域で好奇の目で見られたり、独立就農女性に対する関係機関の就農意欲を削ぐような対応ぶりは改める必要がある。一方女性であることで就農に当たって男性より良かった点について聞くと「女性と言うことで回りに気にかけてもらえる」、「注目度が高い」、「直売所の出荷事のラッピングも男性よりセンスがある。」など、メリットを感じていることも浮かび上がってきた。

第2 農業経営の状況関係

独立就農女性の経営作目は、露地野菜、施設野菜が多く、比較的小規模の農地面積であつても、作付け回数を増やすことで経営規模が確保できることや、栽培期間が比較的短

く、直売所などへの出荷により売り上げ代金が継続的に入ること、機械設備が少なくてすむこと等によるものとみられる。農業経営従事は「夫と共に」が6割を占めている。農業経営スタイルをみると、「自分と夫で共同経営」が約2割、「夫が主で自分は従事」が約3割となっている。一方、「自分一人で経営」が4割弱であった。本調査対象者のうち配偶者がいるケースが約7割であった。

以上からみると、独立就農女性が、経営主（夫との共同経営を含む）として経営参画しているのは6割であり、真摯に農業経営に取り組む姿が浮かび上がってくる。また、独立就農女性に夫がいるのは7割で、6割が妻と共に農業従事している様子がうかがえる。

独立就農女性の9割が、「農作業・飼育管理」や「出荷・販売」を担当しており、更に、「直売・直販」にも7割が取り組んでいる。「農畜産加工」や「農業体験」、「消費者交流」にも約2割が取り組むなど単に農業生産だけでない多様な活動を目指していることがわかる。しかし、年間売上高は、「300～500万円」が約2割を占めるが、農業所得は「50万円未満」が3割を占めるなど極めて厳しい状況が浮かび上がっている。その中で、「休日が決まっていない」経営が7割弱と大部分の経営で定期的に休まず働いている。

これらのことを象徴するように、最大の経営上の苦勞が「所得が少ない」が3割、「人手が少ない」、「栽培飼養技術の未熟さ」がそれぞれ1割となっている。

そこで、経営改善に向けて何に取り組むかを聞いたところ、約8割の独立就農女性が、「他産業・異分野との連携」を取り上げたのが非常に印象的である。就農前に農業外の手産業で会社員などをやっていた、独立就農女性は、元々農業外の手友人や知人を持ち、農業外の手知識や経験を持っている。彼女達は、農山村地域においてもインターネット等を活用し外に向かつて情報発信することで、ビジネスチャンスにつなげることが出来ないか期待しているものと推察される。これは、平成24年度からスタートしている「女性農林漁業者とつながる全国ネット（愛称：ひめこらぼ全国ネット）」の設立趣旨とも符合する。独立就農女性の方々が「ひめこらぼ」に加入し、異分野・異業種とのつながりや女性農林漁業者同士の情報交換が可能となるようにすることも必要ではないかと考えられる。

「農業経営の苦勞（女性の方が大変）」は、6割の方が答えており、これは「就農までの苦勞」（男性との比較）で苦勞と答えた方が4割であったのに比べ、多くなっている。独立就農女性にとって就農までの苦勞もあるが、農業経営をスタートしてからは、より苦勞が多い者と推察される。その苦勞の内容は、「体力的に力が弱い」、「トイレがない」が共に3割の女性が選んでおり、「農業機械があわない」も26%だった。農業経営をスタートして直面するこれらの問題は、速やかに具体的な解決が求められるものであろう。

一方、農業経営において男性より良かった点も約4割の方が答えており、目立つので覚えてもらやすいなど利点も生かしている様子がわかる。

第3 農村での生活状況関係

苦勞している内容は、「生活費が足りない」でこれは農業所得が低いことに連動している。

また、買い物、幼稚園、病院が遠いなども苦労している様子が見られる。

一方、「自然環境が良い」が7割、「新鮮な農畜産物の入手」が5割など農村生活の良さも実感しながらの暮らしぶりもみえる。学校に入学する前の未就学児童がいる独立就農女性は、全体の7割を占め、同居の姑や舅に子育てを支援してもらっている様子が浮かぶ。但し夫の関わりはあまり多くない。濃密な近所づきあいも地域の特性と捉え前向きに関わろうとしている姿も見える。

第4 将来の抱負・独立就農女性へのアドバイス・女性の独立就農が円滑に進むために必要な対策関係

これらは、定型的なアンケートでは十分な考えを把握出来ないと考え、自由記入とした。その結果、回収票 130 票のうち9割の方が、それぞれの項目にギッシリと書き込んでいただいている。独立就農女性（240人：平成24年）は、新規就農者全体（58,120人：同24年）のわずか0.4%にすぎないが、この自由記入を読むと、彼女達の切実なかつ貴重な声が伝わってくる。これらを今後の新規就農施策に活かすことが、農業外から意欲のある新たな女性を農業の担い手として農山村地域に呼び込むことにつながるものと期待できる。

また、彼女達が農業経営を開始して直面する問題は、古くから農村に残されてきた慣行的な内容も含んでおり、独立就農女性の意見はこれらの問題の解決に向けたヒントでもありと考えられる。

以上、本調査結果に表れた彼女達の声をしっかり受け止め、新規就農の推進を図ることが必要であろう。

本調査結果が、新規就農希望者や新規就農相談活動の参考となる基礎資料として役立つとともに、女性の新規就農の促進施策の一層の充実のために役立つことを期待している。

自由記入の詳細は記入欄をご覧いただきたいが、ここで、若干紹介する。

【将来の抱負】

農業経営の発展方向では、農産加工やレストラン、食の情報発信や有機農業、子ども達の体験の場づくり、法人化などに向かって行きたいとの抱負や、女性の雇用を積極的にしていきたいなどが記述されている。

生計、仕事と生活に関するものでは、子育てと仕事の両立、ゆとりのある生活などが記述され、地域の発展方向に関するものでは、ぶどう園を地域の交流にしていこう、食育の場にしていこうなどが記述され、経営、生活、地域ともゆとりを持たせつつ発展させていきたいとの意向が示されていた。

【独立就農女性へのアドバイス】

就農に当たっては、就農場所、技術や知識の習得、資金、経営理念などにわたり実経験に基づく内容のアドバイスが記述されており、また、地域生活や出産・結婚・子育てに関する切実な実態を踏まえた内容となっている。

【女性の独立就農が円滑に進むために必要な対策】

農地の入手、就農相談窓口の対応とその内容、資金、労働環境特にトイレについては多くの記載があり切実な問題となっている。また、機械・施設、仲間づくり、セミナー・研修内容、農業と生活の両立、婚活などにわたり対策の提案がなされている。これらの貴重な提案を踏まえつつ、新規就農施策、特に女性の新規就農対策に活かしていただきたい。

(文責：農山漁村女性・生活活動支援協会 齋藤)

統計表

1 「女性の視点に立った新規就農の課題や支援施策のあり方調査」調査結果表	53
2 「その他回答および自由記入」一覧表	68
3 アンケート調査様式	108

「女性の視点に立った新規就農の課題や支援施策のあり方調査」調査結果表

表 1 アンケート調査回収状況

	配布票数	回収票数			回収率
		有効票	無効票	合計	
独立就農女性	204	130	0	130	63.7%

問2. あなたの年齢をお答え下さい。

表 2 年齢区分

	人数	%
29歳以下	12	9.2
30～39歳	49	37.7
40～49歳	45	34.6
50～59歳	15	11.5
60歳以上	9	6.9
回答者数	130	100.0

問3. 独立就農してから何年目ですか。

○を1つ付けて下さい。

表 3 就農年数

	人数	%
2年未満	23	17.7
2～3年未満	16	12.3
3～5年未満	32	24.6
5～10年未満	36	27.7
10年以上	23	17.7
回答者数	130	100.0

問4. 就農の動機についてお聞きします。

問4-①家族など農業との関わりがありましたか。

○を1つ付けて下さい。

表 4 就農との関わり

	人数	%
実家が農業	23	17.7
祖父母や親せきが農業	28	21.5
農家はいない	64	49.2
その他	15	11.5
回答者数	130	100.0

問4-②農業法人等での雇用就農や現在の独立就農など、農業で働く前は何をされていきましたか。○を1つ付けて下さい。

表 5 就農前の様子

	人数	%
会社勤務	67	51.5
農業関係学生	2	1.5
学生	2	1.5
農家・農業法人研修生	10	7.7
農家・農業法人社員	4	3.1
フリーター	5	3.8
自営業	5	3.8
家事手伝い	8	6.2
その他	19	14.6
N. A.	8	6.2
回答者数	130	100.0

問4-③あなたはどのような理由で就農しましたか。就農した理由を3つ選び○をつけて下さい。

表 6 就農理由

	人数	%
農業が好き	41	31.5
時間が自由	24	18.5
自然や動植物が好き	41	31.5
もうかるから	9	6.9
田舎暮らしが好き	29	22.3
家族と一緒に仕事	40	30.8
采配を振れる	23	17.7
子どもを育てる環境	18	13.8
有機農業をやりたい	16	12.3
以前の仕事を生かす	6	4.6
努力の成果が直接みれる	21	16.2
雇用に向かない	10	7.7
都会の生活に向かない	4	3.1
食べ物に興味	23	17.7
その他	37	28.5
N. A.	8	6.2
回答者数	130	100.0

問4-④あなたは、農業法人等への雇用就農ではなく、独立して農業をはじめたのはどのような理由ですか。あてはまるもの全てに○をつけて下さい。そのうち一番重視するものひとつに◎をつけてください。

表 7 独立就農理由

	一番重視	%	あてはまる	%
やりたい農業の実現	34	26.2	38	29.2
家族で農業をやりたい	20	15.4	28	21.5
雇われずに働きたい	13	10.0	33	25.4
経営者として働きたい	10	7.7	13	10.0
別経営で独立したい	0	0.0	2	1.5
他の仕事との両立	5	3.8	15	11.5
法人就職するより儲かる	0	0.0	4	3.1
農業法人から紹介	0	0.0	3	2.3
その他	8	6.2	18	13.8
N. A.	12	9.2	12	9.2
回答者数	130	100.0	130	100.0

問5 就農の経緯について教えてください。

問5-①就農前に営農技術・知識はどのようにして身につけましたか。役だったもの全てに○をつけて下さい。また、一番重視するものひとつに◎をつけてください。

表 8 知識技術の習得

	一番重視人数	%	あてはまる人数	%
農業大学校等	11.0	8.5	23.0	17.7
農学系大学	1.0	0.8	10.0	7.7
農業高校	0.0	0.0	2.0	1.5
先進的な農家での研修	23.0	17.7	30.0	23.1
農業法人での研修	5.0	3.8	12.0	9.2
農協での研修	2.0	1.5	5.0	3.8
普及センター	4.0	3.1	22.0	16.9
家族や親戚	6.0	4.6	18.0	13.8
友人・知人	4.0	3.1	10.0	7.7
書籍や雑誌	3.0	2.3	41.0	31.5
インターネット	2.0	1.5	25.0	19.2
その他	12.0	9.2	23.0	17.7
N. A.	10.0	7.7	10.0	7.7
回答者数	130.0	100.0	130.0	100.0

問5-②就農に当たりあなたが現在の地域を選んだ理由であてはまるもの全てに○をつけて下さい。また、一番重視するものひとつに◎をつけてください。

表 9 地域選定理由

	一番重視人数	%	あてはまる人数	%
支援対策整備	14	10.8	19	14.6
営農指導体制が充実	1	0.8	5	3.8
取得できる農地があった	15	11.5	21	16.2
希望作目の適地	7	5.4	18	13.8
都市へのアクセスが良い	4	3.1	14	10.8
自然環境が良い	8	6.2	26	20.0
地域をよく知っていた	3	2.3	19	14.6
相談窓口の斡旋	4	3.1	12	9.2
就業先・研修先があった	6	4.6	18	13.8
家族の実家に近い	11	8.5	20	15.4
その他	19	14.6	21	16.2
N. A.	10	7.7	10	7.7
回答者数	130	100.0	130	100.0

問5-③就農先の生活環境については、何を重視しますか。あてはまるもの全てに○をつけて下さい。
また、一番重視するものひとつに◎をつけてください。

表 10 重視する生活環境

	一番重視人数	%	あてはまる人数	%
買い物に不便でない	10	7.7	44	33.8
子育てに不便ではない	12	9.2	34	26.2
防犯上安心	6	4.6	23	17.7
通勤等に支障がない	5	3.8	31	23.8
病院や医者などへのアクセス	7	5.4	36	27.7
隣近所と良好	27	20.8	52	40.0
文化的・風光明媚	12	9.2	18	13.8
その他	16	12.3	17	13.1
N. A.	4	3.1	4	3.1
回答者数	130	100.0	130	100.0

問5-④農地について、所有地、借地の割合は
およそどれくらいですか。○を1つ付けて
下さい。昨年1年間の実績でお答え下
さい。

表 11 所有借地の割合

	人数	%
すべて借地	86	66.2
約7割が借地	9	6.9
約5割が借地	2	1.5
約7割が所有地	8	6.2
すべて所有地	17	13.1
その他	6	4.6
N. A.	2	1.5
回答者数	130	100.0

問5-⑤農地はどのようなルートから確保しまし
たか。○を1つ付けて下さい。

表 12 農地確保ルート

	人数	%
就農相談機関から紹介	14	10.8
研修先から紹介	24	18.5
友人・知人の情報	23	17.7
インターネット等	1	0.8
市町村や農協	17	13.1
その他	46	35.4
N. A.	5	3.8
回答者数	130	100.0

問5-⑥住まいの確保状況はいかがですか。○を1つ付けて下さい。

表 13 住居の確保状況

	人数	%
空き家を借りた	9	6.9
農家の空き家を買った	9	6.9
一般の空き家を借りた	17	13.1
一般の空き家を買った	11	8.5
公営アパートを借りた	10	7.7
民間のアパートを借りた	13	10.0
新築した	15	11.5
その他	44	33.8
N. A.	2	1.5
回答者数	130	100.0

問5-⑦就農するまでに苦労した点ではまるもの全てに○をつけて下さい。また、苦労の一番大きいものひとつに◎をつけてください。

表 14 苦労した点

	最大の苦労人数	%	苦労人数	%
相談窓口探し	3	2.3	18	13.8
家族の了解	6	4.6	10	7.7
就農地域の選択	5	3.8	26	20.0
営農技術の習得	11	8.5	51	39.2
農地の確保	29	22.3	33	25.4
資金の確保	28	21.5	34	26.2
住宅の確保	9	6.9	28	21.5
その他	4	3.1	16	12.3
N. A.	5	3.8	5	3.8
回答者数	130	100.0	130	100.0

問5-⑧あなたが女性ということで就農するまでに男性に比べて苦労が多かったと思ったことがありますか。○を1つ付けて下さい。

表 15 女性の方が苦労多い

	人数	%
思ったことがある	50	38.5
思ったことはない	66	50.8
その他	13	10.0
N. A.	1	0.8
回答者数	130	100.0

問5-⑨前問で「思ったことがある」と答えた方に伺います。それはどのようなことですか。あてはまるもの全てに○をつけて下さい。

表 16 就農苦勞の内容

	人数	% * 1	% * 2
親や親戚の反対	6	4.6	12.0
関係機関の発言	12	9.2	24.0
体力的に自信がない	29	22.3	58.0
農地を賃貸、売買しない	2	1.5	4.0
住宅を賃貸、売買しない	0	0.0	0.0
資金を女性に貸さない	3	2.3	6.0
好奇の目でみられた	18	13.8	36.0
その他	20	15.4	40.0
N. A.	1	0.8	2.0
回答者数	130	100.0	100.0

注：*1の構成比は回答者全体130人を分母とした
*2の構成比は非該当を除く50人を分母とした。

問5-⑩あなたが女性ということで就農にあたり男性に比べて良かった点がありますか。
○を1つ付けて下さい。

表 17 就農男性より良かった点

	人数	%
ある	44	33.8
ない	46	35.4
男性、女性の違いはない	31	23.8
その他	4	3.1
N. A.	5	3.8
回答者数	130	100.0

問6. 現在の農業経営の状況についてお聞きます。

問6-①経営している作目を次から選んで、あてはまるもの全てに○をつけて下さい。また、販売金額が一番大きいものひとつに◎をつけてください。

表 18 経営作目

	首位作目人数	%	栽培作目人数	%
稲作	5	3.8	20	15.4
麦類作	0	0.0	7	5.4
雑穀・いも類・豆類	4	3.1	27	20.8
工芸農作物	0	0.0	3	2.3
施設野菜	29	22.3	31	23.8
施設花	4	3.1	6	4.6
露地野菜	26	20.0	45	34.6
花き・花木	3	2.3	12	9.2
果樹	10	7.7	13	10.0
酪農	1	0.8	1	0.8
肉用牛	0	0.0	1	0.8
養豚	0	0.0	0	0.0
養鶏	1	0.8	4	3.1
その他	2	1.5	8	6.2
N. A.	1	0.8	1	0.8
回答者数	130	100.0	130	100.0

問6-③農業はいつもどなたと行っていますか。
あてはまるものを全て選んで下さい。

表 19 農業従事者

	人数	%
自分のみ	23.0	17.7
夫	77.0	59.2
親	27.0	20.8
兄弟姉妹	4.0	3.1
子供	6.0	4.6
期間雇用	21.0	16.2
社員	16.0	12.3
研修生	7.0	5.4
友人	3.0	2.3
その他	7.0	5.4
N. A.	1.0	0.8
回答者数	130.0	100.0

問6-⑤あなたの経営内での役割であてはまる
もの全てに○をつけて下さい。

表 21 経営内役割

	人数	%
農作業・飼育管理	121	93.1
事務・経理	98	75.4
出荷・販売	112	86.2
労務管理	28	21.5
営業	58	44.6
加工	39	30.0
その他	7	5.4
N. A.	2	1.5
回答者数	130	100.0

問6-④農業経営のスタイルについて当てはまる
ものに○を1つ付けて下さい。

表 20 経営のスタイル

	人数	%
自分一人で経営	48	36.9
自分と夫で共同経営	23	17.7
夫が主で自分は従事	36	27.7
自分と友人で共同経営	3	2.3
その他	16	12.3
N. A.	4	3.1
回答者数	130	100.0

問6-⑥農作業や飼育管理の他に次のことを実
施していますか。あてはまるもの全てに
○をつけて下さい。

表 22 多様な農作業外活動

	人数	%
農畜産物加工	30	23.1
直売・直販	92	70.8
作業受託	16	12.3
農業体験	29	22.3
食育活動	15	11.5
消費者交流	26	20.0
インターネット販売	21	16.2
ホームページ作成	44	33.8
農家レストラン	2	1.5
ファームステイ	4	3.1
その他	2	1.5
N. A.	26	20.0
回答者数	130	100.0

問6-⑦年間の売上高(農産加工等を含む)はおよそどのくらいですか。○を1つ付けて下さい。

表 23 売上高

	人数	%
50万円未満	18	13.8
50~100万円	9	6.9
100~200万円	17	13.1
200~300万円	12	9.2
300~500万円	23	17.7
500~700万円	8	6.2
700~1,000万円	16	12.3
1千万円~2千万円	9	6.9
2千万円~5千万円	9	6.9
5千万円以上	4	3.1
N. A.	5	3.8
回答者数	130	100.0

問6-⑧年間の農業所得(農産加工等を含む)はおよそどのくらいですか。○を1つ付けて下さい。

表 24 農業所得

	人数	%
50万円未満	39	30.0
50~100万円	17	13.1
100~200万円	30	23.1
200~300万円	15	11.5
300~500万円	10	7.7
500~700万円	5	3.8
1千万円~2千万円	1	0.8
2千万円~5千万円	1	0.8
5千万円以上	4	3.1
N. A.	8	6.2
回答者数	130	100.0

問6-⑨休日は、取り決めがありますか。○を1つ付けて下さい。

表 25 休日

	人数	%
週休二日制	5	3.8
四週六休制	2	1.5
週休一日制	15	11.5
天候の悪い時	14	10.8
決まっていない	85	65.4
その他	13	10.0
N. A.	2	1.5
回答者数	130	100.0

問6-⑩農業経営上で苦勞している点の全てに○をつけて下さい。また、苦勞の一番大きいものひとつに◎をつけてください。

表 26 経営上の苦勞

	最大の苦勞人数	%	苦勞人数	%
所得が少ない	38	29.2	48	36.9
栽培飼養技術の未熟さ	10	7.7	37	28.5
販路が少ない	1	0.8	25	19.2
農業機械が高い	4	3.1	48	36.9
資材費が高い	2	1.5	45	34.6
人手が足りない	10	7.7	39	30.0
仕事がきつく疲れる	7	5.4	29	22.3
農地の問題	4	3.1	21	16.2
運転資金不足	5	3.8	23	17.7
設備投資資金の不足	6	4.6	26	20.0
相談相手がいない	1	0.8	7	5.4
その他	9	6.9	12	9.2
N. A.	5	3.8	5	3.8
回答者数	130	100.0	130	100.0

問6-⑪農業経営をよくするために今後何に取り組もうと思っていますか。あてはまるもの全てに○をつけて下さい。また、一番重要なものひとつに◎をつけてください。

表 27 経営改善方向

	一番重要人数	%	重要人数	%
規模拡大	4	3.1	20	15.4
新規作目の導入	6	4.6	29	22.3
直売など販路の拡大	13	10.0	43	33.1
栽培飼養技術の向上	25	19.2	30	23.1
農産加工	10	7.7	35	26.9
観光事業・レストラン	1	0.8	11	8.5
コスト削減	2	1.5	35	26.9
労働環境の改善	1	0.8	17	13.1
農地の拡大・改良	8	6.2	28	21.5
雇用の導入	6	4.6	22	16.9
インターネット	1	0.8	19	14.6
他産業・異分野との連携	18	13.8	103	79.2
その他	4	3.1	3	2.3
N. A.	9	6.9	9	6.9
回答者数	130	100.0	130	100.0

問6-⑫あなたが女性ということで男性に比べて農業経営を行う上で大変だったと思ったことがありますか。○を1つ付けて下さい。

表 28 女性の方が苦勞

	人数	%
思ったことがある	78	60.0
思ったことはない	45	34.6
その他	3	2.3
N. A.	4	3.1
回答者数	130	100.0

問6-⑬前問で「思ったことがある」と答えた方に伺います。それはどのようなことですか。あてはまるもの全てに○をつけて下さい。また一番大変だったものひとつに◎をつけてください。

表 29 経営苦勞の内容

	一番大変人数	% * 1	% * 2	大変人数	% * 1	% * 2
体力的に力が弱い	33	25.4	32.5	30	23.1	29.6
農業機械があわない	5	3.8	4.9	26	20.0	25.6
同世代の女性がない	1	0.8	1.0	15	11.5	14.8
トイレがない	3	2.3	3.0	30	23.1	29.6
日焼けなど美容面で心配	6	4.6	5.9	21	16.2	20.7
男性の雇用者を採用しづらい	2	1.5	2.0	6	4.6	5.9
資金が借りられない	0	0.0	0.0	6	4.6	5.9
農地が借りられない	1	0.8	1.0	6	4.6	5.9
その他	7	5.4	6.9	14	10.8	13.8
N. A.	4	3.1	3.9	4	3.1	3.9
回答者数	130	100.0	100.0	130	100.0	100.0

注：*1の構成比は回答者全体130人を分母とした。

*2の構成比は非該当を除く78人を分母とした。

問6-⑭あなたが女性ということで農業をやっている男性に比べて良かった点がありますか。○を1つ付けて下さい。

表 30 経営男性より良かった点

	人数	%
ある	50	38.5
ない	28	21.5
男性、女性の違いはない	37	28.5
その他	8	6.2
N. A.	7	5.4
回答者数	130	100.0

問7農村での生活について

問7-①農村生活で苦勞している点を3つ選び○を付けて下さい。

表 31 生活の苦勞

	人数	%
生活費が足りない	27	20.8
買い物が不便	27	20.8
子どもの教育費がかかる	6	4.6
病院が遠い	22	16.9
隣近所づきあいが難しい	17	13.1
よそ者に見られてしまう	23	17.7
同世代の友人がいない	23	17.7
共同作業やむらの集まりが多い	21	16.2
一挙一動を注目され息苦しい	18	13.8
教育環境が悪い	7	5.4
その他	28	21.5
N. A.	30	23.1
回答者数	130	100.0

問7-③農村生活で満足している点や充実している点など住んで良かったと思っている点を3つ選び○を付けて下さい。

表 32 生活満足の内容

	人数	%
新鮮な農畜産物の入手	70	53.8
自然環境が良い	87	66.9
子育てによい	30	23.1
物価が安い	11	8.5
人間関係が温かい	42	32.3
家族と一緒に過ごせる	52	40.0
伝統文化に触れられる	21	16.2
自由な時間が増えた	32	24.6
その他	12	9.2
N. A.	10	7.7
回答者数	130	100.0

問8. 最後に、あなたの家庭のことについてお伺いします。

問8-①同居家族は何人ですか。

表 33 家族人数区分

	人数	%
2人以下	63	48.5
3~4人	45	34.6
5~6人	13	10.0
7~8人	4	3.1
9人以上	2	1.5
N. A.	3	2.3
回答者数	130	100.0

問8-②あなたには配偶者(夫)がいますか。

表 34 配偶者有無

	人数	%
いる	95	73.1
いない	33	25.4
N. A.	2	1.5
回答者数	130	100.0

問8-③家事はどうしていますか。(あてはまるもの全てに○をつけてください)

表 35 家事従事状況

	人数	%
他の家族が担当	7	5.4
自分と他の家族で分担	47	36.2
ほとんど自分	67	51.5
その他	7	5.4
N. A.	2	1.5
回答者数	130	100.0

問8-④あなたの家では、未就学児童(小学校に入学前のお子さん)がいますか。

表 36 未就学児童有無

	人数	%
いる	92	70.8
いない	33	25.4
合計	125	96.2
N. A.	5	3.8
回答者数	130	100.0

問8-⑤前問で「いる」と答えた方に伺います。(いくつでも○)

①保育所等の送迎は誰がしていますか

表 37 保育所送迎

	人数	% * 1	% * 2
自分	25	19.2	27.2
夫	10	7.7	10.9
姑	29	22.3	31.5
舅	29	22.3	31.5
その他	3	2.3	3.3
N. A.	9	6.9	9.8
回答者数	130	100.0	100.0

注：* 1の構成比は回答者全体 130 人を分母とした。

* 2の構成比は非該当を除く 92 人を分母とした。

②お子さんの夕食の支度は主に誰がしていますか

表 38 夕食支度

	人数	% * 1	% * 2
自分	29	22.3	31.5
夫	1	0.8	1.1
姑	30	23.1	32.6
舅	30	23.1	32.6
その他	3	2.3	3.3
N. A.	8	6.2	8.7
回答者数	130	100.0	100.0

注：* 1の構成比は回答者全体 130 人を分母とした。

* 2の構成比は非該当を除く 92 人を分母とした。

「就農年数とのクロス集計」結果表

表 39 就農年数と年齢区分のクロス表

		年齢区分					合計
		29 歳以下	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60 歳以上	
5 年未満	人数	12	28	21	7	3	71
	%	16.9%	39.4%	29.6%	9.9%	4.2%	100.0%
5 年以上	人数	0	21	24	8	6	59
	%	0.0%	35.6%	40.7%	13.6%	10.2%	100.0%
合計	人数	12	49	45	15	9	130
	%	9.2%	37.7%	34.6%	11.5%	6.9%	100.0%

表 40 経営スタイルと就農年数のクロス表

		就農年数		合計
		5 年未満	5 年以上	
自分一人で経営	人数	32	16	48
	%	66.7%	33.3%	100.0%
自分と夫で共同経営	人数	14	9	23
	%	60.9%	39.1%	100.0%
夫が主で自分は従事	人数	14	22	36
	%	38.9%	61.1%	100.0%
自分と友人で共同経営	人数	0	3	3
	%	0.0%	100.0%	100.0%
その他	人数	9	7	16
	%	56.3%	43.8%	100.0%
合計	人数	69	57	126
	%	54.8%	45.2%	100.0%

表 41 農業経営の苦勞（女性の方が大変） と 就農年数 のクロス表

		就農年数		合計
		5年未満	5年以上	
思ったことがある	人数	40	38	78
	%	51.3%	48.7%	100.0%
思ったことはない	人数	26	19	45
	%	57.8%	42.2%	100.0%
その他	人数	2	1	3
	%	66.7%	33.3%	100.0%
合計	人数	68	58	126
	%	54.0%	46.0%	100.0%

表 42 配偶者有無 と就農年数のクロス表

		就農年数		合計
		5年未満	5年以上	
いる	人数	49	46	95
	%	51.6%	48.4%	100.0%
いない	人数	20	13	33
	%	60.6%	39.4%	100.0%
合計	人数	69	59	128
	%	53.9%	46.1%	100.0%

「その他回答および自由記入」一覧表

問4. 就農の動機についてお聞きします。
4-①家族など農業との関わりがありましたか。○を1つ付けて下さい。
その他回答
夫の家で農業をやっていた。
新規就農
就職しようと思っていたのですが就職できなかったので食べる物ぐらいは自分で作っていたから農業で生計を立てようと思いました。
実家は自分が生まれるずっと前は兼業農家だった。周り近所、農家が多い環境だった。
兄が12年前に新規就農をしていた。その姿を見て目に見えて確実に途絶えていきそうな農業を大切に受け継ぎたいと思った。
母が家庭菜園をしている
都市で暮らすよりも農村で土に根ざした暮らしがしたかった
夫が脱サラして希望した
Iターン
配偶者の実家が兼業農家であった為
亡き夫が農業を営んでいた
夫の新規就農と共に転職
実家が兼業で稲作をしていた
まったく農業しなかった。市内から引っ越してきた
4-②農業法人等での雇用就農や現在の独立就農など、農業で働く前は何をされていましたか。○を1つ付けて下さい。
その他回答
主婦
高齢者の介護に従事した後、出産を機に専業主婦だった。
主婦
料理の仕事をしていました
パート
タイで国際協力の仕事に就くためタイの農家で研修したりNGOの仕事を手伝ったりしていた。23~25才
主婦
保育士
保育士→主婦→JA研修
主婦
主婦
造園→生花店→農家（パート）
公立中学校
デコレーター
医療関係勤務
青年海外協力隊
専業主婦
会社員→主婦
派遣
4-③あなたはどのような理由で就農しましたか。就農した理由を3つ選び○をつけて下さい。
その他回答
夫が就農を強く希望したから

どんな生活がベストか考えた
結婚相手が農業をしていたから
自分自身が納得いく仕事をしたかったから。人を喜ばせる仕事をしたかった。
ものづくりに興味があったから
食に関わる仕事をしたかったから。作る仕事をしたかったから。
目標があったから。やりたいことね。
後ろめたい思いをせずに堂々と誇れる職業だと思ったから。
夫の希望
定年がないから
父の実家で利用されていない農地があったから管理のつもりで農業を始めた。
自分の生活が搾取や環境破壊につながらないものであることが一番の「国際協力」でそれが出来るのが田舎で自給的な生活をする事農業をすることだと思ったから
家族の介護のため時間の余裕が必要だったから
疲弊しつつある山間地農業に取り組みたかったから
今まで受け継がれてきた大切な農業、農地をお年寄りから受け継ぎ子供達へと渡したかったから
勤務していた会社まで遠く家の近くで仕事をしたかった
主人の「農業経営がしたい」という夢と一緒に叶えたかったから
種目が好きだから
人に喜ばれたかったから
家事の手伝い→就農
主人が農業をすると決め、始めたから
夫が就農を希望したため
夫が就農を希望したから
自分自身は反対だったが夫が就農を選んだから
農業をやりたいという両親の夢を継ぐため。本当においしい野菜を作りたいかった。
夫の希望
今後の食糧危機にそなえて自分で食べる事が出来るようになりたかた。
自然農法で農業をしたいという夫に共感して
米作りのみでは生活の糧にならないから機械等の買い替えも大変である為
なんとなく
歳をとっても出来るから
子供達に自然を残すため。子供達に生きる力を与える場を作りたい。農が生きるための基本だと思うので食と農と子どもをつなげたい。
夫が農業をやる事に決めたから
出会いや縁を通して農業でやっていけると思えたから
今のままよりも将来の可能性を感じた
4-④あなたは、農業法人等への雇用就農ではなく、独立して農業をはじめたのはどのような理由ですか。あてはまるもの全てに○をつけて下さい。そのうち一番重視するものひとつに◎をつけてください。
その他回答
夫がやっていたので
主人が親の畑を継いで農業をするのでそのお手伝いとして
農業法人が身近になかったから
その手段しかなかったから
その当時、魅力ある農業法人がなかったから。
近道だから

夫婦でNPOで働いていて私が産休の間に夫がNPOの方達と自分のやりたい方向性が変わってきて独立したいと言ったので賛同した。補助事業こなすだけみたいになっていて地に足のついたことをしたかった。
結婚相手が新規就農したため
自分の住んでいる地域で農業をし、農地農業を守りたかったから
就農はしているが両親と現在しています
雇用就農だと生活に困ってしまう為
年齢的に雇用就農は難しかったので、自宅から通える範囲に雇用先がなかったから
農業法人等の雇用がなかったから
やってみたい経営の形態があり、それを試したかったから
年齢が高いため農業法人に就職できない
農業法人への就職先が少ないから
夫の希望
2年間の研修後の独立が約束だった
研修先では独立する人しか受け入れてなかったからです。
家庭の事情により父親のすすめがあったから
主人が決めたので
夫が農業をやる事に決めたから
育児との両立
父親が死亡、母親の足が悪い、誰も使わないたくさんの農地を思ったとき、60才を過ぎてでもずっと働きたいから
問5 就農の経緯について教えてください。
5-①就農前に営農技術・知識はどのようにして身につけましたか。
役だったもの全てに○をつけて下さい。また、一番重視するものひとつに◎をつけてください。
その他回答
約9割が所有地
夫が農業大学校を出たので夫からの指導や指示
夫から教えてもらった
地元の農業従事者
先進的とは言えない農業研修はしました
普及センター農業試験場で働いていたから
市で行われる講座
やって覚えていくしかなかった
独学、実践
殆ど独学。わからないことや興味あることは見に行ったり、本で調べたりした。
農業法人で社員として働いて身につけた
市民農園を借りて実践した
なーんもしてない。移住してから学んだ。
県普及課
譲り受け元の農家での研修
タイの農家、NPOで農業経験があった仲間、夫は農家で4ヶ月研修
夫の指導
普及員の直接指導
JAの研修ハウスでの実践
同業者さんの話
夫が農業大学校で学んできたことを教えてもらっている
全農での研修

自分の目指す農業と同じ経営体での研修。トライアル支援事業。
就農前の知識はゼロで農協から独立し自分で全国に学びに出向いた
出荷組合での研修
親が農家で研修しそこから教わった
ニューファーマー制度
農業公社での研修
援農ボランティア
町の研修施設
家庭菜園を長く（8年間）経験、公民館での自主講座
前職で環境教育を行っており、その時の農林業体験活動
近所の方々に助言を頂きました
実践
県のアグリ塾に参加
5-②就農に当たりあなたが現在の地域を選んだ理由であてはまるもの全てに○をつけて下さい。また、一番重視するものひとつに◎をつけてください。
その他回答
結婚したら自動的に
役場の農業委員からの紹介
結婚のため
住みたいイメージにピッタリだった
震災後の原発事故で土壌汚染された地域で有機農業をするのは難しいと思ったので
私の実家があるから
自宅に近い
主人が先にこの地で農業をしていたから
色々と条件が私たちに合ったから。兄の紹介で。
土地の人達がとても親切だった
自分の実家に近い、交通の便がよい
自宅に近い
自宅から通い（車で片道30分）が可能である
被災者向け住宅でたまたま斡旋されたから
信頼でき、相談にのってくれるいろんな人がいた
家の近くの農地の借地
父が農地を所有していたから
NPOの仕事でここにいて家も買ってしまったし、はじめてしまったから別の場所へ行くと1からはじめなければならないという夫に従った。なりゆき。ここで引っ越してしまったら色々してくれた地域の人を裏切るような形になってしまうと思ったから。過疎化が進んでいる地域だからこそこでやらなければいけないと思った。
自分が生まれた町だから
観光農園の為、集客しやすい場所
自宅から通える場所だった。以前はS市内に住んでいたの
地域を選んだのではなく嫁ぎ先だったので
自分の持家に近い
今、住んでいる家でできること
研修先を頼ることができた（同町内）
K市より通作可能である
果樹の試験場があるので知見を得られる

観光農園に発展させられる要素があったから
家に近い
就農前の研修先（医師の近く）の近く。知人（農業関係者）いた。
結婚相手の実家（土地）があった
自宅が近い
住みたいと思う家を先に見つけたので
自分たちが求めていた農地の条件に合う農地があったから
地域に支援をしてくれる方がいたため
転作できる土地があったため
農地を持っていた
実家が同じ県内のため
町の就農支援施設
知人からの紹介
5-③就農先的生活環境については、何を重視しますか。あてはまるもの全てに○をつけて下さい。また、一番重視するものひとつに◎をつけてください。
その他回答
家族と一緒に暮らせること。夫が都内でサラリーマンをやっているので通勤圏であることが条件であった
圃に近いこと
人が暮らしていたら多少の不便はあっても暮らしていける証。特には考えませんでした。
住居の確保、家賃
住む家があること。それ以外は自分の努力と思います。畑があること。
交通の便がよい
フィーリング。暮らしたいと思えるか。
通いなので生活していません
直観力かなあ。「ここが良いな」と思ったらそこなんじゃないかしら。
雪国ではないこと（雪下ろし作業等、仕事以外での重労働が増えるから）
畑と住宅の距離が比較的近いこと
つながりを持ちやすい、売りに行きやすい場所（直売所など）人がそこそこ住んでいる場所。通年で野菜が作れる場所。暖かいところ。
農業経営がうまくいく環境かどうかすべて。その他の事は慣れや工夫で何とかなる。
9割が借地
持家があるので選択の余地はない
通作可能な地域であること
水がきれい自然豊か
住むところの風土や雰囲気、フィーリングが良い。住み続けたいと思えるかどうか。
自然豊かでのんびりしている事と周りの人間性が良い事
周りに理解してくれる仲間、またJAなどがあること
土地の水はけ、掘って井戸水が出るか
農地の有効活用、転作
家族の実家が近いこと
プチ田舎・自然豊かな所
就農するにあたり同じ目線あるいは指導していただける人たちがいる事。なぜなら農業はあまり人と接することが少ないと思うので人とのつながりが必要。
販売先に近い
出荷先、農協施設等が近いこと
農地が自宅近くに確保できる所

営農先を見つける
日当り、土
田畑周辺の環境状態（水や土など）
自然環境が豊かなこと
自然環境に恵まれている
5-④農地について、所有地、借地の割合はおおよそどれくらいですか。○を1つ付けて下さい。昨年1年間の実績でお答え下さい。
その他回答
夫の持家
結婚相手の実家の土地
父親の購入した農地を使用
義父の所有地
3分の2は借地
5-⑤農地はどのようなルートから確保しましたか。○を1つ付けて下さい。
その他回答
家族の紹介
親代々の所有地があった
近所から頼まれた
地元の農業従事者、農協、町
自作地だった
夫が研修先農家の知人から紹介をされた
現住まいの近くに農地を借りた
市役所の紹介
町役場に行って聞いた。知り合いから頼んでもらった。私たちの場合は新規参入向けの対策は一切ありませんでした。
市の農業公社を通して（特に新規向けではなかったと思う）
地域の農業委員から紹介してもらいました
農業に就いている人と結婚したので
相談機関が間に入り直接自治体が一緒に探してくれた。
所有地の耕作をしているうち、近隣の畑の人から頼まれて借地が増えて行った。
地域の方から頼まれて
農業委員からの紹介
地域の農業員の方の紹介
親の土地を引き継いだ
自ら土地の持ち主の方に話した
実家
両親が土地を所有しているので
農協で研修中に農家からの情報もらった
自分たちで地権者を調べ紹介してもらい直接交渉した
祖父の持っていた土地を借用
相続した
結婚相手の実家
行政へ希望農地を指定した上で所有者に根回しをしてもらった
車で回って地主さんに直接お願いした
主人の相続によるもの

市町村や農協等が新規参入者向けの農地を用意してくれた
農業公社からの紹介
自宅が農家であった
親
不思議なご縁で
町の就農支援機関
新聞に就農者としての紹介がのりそれを見て話が来た
子供の学校関係や隣近所との付き合いの中より
住まいの大家さんの土地を耕作しているうちに近隣の方から貸してもらえるようになった。
全く使われなくなった実家の農地
親戚からの紹介
結婚の時から所有
ご近所さんからの紹介
夫の実家で所有する土地を借りた。近所からの情報提供もある。
5-⑥住まいの確保状況はいかがですか。○を1つ付けて下さい。
その他回答
夫の親と同居
夫の実家
被災者向けの借入住宅
実家である
持家
初めは公営賃貸住宅・アパート→空き部屋
3年目まで民間アパート、現在公営住宅
自宅
就農前からの自宅から通っている
農家の後継者と結婚し同居している
実家
持ち家
実家
実家
自分の家
もともとの住居があり同じ町内で就農した
実家に入った
現状維持
最初は以前からの住まいより通ったが後日畑の近くのマンションを購入
持家
今まで住んでいた所と同じ（主人の実家）
就農以前より自宅に居住している
実家住まい
通作（片道40分）
家から近いので自分の家にいる
実家
マンションを所有し通いで就農
父親の購入した農地を使用
自宅

実家に戻った
実家
実家
自宅
通勤 30 分（片道）
実家
自宅
持家
夫の所有する家があった。
賃貸から新築（息子夫婦と同居）
5-⑦就農するまでに苦労した点であてはまるもの全てに○をつけて下さい。 また、苦労の一番大きいものひとつに◎をつけてください。
その他回答
普及センターなど相手にしてくれなかった
特になし
先に夫が始めていたので土地や資金など一般的問題で自分が特に苦労したというわけではない。
就農するまでに、というよりは私の場合はその後の方に苦労が多かった。
全て主人が苦労していて私はあまり考えてない。任せている。
販売ルートの確保
「農業なんて出来るの？」とほとんどの人に言われた。苦労ではないが。
青年給付金手続きの市とのやりとり
就農計画等、普及センターへ提出する書類の作成
働きながら就農の準備をした事
研修先探し
都会では不可能な動物を多数買う事が出来る
借りたくても相続などがきちんと行われておらず、借りることができない農地があり今も困っている
ハウスの設置が大変だった
女性が就農するという事への周囲への理解を得る事
JA システムの利用法、部会などの入り方
土地と作物の相性→最近、水につかることが多くなったので作物を転換しようと思っています。
5-⑧あなたが女性ということで就農するまでに男性に比べて苦労が多かったと思ったことがありますか。○を1つ付けて下さい。
その他回答
就農までのプロセスは夫が主に苦労していたので私は生活費のために歯科助手のパートをしていました。
主人が先に就農し、8年程たった後に入ったので特にないです。
主人と二人三脚で就農した為
私は夫婦での就農だったので就農するまでの苦労は感じなかったが2人それぞれで就農計画を立てるのが資金的にむずかしく契約全てが夫の名前となり、同じ努力をしても女性の地位は低いと感じることが多々ある。
夫婦での就農のためわかりません
結婚していたので何とも言えない
苦労とまではいきませんが女性ということで女性の目で見られることが多い。
男性になってやってみた事がないのでわからないが女性ということで土地を貸すのがいやという風に思われていたように感じた。
夫婦だったので「女性だから」という事はないが「土地を買って農業をする人でなければいい」と門前払いが多かった。

農業が好きだったので苦労とは思わなかった
農業も男社会で各種会合など女性の参加はほとんどなかった
5-⑨前問で「思ったことがある」と答えた方に伺います。それはどのようなことですか。あてはまるもの全てに○をつけて下さい。
その他回答
関係者からのセクシャルハラスメント、等。
直売所の出店の申請をする際、女性一人で行ったら断られた。
お腹に子供がいたので高所作業が難しかった
慣行農業は虫のわからないいい農業で、あなたのやろうとしている農業は虫のわく農業だと言われ、男性だったらお金もあるし、慣行農業で経営するのが地域の主流（果樹地帯）なのかと思った。
夫婦でやっているのと同じ仕事をしているのにも関わらず家の事もしなければならぬ
「農家に嫁に行け」と様々な人に言われた
①農機具の購入時何も知らないと見られてメーカー希望小売価格より遥かに高い値段をふっかけられた。（支払前に調べてわかったのでキャンセルした）
②農地ではないが直売所の土地の賃貸契約時に「お嬢ちゃん」扱いされてなかなか信用してもらえなかった。
③「農業がしたければ農家に嫁に行けばいい」と何度言われたか。
一人でするなら結婚したらと言われた
「悪いこと言わないから女一人で農業をやるのはやめときな」と先輩農業者に言われた
農協職員（課長クラス）の女性軽視の言動に苦労した
農機具が使えない
女性が一人で農業をすることは「大変だから止めた方がいい」と相談窓口や関係機関の担当者から反対された。
男性は町の研修生として（2月に10万円2年間支給されるが）私は研修生として認められなかった。よって金銭的な補助が受けられなかった。さらに町の研修生ではないので、条件の良い土地も借りられなかった。
農業の窓口はすべて夫から通帳も夫の名前で、自分は常に表には出ないような感じがする。
農地を探す上で信用を得るのが難しかった
同性の知り合いが近くにいない
「女性一人では大変難しい」という発言
女性が独立就農は無理だと言われた
農業がしたいならお嫁に行くのが早いと言われた
結婚相手を早く見つけなさいと言われる
夫婦での就農だった為「女性だから」というのはない
農業は不安定なので実績がないと信用してもらえない。女性だけの問題ではないと思う。機械、ハウスの構造、部品、etc. よくわからない
Q5-⑩前々問で「思ったことがある」と答えた方に伺います。就農するまでに大変だと思ったことを、あなたはどのようにして対処・工夫しましたか。主なことを具体的に記述して下さい。
自由記入
男性の作業者をつける。 他へ嫁ぐ可能性を指摘されないよう住居購入。 酒席等も必ず出席する。
公の場に行く時は、男性（夫）と一緒にいくようにしている。土地を新規で借る場合等も。
新規就農支援資金など話が全くなかったし、女性より後継者がいる所などにどんどん回って行って結局何も資金など支援をもらえなかった。また、認定就農者の手続きもとる前から意味がないとか、難しいとか言われ相談にも載ってもらえなかった。
お腹に子供がいてビニール張りなどができなかつたので手作業をした。
目標を高く設定すると達成感がなく悩むばかりなので経験の中で自分の限界を知る事。
耕耘をして農薬をかけなければ生業として成り立たないといふのであれば出来るということを実証すればいいと思ったので耕耘する農機具と農薬をかける農機具も持たない農業をしています。

機械や重い荷物を持つ事は主人にまかせ自分は細々した仕事をしている。
実行、続けることで周りを納得させる？
機械等の改修、力仕事で困った。 研修先の先生や知人に聞きアドバイスをしてもらった。
反対されたことに関しては押し切りました。 体力的に一人では出来ないことは周りの方々に手伝ってもらったり業者に頼んだりしました。
どうでもいい人にはニコリ笑って「そうですね～」と流した。そうでない人にはなぜ「自分」が就農したのかを正直に筋道を立てて説明したらわかってもらえたと思う。体力面に関しては作物を軽いものにし、大型の機械や設備を導入しなくてもいい栽培法を選んだ。
技術的な面は研修を受け入れて下さった農家さん、県の職員さん(普及員さん)、研修で出会う事が出来た方々に聞きまわりました。資金面は夜、アルバイトをして一定の生活費、貯金をしました。
研修先や地主に主人を連れて行って二人で就農を真剣に取り組んでいることをアピールした。
女ということで村の人からも手伝いの申し入れ等頂いたが、それに甘えてはいつまでたっても一人前として認めてもらえないと思い、出来る限りのことは自分でするようにした。どうしても力を借りなければならぬときは、代わりにその人が忙しいときに手伝った。(村では農薬散布や耕耘等「男の仕事」として認識されていたが女でも出来るという事を示し、一農業者として認めてもらえたように思う)
その地域は頼れる農家さんに相談し、その人を通じて農地を貸してくれそうな方の所へ挨拶と一緒に言ってもらったりした。具体的に農業を始めるにあたりシュミレーションするのに農家さんにいろいろ質問したりした。
あまり気にしないでたっだいい作物を作る事に専念
農業はトラクターや管理機など機械を扱う事が多いのでそれを使いこなさし、整備する知識が足りないので苦労した。以前の仕事が工場勤務で、工具や機械の操作にある程度慣れていたので、あとはやりながら覚えていった。
結婚しないと前に進まないと思ったので自分の考えを理解して同じ目的をもってやっていけそうな価値観を持った人と結婚した。
研究先の農家さんからの助言、配慮を頂いて一定の距離をおいてお付き合いをするようにした。
冷静かつ論理的に自分の意見を説明する。あるいは説明を求める。どうしても意思が通じない場合は上層部 or 関係機関、先進農家に協力を求めた。些細なことであるが不快に思うことについては耐えるしかない。
夫と共同で経営しているので体力を使い、大掛かりな作業時は夫の休日に合わせて行うことにした。また、はじめはまわりの方も協力してくださり、一緒に作業を手伝ってもらったりした(農協の部会に加入したことは大変よかったです)
外見が地味で無い為か、独立(新規)就農を支援する様子は見られず、むしろやめさせようとしている様に感じ取れました。(県、市)ここは強い「思い」をぶつけるしかないと思い、言いたい事を伝え押し切ってなんとか就農することが出来たように感じます。
周囲に反対されても自分の意思を強く持ち、積極的に研修に参加し、農業関係のアルバイトをして就農の意志を信じてもらえるようにした。
農業の知識が全く無かったので、自分なりの農作業日誌をつけて、一つ一つ覚えていった
重いものを運ぶなどの体力面での不安、機械作業の習熟、育児をしながら農作業など、とりあえずは全てがむしゃらに取り組むしかなかったです
地域の農業委員から、途中で投げ出して周りに迷惑をかけられたら困るので、ここで就農しないでくださいと言われた。そこで実績を作り周りに認めてもらう事が大事だと思い、畑をよく手入れし、新植した苗木の生育に注力した
愛想笑いが出来る。優しく教えてもらえる
恩師、知人、両親、師匠への相談。強い農業をやるという思い
・粘り強く親を説得した ・ネット etc. で情報収集をした
技術指導は父が行うことで、行政やJA、農地所有者に理解を得ることが出来た。「後見人」がいなくて素人は壁に阻まれてしまうと思った。女性であることで「本当に一人でできるのか？」と男性から思われてしまう。行政、JAのみな男性だから、「農業=大変な仕事」と思い込んでいて頭が固いのではないか。

夢を言葉で語るより、研修先で精一杯与えられた仕事をする事で、徐々に周囲が反対から応援に態度を変えて行ってくれたとおもう。長期戦を覚悟する
普及センター、開発公社(旧)等の方々になめられている感じがしました。「子供が出来たらどうするの？」等々の質問を受け、不愉快でした。本当に出来るのかと何度も言われ、農業会議、ジョブカフェ、普及センター等々、結構行きましたが、たらいまわし状態の時期もあり苦労しました。
体力的に自信はなかったが、私たちが目指す農法には機械を使用しない農薬、化学肥料を使用しない方針を打ち出していたので危険度が少ないので自分も出来るのではないかと思った。
体力的に男にはおよばないが研修中から男と同じ作業をしてきた。トラクターなどの運転を自ら先にし、体力以外の面で工夫した。
農業大学校で研修中に作った作物を持って関係機関や就農地域の方々、農地を貸してくれそうな方をまわった。
好奇の目で見られることについては2年以上の時間で対応できる。 同性の知り合いが近くにいないことは普及所が提示してくれる研修などになるべく参加するようにした。
当時付き合っていた彼に就農する意思を確認して共に就農することで男での確保をした。
自分の出来ない事を無理せず他の人、夫や友人や業者にたよる。少しずつ分けて植えつける事。
畑で作業をしていると、近くの農家の方がたまに声をかけて下さり、色々教えてくださる事。男性よりも女性の方が話しかけやすいのかなと思います。
私自身農業経営なくこの町に来たので、過去の銀行員や税理工事務所の経験で人と接する事は多く学んだ。農業も一つの企業と考えることで発想等、現場重視の男性と違い提案することが出来たように思う
<ul style="list-style-type: none"> ・粘り強く親を説得した ・周りの方が懇切丁寧に指導してくれた ・思い切りよく決断できた
普及センターや農業会議に相談に度々行った。とても良くしてもらい今日がある。普及員の女性にもお世話になった。今ではお客様で、大変助かっています
研修期間中に周囲の方々とは出来るだけ関りあい、(飲みに行ったり)自分の農業への姿勢を理解してもらうように努めた。それと同時に研修中にしっかりと研修し、毎日畑に出て作業してくることで、自然と理解してもらえ部分もあった。
女性というだけで軽い気持ちで農業がしたいと思われたりしたが、とにかく目の前の事を一生懸命やっていたら必ず見てくれる人がいて、どのくらい真剣なのか伝わるし、理解してくれる人が出てくる。
家族(とくに夫の)理解と協力を得ることが一番大事で労力エネルギーが掛かります。より具体的に実現可能なプランを持つこと、独りよがりにならないで柔軟に家族の意見に応じることが肝要と思います。
トラクターや管理機など日曜日を待って主人に手伝ってもらった。 体の負担を軽くする為、男の人が1回で運ぶ荷物を2回に分けて運ぶ。
力仕事は夫に任せて自分のできる事を手伝う。
夫婦でお互いをサポートすることで全てOKです。
9-⑩あなたが女性ということで就農にあたり男性に比べて良かった点がありますか。○を1つ付けて下さい。
その他回答
良かった点というか危ないからという理由で機械類を使うときには同じ組合の男性陣がきてくれます。ハウス設置の時も組合員で協力しています。
夫婦での就農だったので男性女性の問題に関しては全くありませんでした。
Q5-⑫前問で「ある」と答えた方に伺います。それはどのような点ですか。思い起こして記述して下さい。
自由記入
人の記憶に残りやすい。
ファーマーズマーケットで販売しているが女性の感覚で商品を作り価格設定すると売れ行きが良いと感じる。
仕事が丁寧。片付けが出来る。細かい作業が得意。
直売所への出荷が中心のため、あえてマーケティングする必要がない。(家庭で自分が使いたいと思うものがその時期に必要なものだから主婦の感覚で出荷できる)夫が働いているので決断しやすかった。

新聞などに取り上げていただける
草取りや束ねたりする細かい作業は男性よりも女性の方が向いていると思う。直売所の出荷時のラッピング等も男性よりもセンスがあると思う。
・残念ながら女性であるというところであまり本気で受け止めてくれなかった分、いろいろな経験を自由に自分の思うようにできたこともありました。 ・農業に就いている独身の男性に(私のわからないところで話がついてあり)会う機会が多々あり農業について話が出来たことや人のつながりが出来ました。
まあまあ優遇されるのではないですかね
就農の一環としての直売で。 農産物を買に来るのは女性が多い。その女性(主婦)の視点に立って商売できたお蔭で現在盛況になっていると感じる。他にも「まけてくれ」というお客に「いえ、勝手にまけたらお父さんにおこられるんで…」と断ったり(笑)現在は私が経営主だということが知れ渡っているのでその手はきかないが就農当初はこれで体よくあしらった。
女性ならではの見方で販売方法を考えられる。たとえばラベルのデザインや店頭のディスプレイ。箱売りギフトの提案。加工についてもいろいろ試作、検討できる。
女性ということで注目度が高く、色んな人が自分を覚えていてくれたり、話題に取り上げてくれたりのおかげで、少しずつ顧客が増え、信用が上がってきました。
トラブルがあった時、男性に比べて恐れ度度がやさしいような気がする
農村は人の流動が少ないので珍しがられて、おじさん達に興味を持たれて気さくに話かけられた。栽培方法などいろいろ教えてもらえた。
家事を行うのは圧倒的に女性が多いため自分の作った作物をどのようにして食卓に活かすかアドバイスしたりされたりと意見交換が出来る。女性ならではの悩みや苦労を共有し合える。
収穫した果物やお米を以前から興味があった加工品(ジャム、菓子、ドライフルーツ、麴、おこわなど)にして販売していけること。
女性だから軽視されること(人)がある反面、女性なのによくやっていると応援・協力してもらえること(人)も多々あった。そのことが理解できれば困難があっても解決方法はあるはずだと前へ進むことが出来た。
若い女性の就農は畑に立っていて目立つ気がする。まだ、定着していないので、珍しがられる。しかし、女なのに、女やからと言われたことは全く不思議な位ない。
家事をするために早めに帰って、みんなの食事が作れること(料理を作るのが好きです)
何をしても今時の若者なのにえらいとほめられた。(農家のお嫁さんはけっこう農業をやらない方も多いので)
観光農園のため、女性から喜ばれる様な農園を作る完成を持っている事。
男性とは違い、細やかな仕事出来る
女性ということで周りの皆様に気にかけていただいている部分が相当あると思います。不用な資材をいただき、農地の紹介などして頂きました。目立ってしまうことを生かし、赤い服を着て作業しています。話しかけてくださる方も多いです。
就農地の人達がみんな「よく決心したね」と親切にしてくれた
おそらく物珍しかったり、大変だろうと思ってもらえたりしたのか。よく相談にのってもらいました
近所のおばさん達が「女ひとりでよう頑張るとるわ」と励ましてくれ、立ち上げの時、初収穫で、てんてこまいしてたら、パートに来てくれた(安い賃金で)女性の応援は大きい。
周囲がピンチの時に、手を貸してくれやすい雰囲気は女性の方があるのでは?女性一人の酪農就農の前例がない分自由にのびのびとやれている。変なプレッシャーがない。
周りの方々が優しくしてくれる
消費者(購入者)は女性が多いので女性の視点から農業経営について考えることが出来た。
何度か会って話をし受け入れてくれた方々は就農にあたり就農をささえてくださった。
・接客の当たりがよいと思う ・栽培や商品のパック詰めに対して細やかな視点で見ることが出来る。
研修先の農家さんとの交流がスムーズに行えた事。現在も交流があり、古いハウス資材等をもらいうけ、育苗施設等に利用している。

主に産直での販売なのでお客さんお好みの花や色、値段といったことが割と分かっていたと思います。また、お客さんとのコミュニケーションも私が女だったから話しやすい点もあると思います。直接ハウスに買いに来る方もいらっしゃいます。また、お客さんの中には栽培の方法や花の選び方などを聞かれる事もありますし、女性の方が良かったと思う点は多いです。
女性就農者として色々な取材を受け、一時的な広告にはなった
農業を全く知らないので、みんながとても親切でした。年も40歳過ぎで田舎では若いと言われた
料理を作るという立場から、作物を見る事が出来る。(これは女性というようは、料理を作り続けてきたという積み重ね)
大変に孤独な作業ですので理解と共感を持った仲間づくりが欠かせないと感じています。女性ならではの、でしょうか相談できる相手を確保することも継続への重要なポイントだと思っています。私の場合は近所の農婦人(おばあちゃんクラス)とよく話すことで色々な知恵を頂きます。
柔らかい物、傷つきやすい葉っぱなどを扱い続けてもストレスがたまらない。むしろ得意な方。
色々な面で協力してくれることが多かった
女性ということでの話題性を活用できる。親切にしてもらえる。
夫婦での就農だったので男性女性の問題に関しては全くありませんでした。
若い女性で農業を志すのは珍しいので、地域の方々が親切に接して下さる。農作業の中には特に女性向きの仕事があるので、ある程度責任ある仕事を任せてもらえる。
問6. 現在の農業経営の状況についてお聞きします。
6-①経営している作目を次から選んで、あてはまるもの全てに○をつけて下さい。また、販売金額が一番大きいものひとつに◎をつけてください。
その他回答
加工品
加工品
加工品
有機農業
ハウスで苺作り
ハーブ
農家レストラン
観光農業。6次産業(加工)
原木しいたけ
ハーブ
6-③農業はいつもどなたと行っていますか。あてはまるものを全て選んで下さい
その他回答
繁忙期は家族に手伝ってもらう
共同経営者、パート
パートの方
基本は自分のみ。同居している83歳の父が軽い仕事なら1日2~3時間手伝ってくれることもある。4年半前から隣市に住む姉を平日4時間(週2~3日)時給650円で雇っている。他に農繁期は農協が募集をかけたヘルパーに来てもらう。
祖母
研修先の農家の方々
6-④農業経営のスタイルについて当てはまるものに○を1つつけて下さい。
その他回答
両親
自分が経営主で母と農業をしている
自分と息子

夫と夫の親とで同居経営している
自分と親、姉
両親と一緒にしている
自分と祖母とで共同経営している
自分と父親で経営している
自身が経営主で夫に協力してもらっている
自分が経営主で夫はその経営に従事している
家族（父母）-主人を除く
息子夫婦と
会社化されている
3の逆。自分の経営、夫、雇用人がいる。
6-⑤あなたの経営内での役割であてはまるもの全てに○をつけて下さい。
その他回答
家事、育児、介護、施設管理、配達、研修生対応、苦情相談
直売所用ポップアップやラベルなどの販促ツール作り
何でも施設修繕、管理等
ほぼ自分で運営していますが草刈り等、営業などはパートナーがやってくれます。
ネットでの発信
農作業
従業員指導。経営計画。
6-⑥農作業や飼育管理の他に次のことを実施していますか。あてはまるもの全てに○をつけて下さい。
その他回答
味噌加工
イベント企画
6-⑨休日は、取り決めがありますか。○を1つつけて下さい。
その他回答
平日の週に半日と日曜の午後
季節や農作業の状況により相談しながら
自分は週休一日制だが親（母）は手伝いなので週休3、父は忙しい時のみ
年間60日とし天候や農閑期にあわせてとる（原則月5日）月の休日がとりづらい場合は自由時間を設けたりする。
無し。農業に休みなし。
ここ数年出産と育児で休業期間が長い
農繁期は週休1日、閑散期は週休2日
1年中毎日収穫があるので休みはありません
月1～5回酪農ヘルパーが来る日
農繁期以外は週休1.5日休み
冬期は休み。雪のためほとんど出来ない。
週休1日から0日
6-⑩農業経営上で苦勞している点の全てに○をつけて下さい。 また、苦勞の一番大きいものひとつに◎をつけてください。
その他回答
①果樹なので収益をあげるまでに年数がかかる（木が大きくなるまでに）
②実が着果～収穫の間に台風がくるので果実の見た目が悪くなりハウスの修理が必要になる。
天候に左右されることも多く、もの日に出荷出来ないと収入に大きな差が出てしまう。

経営者としてのスキルアップの出来る場所がない
妊娠出産中の経営難
獣害
部会員同士の仲が悪く居心地が悪いが土地、農協、部会ともに高齢化にたいする長期的ビジョンを持っておらず、短期的取り組みも皆無。今後、独自の経営スタイルをのびのびと築いていけるかどうか不明。
農作業と子育ての両立
膝や腰など体を壊す
自然が相手なので雨が続いて病気が発生する等、思い通りに行かない事も多い。
夫が厳しい。休みがない。
動物（猪）被害対策とその管理、中山間地のため2 tクラスのトラックでさえ圃場へ乗り入れが出来ず堆肥などの運搬が容易でない。
早朝から働ける人手の確保が難しい
借入金返済
休みがとりにくい
作付け計画を立てる事。またその通りに実行すること。
鹿、猪などの被害
現時点で農業を続けていく難しさ（両親の高齢により）
雇用する際に農業に興味のある若い人材を探すのが難しい
獣害。猪の食害で単価の高い（イモ類）作物を作れなくなってきた
販売方法の確立
農業の新しい方向性(観光農園)の支援、理解が得られるなど
6-⑩農業経営をよくするために今後何に取り組もうと思っていますか。 あてはまるもの全てに○をつけて下さい。また、一番重要なものひとつに◎をつけてください。
その他回答
接木苗の販売
貯蔵施設の充実
生産効率を上げる
経営者としての考え方を身につけたい
教育と農業をつなげる
機械化
6-⑪あなたが女性ということで男性に比べて農業経営を行う上で大変だったと思ったことがありますか。○を1つ付けて下さい。
その他回答
主人が力仕事や自分が向かない作業をしてくれるため
経営主体は夫で私は指示に従うのみ
日陰で気軽に寝ることが出来ない
6-⑫前問で「思ったことがある」と答えた方に伺います。それはどのようなことですか。 あてはまるもの全てに○をつけて下さい。また一番大変だったものひとつに◎をつけてください。
その他回答
夫が主に経営しているのでよくわからない
子育てや親の面倒を見るために途中で作業を切り上げる事
機械や備品の知識がなく抵抗がある。虫に弱い。
出産前後でも同じように仕事をしなければいけなかった。その時の気持ちの切り替え。
子育てしながらの農業。あまり想定しなかったので大変。

夫と二人でやっているストレスのはけ口になって、疲れる時もある。お互い行き苦しくなることもある。農業者同士の交流も男性主体で女の人は交流がない。孤独。子供を育てながら働かなければならない（子育てとの両立）家事、子育て、農業やって全部やって「あたりまえ」というところ。
家事、育児もあり、農作業時間は限られている。いろんな仕事とのバランスが難しい。
育児・主婦業との両立
農作業をフルにしても家事もあること
女性一人でやっているのを知って畑に置いてある資材を盗まれた
家事にも時間がとられる
夫と同じ時間帯で同じ作業をし、帰宅してから夕食の準備をすることが体力的にきつかった。
衣料品も女性のはセンスがなく機能的でない。また家事と農作業の両立は大変である。
妊娠中に赤ちゃんが農薬の影響があるのではないかと怖いと思った
機械類の調整や修理などがわからない
馴染みでない取引先の方になめられる事がある
農業資材などの仕入れ先から足元を見られる
子どもがいればさらに農作業にたずさわると時間が減る
ハウスのような狭い所は難しい。土地が低いのでトイレを置けない。諦めるしかない。そんなことを言えたら出来ない。でも若い人はかわいそうです。親が70才を過ぎると保証人になれないので、大金は借りることが出来ない。台風の時、大雨の時、ハウスと作物を守ることが出来ない。
社会的理解も難しい
問6. 現在の農業経営の状況についてお聞きします。
Q6-⑭前々問で「思ったことがある」と答えた方に伺います。農業をやっている大変だと思ったことを、あなたほどのようにして改善・工夫しましたか。主なものを具体的に記述して下さい。
自由記入
体力のいらない作業を選ぶ。 生理日は思いっきり休みにする。 力仕事はプロに頼む。
耕運機、刈払機、モーターは男性（夫）に動かしてもらう。支柱立もお願いしている。
資格を取る（大型特殊、牽引、リスト、農業機械など）野菜ソムリエなどの専門的なことなどの知識などの勉強をしたい。
主に軽作業に従事。 労働時間の短縮。
男性、女性という性差は取り払えないことなので未だに克服できない問題です。
自分の体力にあわせて作業をしています
トイレは作ってもらった。 まだ始めて間がないが体力面は容量が自分の作業の仕方を工夫中。 いつも使う機会はだいぶ慣れてきたが1年に1回しか使わないような機械については大きさや使い方などまだしばらくはうまく使いこなせないと思うが事故の無いように慎重に扱いたい。
通常はあまり気にならないが妊娠し思うように体が動かず苦勞している。
・力が不足する分時間をかける ・ラッピングして女性ならではの商品を作る
同じ作業を1日中していると体がきつい。 一日ですべてを終わらせようとせず作業を小分けにして計画していた日数で片づけるようにしている。
体力的に大変なことは周りの方々に手伝ってもらう。 なるべく女性でも使いやすい機械を選ぶ。
悩みに悩んで悩みぬいて自分で打破するしかありませんでした。 相談にのってくださる方もいらっしゃいましたが、日々の事に追われて追われて時間が過ぎていきました。
筋力の差は埋められないので軽い作業を選び、負担にならない栽培法を模索した。体力はあって当然と思われる世界なので体調管理に細心の注意を払う。（休養はきちんととる。食事に気を付ける。深酒はしないなど）

体力的なことは仕方がないと思う。その他の面で男性より頑張ろうと、例えばメロンの紐掛けの速さ、正確さを確実にしようと思いました。
<ul style="list-style-type: none"> ・夫婦経営協定をむすび役割をはっきりさせたら気持ちが少しすっきりした ・女性就農者と愚痴を話すと癒し
<p>考え方を変える。</p> <p>作業をできるだけ力がいらぬように工夫する。どうしても力作業になるものは時間をかけてぼちぼちとやる。トイレは圃場の片隅で人目がないときにさっとすませる。日焼け止めはいくら塗っても汗を拭いたら落ちる。ひらきなおって小麦色の肌を自慢する。</p>
体力的に自信があった方だが、農業を始めたら軟骨が擦り減りすぎて変形性関節炎になってしまった。大変な作業は一人でこなさず、何人かで分担し、負担を少なくする様にした。
別の世界を持つ子供が幼稚園に行きはじめていたので友達をつくった。農業経営に関しては口出しをしないように心掛ける。
機械の操作が出来ないので手作業が多い。トイレは近くのコンビニを利用。
<ul style="list-style-type: none"> ・自分がするより夫がした方が早くて正確な力仕事は任せる事 ・家事・育児の為に農作業時間が限られるので家で夜に出来る事務作業は自分がして早朝に短時間だけまじり畑へ行って作業する。
夫婦でしているので出来るだけ体力に合うように分担してもらう
夫の役割分担を見直した。得意なこと、不得意なことを明確にし、能力に応じた作業配分にした。
<ol style="list-style-type: none"> 1. 体力をつけるのとコツをつかむ 2. 合うように頑張る 3. 同世代の女性を引き込めるよう頑張る 4. 近くのコンビニへいく 5. あきらめる、自然にそった生き方を選んだからしかたない
家族での仕事の分業を行う。我慢と努力（資金がたまって改善して行く）
農薬でまけたこと。散布しているときはぼうかぶりをしている。
気合！
夫と共同で経営しているので体力を使う大掛かりな作業時は夫の休日に合わせて行うことにした。また、はじめはまわりの方も協力してくださり、一緒に作業を手伝ってもらったりした（農協の部会に加入したことは大変よかったです）
<ul style="list-style-type: none"> ・体が体格的に不利な点については頑張れるということは頑張りますがダメなときは夫に任せます。向いている仕事、出来る仕事をそれぞれやればよいと考えます。 ・トイレは近所の公園を利用させてい、時にはハウス内で用を足すこともあります。それくらいできないと続けられないと思います。
<p>大変だと思った事…子供が病気の時の看病、学校行事への出席、農繁期であればスタッフの方にまかせて申し訳ないという思い。</p> <p>改善、工夫…仕事よりも子供の事を優先させるべき。スタッフの方にも同じように仕事よりも子供優先あるように経営者（主人）が常日頃より予備かけている。のでありがたく子供の事に専念させてもらう事が出来るようになった。</p>
体力的に男性に比べ力が弱い、圃場にトイレがない、トイレにいけない、日焼けなど美容面で心配 上記3点は特に改善無し
<ul style="list-style-type: none"> ・体力的な事は体操や筋トレ、ヨガなどをして改善を試みています。 ・トイレは近いうちに設置を考えています。今は近場のスーパーや自宅に帰ったりしています。 ・日焼けはUVカットクリームや長袖長ズボンを着用して防ぐようにしています。
出来ない事は頼む
近くのコンビニや直売所のトイレを借りた
<ul style="list-style-type: none"> ・家から5分ほどの圃場なので、作業途中でもトイレに帰ったりする夫にわかってもらう ・家事を子供、夫に手伝ってもらう。農作業を少し早めに切り上げて帰る
体力的に男性に劣るのは仕方がないので、夫と役割分担し自分の出来ることをみつめてやっている
体力的に劣っているならば他の事で頑張っていれば良いと気持ちを切り替えている
30代から40代にかけて空手の稽古に通ったことは体力向上に役に立った 機械は慣れるしかないが、女性向きの機械講習会などがあると助かります

土壌が山土のため硬いので、パワーシャベルで耕した。機械を活用すると女性でも農業をやっていると思う
改善・工夫していない
農林事務所、農林大学の恩師、友人のつてを使って信頼を得るようにした。トイレが借りられるようにお願いした。(地主)
耐える、あきらめる、筋トレをする
改善は出来ていない。出来る範囲でやるしかないと思うことにしています。
男性に比べて能力が弱いことは、物理的にどうしようもないこと。だから出来ないとは言っていないので、自分に出来るやり方でこなしている。作業員は主人と2人だけなので、2人で協力してできる事は2人でやり、そうでない事は分業して行っている。農業を始めると決めた時点で女性だからとか、男性と比べて女性だから出来ない、出来るといった考え方は持っていない。それでは農業はやっていけないと思う。
力を使わずにすむよう施設の形や作業の手順を組み立てる。時間をかければできることは時間を作ってする。牛に自分で出来ることはしてもらおう。
重い物などは機械(運搬車)を購入して機械をたよる。
農作業は主に主人がやっているのですが今は大変ではありませんが、軌道に乗るまでは無理もしました。男性の理解が大切です。子供中心に生活しているので子供達が独り立ちすればもっと参加して老いをカバーし合っていくつもりです。
夫と相談し作業時間を減らしてもらいたい、家事も労働として考えてもらうように変更した。夫よりも早く帰宅し、夕食の準備を以前より早く始めることができ、体力的にも負担が減りよかった。
作業を夫と完全分業にしお互い負担を軽くするようにした。 ・家の外作業は夫、内作業は自分とか・・・ ・トラクターは自分、管理機は夫とか・・・ ・朝食は自分でとか・・・
ジムに通って体力をつける工夫をしている
夫の協力、両親の協力
体力は知恵を時間で改善する。例えば台風対策は外れても前もって準備する。トイレはゴム長をはきかえ近くのコンビニへ。機械は夫にお願いし、レンタルで。
夫婦で役割分担を決め、どうしても無理な力仕事、トラクターなどは夫に任せる。全てを夫に任せるのではなく出来る限りの力仕事をして体力をつける様心がける。
はじめ機械の扱いが大変でしたが、慣れてコツがつかめてくると、それ程力を入れなくても扱えるようになりました。また、ずっと作業をしているうちにいつの間にか力がついていて、前よりも楽に作業できるようになりました。トイレは近くの研修先の農家のハウスに置いてある簡易トイレをお借りしたり、畑が遠い場合は近くのコンビニでお借りしたりしています。
他の経営体と比べて厳しさが少ない事を実感しているが、どうしても従業員から見れば母親の様な存在となっているので、私の会社のカラーと思いつめた
過去両親とも若かったという事で農業をするにあたり苦労とも思わなかったが、現在私、両親とも年齢的に農作業が大変になり始めた。この2~3年農業を続けていく上での問題を考えている。まだ改善していない
力仕事や育てることについては、自分のできる範囲でやれるのだが、機械物が苦手なので、その部分については夫に来てもらって手伝ってもらった。あるいは馴染みの店を作ってその店に相談したり、依頼したりするようにしている
息子に就農してもらった(他県にいたのを帰らして)次男は農業大学校へ行かせた
取引先(機械屋、肥料屋、種苗屋、資材屋 etc.)に関しては出来るだけ、知り合いの農家さんに紹介してもらおう事になっている
仕入れる時は2社以上から見積もりをとって価格が妥当かどうか調べる。おもに農協の資材店舗を基準にしている
県の窓口は、夫に対して開かれていても妻の私は情報が届かない。県の職員さんは就農一年目は足しげく通ってくださったが「夫のお客様」という認識で「農産加工がしたい」と思った時に「相談できる窓口」としての認識がなかった。自分で動いているうちに気がついたので、夫を通してではなく直接自分が窓口に行った
男性も含めた共同経営で得意分野の仕事をする

体力がない分はどうしようもない。力作業は出来れば、単発バイトのようなもので来てもらえれば良いが・・・
体力は徐々につけていったが、無理な作業は夫に任せている
刈り払いなどは、負担のかからないよう、ベルトなど改善しかなり楽になった。まだ、土手刈などは工夫が必要・・・
・出荷日とか忙しい日が続くと午後9時ごろ帰宅、朝、6時ごろ出発。必要最低の家事しか出来ない。-手抜きをする ・野菜がいっぱい入ったコンテナを毎日かかえると腰が痛くなる。-軽い作物に帰る ・ハウスの不具合はどう直したらいいのかわからないし、直せない。-いちいち主事にどうしようと相談する。-主人がハウスについて勉強してなんでもできるようになった。
いろいろな人に相談する。経験により指導方法を自分が改善する（雇用人に対して） 苦手な機械も知識をつけて指導するか専門の人を雇用するか、専門の業者に任せるかしかない。 誠意と押しで粘り強く交渉するしかない。
自分の出来る範囲の事をして無理なことは夫にしてもらう。
夫との役割分担を明確にする。できる事を頑張る。
行政など各種セミナー、会合に出席するようにした。売り上げ（実績）をあげる様努力している。
6-15あなたが女性ということで農業をやっていて男性に比べて良かった点がありますか。 ○を1つ付けて下さい。
その他回答
あまり考えたことがない
女性ならではの目線が役に立つこともある
女性にしかできない（女性だからできる）農業経営を目指しているのでやりがいがあるが女性だからということはない。
性差より性格によるものだと思う
男でも女でもいい事もあれば悪い事もあると思います。「女だから良かった」というとらえ方をしないので、よくわかりません。
わからない
20歳で研修して21歳で新規就農（独立）だったので組合長に私くらいだと言われました。珍しい？みたいで。
Q6-16あなたが女性ということで農業をやっていて男性に比べて良かった点がありますか。 ○を1つ付けて下さい。
自由記入
女性ならではの視点を持つと思う。
生産した物を加工したり、クラフトに使ったりと楽しめる。
仕事が丁寧。片付けが出来る。細かい作業が得意。
野菜や花など、消費者（実際に購入する主婦など）の視点で生産し、出荷調整することが出来る。産直向けの出荷のラッピング等は男性より向いていると思う。
珍しい分注目して頂ける
細かい作業は女性に向いていると思う。
女性は母性があるので、それが全ての事に生きてくると思います。
珍しいので覚えてもらいやすい。気を使ってもらえるのかキツイ厳しいことは言われたことがない。女性が食に関わっているということでイメージアップが図れる。
農産物を買うのは女性が主なので、品質やパッケージの仕方など女性の方がきれいに良い物を出荷できると思っている。また、料理をするので使い勝手の良い大きさなどを知っているので品種選びに役立つ。
・細かいところが目につき易い気がします。 ・安定を求めるのですごい莫大な投資はしない。
・長く消費者の立場であったことでニーズを把握しやすくターゲットのイメージがしやすい ・消費者の意見（友人等）を聞きやすい
直営の店をしていますがお客様はほぼ女性なので女性目線で全て出来るのでラクー

出産や育児など女性にしか対応できない出来事に対し、農業は大らかな仕事であると思う。ただし、夫の理解が大きくかかわってくる。
育てる能力は女性の方が高いと思う
農業は収入が不安定で一家の大黒柱として家計を背負うのは大変である。うちは夫が公務員で休日に手伝ってもらってやっているので、農業で稼げた時は生活に余裕が出来る。
研修や勉強会に参加すること。講師（大学教授や研究者）の方が丁寧かつ真剣に接して下さる。女性なのによく頑張っていると応援して頂けるがひしひしと伝わってくる。何よりの励みになっている。
細かい点に気付ける。お客様はほぼ女性が多いので同じ目線で見られるからそれをつくる面に生かせる。
女性というだけでハードルが低く女の割に良くやっているとされる。
<ul style="list-style-type: none"> ・苺をつくっていますがパック詰め作業などや苗の手入れなどは女性に向いているのではないかと思います。楽しいです。 ・農協の部会の皆さんも自分が女性ということで、より親切に教えてくださったりして頂いているのではないかと感じます。
スーパーで品出ししているときなど消費者の方に声をかけられやすい。調理方法など気軽に聞かれる。女性という事でコミュニケーションがとりやすいのかも。
珍しいので、新聞の就農時に取材を受けたりした
営業しやすいです
料理が好きで、料理を通して研修生や販売先に「農の心」を伝えられること。またパッキングや苗作りなど女性ならではの細やかさを必要とする仕事もたくさんあります
パック詰めや間引きなど細かい作業をアルバイトさん達と楽しく取り組める
細かな継続単純作業に向いている
よくメディアにも取り上げられ、地域では目立ち興味で直売所に来てくれる人もいて、売上UPに繋がった力がない分、優しく接するので牛が穏やか。出来ないことは出来ないと言え。そして結構助けてもらえる。自分の健康管理がちゃんと出来る。
ハウスを建てる際に応援に来てくれて手伝ってくれた。
女性の方が食べ物（農産物）への関心が高いため、私の友人知人の多くが注文、購入をしてくれている。めずらしがってもらえるので知らない人でも話かけに来てくれる。マスコミにも取り上げてもらえる。
体調の具合や祖父母の介護に時間が併用できる。
直売等では男性よりは有利であると思う
収入面で男女差がない事。時間の融通がきくので育児、家事との両立がしやすいこと。
以前研修時に店頭販売等お客様と直接交流する機会がありました。野菜を購入して下さる大半は女性なので、同性どうし話しかけやすいと言われた事があります
加工が出来るまた、辛抱つよい
人との接触の仕方に男性よりも柔らかさがあるのではないかと思います。近隣の方々が惣菜などを持ってきてくれて夕飯に食べたると優しくしてくれる
まだ、珍しかった時なので、県、町、職員さん達に大変親切にもらった。勉強会にも参加し、発表の場も与えられ、視察が多くある
仕事の付き合いではじめて人に会うとき、女性で就農したということで、既に私のことを知っている人が多いので話が早い
私達が作っている野菜は手作業が多いので、器用さやスピード力を考えると女性の方が向いている
農産加工への道すじをつけた。結果、いくつかの賞を頂いたり、農産物自体への評価を高めたりすることが出来た。
女性は料理をしたり、子育てしたりが男性より多かったりするので、食べ物としての農作物を見る視点が優位であることが多々あると思います
販売の仕方の工夫、料理をする者の目線で考える事ができる。（買う人は女性が多いので）
お客様の大半が女性の方なので、コミュニケーションがとりやすい部分がある。また、お客様の立場に立った商品作りがしやすい

<ul style="list-style-type: none"> ・男性のように無理なこと（最初にやり始めた作物がまわりの自然と合わないとわかっててもやり続けること）に意地を張らないで、頭を切り替える。 ・日々の成長を見守るのはどこか子育てに似ている。
農産加工を手掛けられたこと
問7農村での生活について
7-①農村生活で苦勞している点を3つ選び○を付けて下さい。
その他回答
酒場が遠い
就農した当初はこちらの風習に戸惑うことばかりだった
特になし
農閑期の仕事がなかなか見つからない
都市周辺に比べて運送業者の運賃が高い
自分の住んでいるところが農村だと思っていない。そもそも「農村」の定義が何かわからない。
通いの為農村生活をしていない
高速費が高い
農地から車で7分の県営住宅に住んでいる
保育所が都市部より充実していないこと
学校、幼稚園が遠すぎる。子供の遊び相手がいない。
自分の実家が遠い
若い人が少なく、地域の生活に変化がない
公的機関の個人情報に対する意思が低すぎる。だだ漏れ。
交通機関が不便で子供や老人の送り迎えに時間がかかる
作業の手伝いを頼める人がいない
ゴミの収集日が少なすぎる
夫と妻と一緒にいないとすぐ聞かれたり一挙一動がすぐ広まったりする
雪国なので除雪が大変です
同世代の農業人がいない
地域に入りきれない
5年くらいは苦勞したが・・・なれるまで、今はなし
近所の泥棒。ハウスを破られる。犯人はわかっているけど親戚の人がたくさんいて大きな声で言えない。嫌がらせが続く。でも、私は110番しました。何度も。まだ捕まっていません。
他人がもうけるといやがられる不当にお金（土地代金等）を交渉事でなめられる。高く請求される。
日常生活の場と農地は離れている
問7農村での生活について
Q7-②前問で「苦勞している点」を、あなたはどのようにして改善・工夫していますか。前問で選んだ点について具体的に記述して下さい。
自由記入
積極的に友人を作るようにしている。
共同作業には積極的に参加してコミュニケーションをとるように心がけている。
②まとめ買い
④病院にいかない
⑦学生の頃の友達と連絡をとったり、泊で遊びに来てもらったりする。
「出来ることはやる。出来ないことはむりにしない」のスタンスでいること
環境はなかなか変えられないので「ここはここ」と割り切って外にたまに出ることでストレスを発散させる。
つきあってくれる人とつきあっている。縁がなければお知り合いになれると思っている。

<p>買い忘れが無いようにきちんとメモして出かけるようになった。 病院については今たちまち困っているわけではないが近所のお年寄りには苦勞されているので自分たちの将来を考えるともっと改善されるといいと思う。 隣近所づきあいは情報がすぐ広まるので借地で農業をしている立場なので多少気は使っている。</p>
<p>私が住んでいるところはいわゆる農村ではないが、現在の農業収入だけでは大赤字なので夫の収入に加え自分でもアルバイトなどをして生活費を稼いでいる。</p>
<p>地域のイベントに参加し交流を増やす</p>
<p>買い物はまとめて購入し、病院は行きつけの所をなるべく近くで探します。同世代の友人がいない点はあまり工夫の仕様が無い様に思います。</p>
<p>仕事が精一杯やっても終わらないあまり近所の方と話をしている時間がない。 気にしないでもくもくと仕事をしている。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・買い物も病院も自分ではどうしようない。距離の問題。割り切ってやるしかないです。 ・農閑期がないような経営が出来るよう調整中
<p>苦勞と思ったことがないので、田舎で暮らす以上全てを受け入れる位の覚悟がないと生活できないと思います。あまり深く考えない方がいいのではないのでしょうか。</p>
<p>ムラ社会の為、都会の感覚でいると知らぬ間に問題を起こしてしまう。あいさつをしっかりしてムラの仕事には積極的に参加している。</p>
<p>子どもができるまでは朝から晩まで夫と一緒に農作業をしていたので、なかなか友達作りの場がありませんでした。子供が出来てから保育園などを通して同じ世代のお母さんと知り合うきっかけが出来ましたが農作業も忙しくなかなか集いの場には参加できません。なので農作業の落ち着く冬場など自分が少し動けるときに自分からイベントや食事に誘ってみたり年に一度でも交流の機会を作る努力をしています。</p>
<p>買い物が不便 インターネットを利用し届けてもらう 近所付き合いが難しい 大方の親戚関係と仲の良し悪しを把握する よそ者に見られてしまう 様々な行事には必ず参加する。地域の言葉を使う。積極的に話をする。</p>
<p>車のナンバーをすぐ変えた</p>
<p>まじめに農業に取り組んでいる事を見てもらって信用される様努力している。もちろん挨拶は欠かさない。</p>
<p>近所づきあいをあまりしていないので(忙しく)友人は他業種の人が多い</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・病院はまとめて薬をもらうようにする ・買い物は県外に出たときにまとめるけど、大きな薬局がほしいな～ ・高速日はどーにもならない。しょうがないし。
<p>よそ者であるのはどうにも変えられない事なので気にしない。</p>
<p>今の時点で改善工夫はしていません。</p>
<p>パート</p>
<p>自分の入院や出産のときは一時的に親を呼んで助けてもらった。後はなるようになるの気持ちで。子供が流行りものにかかって長期保育所を休むことになっても割とどうにかなったので。</p>
<p>苦勞したものは既に改善、受け入れたので苦勞とおもっていない。選んだものはあきらめているもの。</p>
<p>ただ耐える</p>
<p>子供を育てるにあたって県北地域には高校の数が少なくて選択の余地がなかった。都会の実家に居候という形で私立高校に通学させることになり、子供には農作業の手伝いをさせられなくなった。</p>
<p>時間とガソリン代はあきらめて幼稚園に行く</p>
<p>生活費は主人の給料でやりくりをしている。周囲の目に対しては開き直り。</p>
<p>「生活費が足りない」については加工事業を出来るようにして改善したい。 「共同作業やむらの集まりが多い」「自分の実家が遠い」はこういうものだと受け入れて慣れること。</p>
<p>生活費が足りないので少しでも収入をあげるため加工品を工夫して出したり野菜や花苗など、直売で売れそうなものを育てたりするよう努めている。</p>

<p>「病院が遠い」今の所大きな病気にはかかっていないので農閑期に治療する 「一挙一動を注目され息苦しい」は、気にしないようにする。むりしなければいけない付き合いは避ける。 (一定の距離感を常にキープする) 「教育環境が悪い」交通の便が悪すぎるので子供がいたらこの地域は選ばなかったかもしれない。 「公的機関の個人情報に対する意識が低すぎる。だだ漏れ」は対処不可能</p>
<p>「一挙一動を注目され息苦しい」は、注目してもらえると、とらえて前向きに取り組んだ。見ている人が元氣もらえた!となるよう一生懸命頑張ろうかと思うようになった。</p>
<p>気にしない。気の進まないときは休む。我慢すると疲れるので無理せずマイペースを貫く。</p>
<p>自ら積極的に行動、地域のルールをきちんと受け入れる。 経営内容で結果をだし認めてもらう。あとは時間をかけて解決。 買い物に出た時にまとめ買い。</p>
<p>立場上しかたないと思っている</p>
<p>会社員時代の貯蓄を切り崩している。(アルバイトを始めようと考えている所)</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・生活費はお姑さんに援助してもらっていた。 ・学費は市から援助してもらい児童手当でも補てんしている ・子供の学校の父母や書道教室の先生などと話をする
<p>仕方がないとあきらめる</p>
<p>ご近所との距離が近くて大変な面はあるが、直売をしていることで近所の皆さんに農場に足を運んでもらう事が出来て、コミュニケーションには非常に役に立っていると思う</p>
<p>介護の送迎サービスなどを利用した</p>
<p>②に関しては通信販売を利用 ⑥、⑦に関して、地域の一斉清掃に積極的に参加して、町内会の役を引き受けたりしている</p>
<p>1. 新規就農支援事業の利用 6. 通りがかりの近所の人にあいさつや世間はなしをするようにする</p>
<p>結婚相手の協力と貯金を切り崩すこと</p>
<p>物欲を捨てる。あきらめる。別の楽しみを見つける</p>
<p>過去と他人は変えられないので……。いろいろ言う人には反論せず言われるままにしておく。口を出してくるわりには、手伝ってくれないので、収穫時等どうしても人出が欲しい時は、農林事務所に頼んでいる</p>
<p>自分の力では問題の解決方法は今時点ではない</p>
<p>とにかく畑している時間が長いほど、「頑張っている」と好印象になるようなので、土日頑張った。(見栄ではなく、休みたたくても休まないということ)子ども会、PTAなどの地域行事は積極的に出て、地域の同世代を知ることを実践。農業者以外の友人が多数出来てお客様にもなってくれる。</p>
<p>出来るだけ参加し、どうしても無理な時は無理だという。特に工夫していない</p>
<p>病院は病気にかからないようになるべく行かない。買い物は通販を利用したり、まとめ買いしたりする。</p>
<p>田舎の人はお話が大好きなので極力会話をするようにしている。ただし、あまり余計な声話さない様にする。(噂が広がるのが早いので)</p>
<p>きりつめて生活しています。でも子供に十分なお金がかけれないのが悲しいです。主人が決めてきたので主人が対応していますが学校や地域での役割は負担に思います。時間のある世代にもっと活躍してほしいと願います。</p>
<p>生活費においては節約を心掛けている。同世代の友人がいないことに関してはまだ農作業で忙しいため何もできていないが、将来的には趣味などを始めたいと思っている。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・自ら地域の集まりに参加したり、おすそ分けをしたり声をかける ・一挙一動をいわれたり、すぐ広まるがそれを逆にひらきなおるように心がけている ・自分を失わないようにする
<p>研修などに参加して知り合いを増やしている</p>
<p>地元が40分くらいの距離なので、たまに友人に声を掛けて遊ぶ。近所のおばちゃんと仲良くなる。</p>
<p>普段買う食料品などは車で10分ほどの場所に店があるので不便はない。近くに売っていないものはインターネットや通販を利用するようにしている。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・自動車の運転免許を取って買い物や病院に行く。 ・外食はしないで家族でなべを楽しく食べる。

作付面積を増やし、技術を向上させ収入を増やす。(自分で経営をはじめて1年たっていない為まだ面積少なく収入も少ない)
生活はもらい物が多く助かっている。 共同作業はできるだけ出席しているが、忙しい時は断っている。近所の人には分かってもらっている
気にしない。頑張っていれば伝わる人には伝わると思う。コミュニケーションの場を逃さない
2日分の食材をまとめて買う
人がいないのだから改善できない！が強いて言うならば家族経営なので農業のつまずき等はすべて話せる。また、父が指導者等とのつながりが大きい為女性以外の人出入りがよくある
挨拶をするようにしている、通る人々にも・・・。
息子が結婚してから、まわりの見る目が変わった、本気だと・・・”よそも”と言われなくなった(10年くらい言われたが)
4に関しては仕方がない。 7に関しては新しく習い事を始めたりしてみました
買い物をする時は1週間分ぐらいの料を買いだめしておく。
6、7、8、について、就農直後は二年間集落に住んだので、強く感じていた。ハウスの移動にともって、別荘街に越したところ、そのストレスは無くなった。ただ、そちらでも当然地域の手伝いはあるが、移住者同士だと感覚的に近いので、つきあいが気楽になった。しかし、集落に住んだ時の人間関係はいい部分で残っている
今は宅配の生協を利用しているので、あまり困っていない
・生活費に関しては、できるだけ自給する。アルバイト等による補足 ・共同作業等は改善しようがない。田舎は同居が多く、地元の人には年寄りが出る、若者が出ると分担できるが、私は核家族なため、全て参加せねばならずその分農作業休まないといけない
生活費については、今後増やしてゆけるよう努力中。病院にかかることはめったにないので、今のところはそれほど困っていない。集落の集まりは、多いが、出席を強要されることはないので、仕事の時は、お休みさせていただいている
病院に行くときに、必要なものを買いに行くようにしている。普段から近所で買えないものはメモしてまとめて購入
地域の行事イベントにはなるべく参加することを決意。また引き受けられる役(班長、体育役員、etc.)は受けて積極的にかわりを持つことでほぼ解決出来ていると思います。
忙しくても頑張って参加します。 大学がないので皆さん大変だと思います。小さな子供にとっては自然がいっぱい良いと思います。 防犯カメラを実家とハウスに付けました。カメラの映像なら周りの人も分かってくれると思います。
誠心誠意説明したりお願いしたり、その人の知人をお願いしたりする。周りにはとにかく低姿勢で話をする。
これから自分の農業技術を向上させて販路を工夫していく。
生活費は足りないまではないがもっと増やしたいので選択と集中で仕事をしています。 買い物は不便なので休みの日は県を中心まで車で買い物に行きます。 同世代の友人がいないのは遠くの友達とメールのやりとりで我慢しています。
あいさつ、畑仕事を一生懸命、草で迷惑かからない様草取りはきちんとし少しでもお話をしたりする。 一定の距離を保ち、平等に周囲に接していくことを心掛けている。
7-③農村生活で満足している点や充実している点など住んで良かったと思っている点を3つ選び○を付けて下さい。
その他回答
通いの為農村生活をしていない
農地から車で7分の県営住宅に住んでいる
栽培適地＝収入確保(安定)＝精神的余裕＝農村生活充実の短期実現
生活(収入)は自分の結果で決められる。
周りがのんびりしている
自分で作った無農薬(低農薬)の農産物を食することが出来る
生活環境が変わっているわけではないのでわからない

交通アクセスが良い
加工など地域からの老人から教えてもらえる
問8. 最後に、あなたの家庭のことについてお伺いします。
8-③家事はどうしていますか。(あてはまるもの全てに○をつけてください)
その他回答
外食
全て自分がしている
全部自分がしている
全て自分
食事を研修先でいただいています
友人と共同
8-⑤-①前問で「いる」と答えた方に伺います。(いくつでも○) 保育所等の送迎は誰がしていますか
その他回答
嫁
妹
嫁
8-⑤-②前問で「いる」と答えた方に伺います。(いくつでも○) お子さんの夕食の支度は主に誰がしていますか
その他回答
嫁
妹
嫁
問9. 将来の抱負はなんですか。こんな事をしたい、こんなふうになりたいなど自由に記述して下さい。
自由記入
加工、直売までが目標。
無理のない程度の農作業をし、その収入のみで生産できるようになりたい。(贅沢な生活でなくて良いので)
農業を軸に生活していく事。 その中でより多くのかかわりを大切につながりを広げたい。 大切な知恵や資源、お金ではない財産を守り、伝えられるものは伝えていきたい。
農産加工やレストランなど野菜ソムリエなどの資格を使って、その土地の農産物を使ってできる6次産業などしてみたい。
子どもをたくさん産んでそれぞれ独立させて夫と共にのんびり現在の仕事を続けていきたい。
ハウスでのトマトを増産したい。(施設を増やす)
・美味しい農産物でおいしく加工し、美味しく提供していく ・農業・食を通して情報の発信をし、農業の大切さ、やりがい等を知ってもらいたい
安定した経営(天候等に左右されることがない収穫と価格)の農業 通年出荷(四季を通じて農作できること)
不耕起で農薬はせず(果樹地帯なので、飛散はしてきていますが)農機具は草刈り機と鍬の農業で生計がたつものなのか実証してみたい。この人の野菜はうまいと言われてみたい。
I ターンで就農した夫の元に嫁いなので将来的な農地の問題も頭がありながら(借地なので)いつもこのようなアンケートに答えています。 せっかく田舎に引っ越してきたのだから自分が作った作物でいろんなものを作りたいという思いもありますが、加工品というよりは安全で安心な野菜をしっかり作っていききたい!というのが今の私の目標です。土づくりや肥料、農業の根本的なことは知識のないままこの世界に入ったので少しずつ勉強して試してみたいと思っています。
今でも援農に来てくださる方はいるのだが、いろいろな人と交われるOPENな農業を目指したい。

<p>女性だから可能な農業をしたい。 消費者の目線の農業。 基礎拡大より多品目、集約的な野菜栽培。 所得率の高い農業、家族経営。</p>
<p>地域の人が集まるような場所にしたい。（摘み取りに来ていただいた方が小屋でお茶を飲みながら話したりしあえる居場所に）</p>
<p>一人前の農業者になること。 まずは栽培管理の技術をしっかり身につけて食べて行けるくらい農業で稼ぐこと。 5年以内に自分で作った野菜を加工して直売所等に出荷したいです。</p>
<p>子育てと仕事を両立し、農業を元気に続けながら家族で朗らかな暮らしをしていきたい。</p>
<p>現在は農地を借りているが、いつか家と農地が一緒になった自分の土地で農業をしたい。</p>
<p>営農技術を高め、仕事が苦にならず収入を増やしたい。自分の作ったものを買いたいと思ってもらえるようになりたい。自分の農地が欲しい。</p>
<p>ワークショップ等が出来る形を整えていきたい。 よそからのお客さんも来られ、また地元の方も気軽に来られる。おしゃべりの場のようなものが提供出来、またそこから自分もあらゆる情報が得られる場所が欲しい。 何もおかない。ある程度の広いスペースがある部屋。何にでもなれる部屋を用意し、時と場所、利用される方々の世代にあわせて変幻自在に町内外の方も自分も楽しめる。販売スペースもある。そういったいろんな人がつながっていく。場所づくりをしたい。</p>
<p>現状維持。もう少し安定して野菜を収穫できるようにしていきたい。</p>
<p>店を安定させたい</p>
<p>特にありません</p>
<p>身の丈にあった自分の農業を続けていきたい。一生現役でやれたと思っています。</p>
<p>まずは経営、栽培方法を安定、確立させる。情報発信を充実させる。自分が作るモノにどのような付加価値がつけられるか、どのような価値が求められるかを常に考えどうしたらつけられるか、どのようにつけるか実行する。</p>
<p>美味しいとお客様から喜んでもらえる様になり、それで生活できる、収入が得られる様になりたい。</p>
<p>少しずつ安定した生活を送りたいです</p>
<p>地下資源に依存せず、自立した農業の技術を身に付け日本や世界で広めていきたい。</p>
<p>料理が好きなので料理や手作り品、味噌作り、梅干し作りなどで人に喜んでもらえたら嬉しいです。</p>
<p>今、漠然と考えていることは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冬に安定した収入が望めないなので農家レストラン的なことが出来ればよいなと思います(地域で一緒に作り農作物を栽培し提供) ・伝統文化を受け継いで子供に話したい
<p>なるべく長く農業をつづけられるように経営を安定させ、健やかに家族仲良く暮らしたい</p>
<p>誰にも負けない良い花を作れる様になりたい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分がお金を払って買いたいと思うものを提供していきたい ・自分が会社員だった頃に出会いたかった提供方法を作り出したい ・年間農業所得を最終の会社員の時の年俸までにしたい
<p>あるある。ぼんやりとだけど！ でもナイショ。ここに書く義務なしです！ 考えたくない</p>
<p>ハウスでトマトや刃物を作っています。会社から有機肥料を買って使っています。生活していくためには、このやり方が一番もうかるのでよいのですが、もしできるのならば露地で自然農をしたいです。</p>
<p>とりあえず就農時の目標（売上500万、所得300万）は達成したのであとは安定した老後を送れるよう働ける間に預貯金を少しでも増やしたい。（国民年金だけでは非常に厳しいので）</p>
<p>夫と農業を続けていって、世界の農村を身に行ってみたい。子供たちが農業をやりたいというかは分からないが、しがらみにしばられないでもらえたらと思う。もう少し純和風な家の内装にして自分の実家近くの農業とは縁のない友人たちに第2の故郷のように思ってもらえるようにできたらいいです。</p>

私はブルーベリー栽培しているのですが、夏場は収穫のピークです。暑ければ美味しい実が成ります。そんな時期だからこそ摘み取り体験を増やしたいです。そしてジャム加工もとても簡単に出来るので是非小学校の食育体験の場として活かせればうれしいです。（自分たちで摘んだブルーベリーでジャムをつくる。そして給食のパンにつけて食べる）
まずは農業で生活できるようにすることが第一
本格的に加工にまわりたい。
規模拡大、海外進出
<ul style="list-style-type: none"> ・出荷先を増やしたい。現在 JA 出荷がメインになっているので、価格が市場まかせになっている。他の出荷組合に入って販路拡大したい。 ・また自分の家は県道沿いなのでトウモロコシや有機米の直売をしたい（現在 JA の協定により禁止されている）
自分の得意なことを活かして農業に関連した自分の事業をしたい。今住んでいる地域に移住者を増やしたい。どうかしたい。
一年を通してその季節に収穫できる野菜を不足なくお客様に提供できるようになりたい。
果物の加工品の販売がしたい。 自分の趣味の時間をもっと確保できるようにしたい。
ぶどう園での直売を充実させるだけでなく、そこが地域の交流の場、オアシスのような場になればいいと思っています。 自家産の農作物を使って美味しい加工品を生み出していきたい。
高齢化、加速化、加えて農政改革と農村が今までに経験してこなかった局面を迎えるにあたり、既存の農村システムにとらわれない自由は発送で自分たちの農業を創っていききたいと思う。農村の危機は新規就農者にとってはチャンスでもあると考えている。実現したい。
無農薬、無肥料の自然栽培で、環境も生き物も取りもどし、今まで食料をつくる大切な畑、田としてまもらられてきた先だちの思い詰まった農地を絶やすことなく、受け継ぎ、未来の子供達へ大切にひきついでいけるよう頑張りたい。
今よりも時間的に余裕のある生活をしたい。所得の維持、負担の早期償還。
現在、夫は会社員ですが、将来は一緒に農作業をしたいと思います。
まず、当面は栽培技術の向上により所得をあげたいです。将来的には今サラリーマンの夫と一緒に農業一本で生活できる環境にしたいと思います。（就農後の生活を考えて兼業という形にしていますが、今それは正解だったと思います）
<ul style="list-style-type: none"> ・次第にお客様が増え需要に応えられない時もあるので、それをなくしたい。美味しい、おたくの野菜でなければ・・・と言っただけの野菜を育てたい。 ・子供たちに農業の良い面、厳しい面を知ってもらい、そのうえで職業選択肢の一つになるように色々知ってもらい、その上で職業選択肢の一つになるように色々知ってもらう活動をしたい。
「農業」という道の職種に就き8年目。農業の素晴らしさ、楽しさがだんだんとわかってきた感じがしています。次の目標として「加工」をしていきたくと考えています。将来的には農地を拡大し、収入を増やし、生活費の安定（特に教育資金）を得られるようになりたいと思っています。これから農業を志す方々に目標にしてもらえるような農家になりたいなと思っています。
一つの受け入れで田舎の良さを知ってもらいたい。
“女性だからできた素敵な農園”にしたい。どんな市や県からたたかかれても負けたくない。
今よりも美味しい野菜を作り、年中出荷できるようになりたいです。自分の加工所をもち、野菜を無駄なく使いきりたいです。農業を通して色々な人と出会い、良い刺激をたくさん受けたいと思っています。逆に農業を通じた地域貢献が出来たら良いなと思っています。
子供がいずれ跡を継いでくれて、それをサポートしていければ良いと思っている
<ul style="list-style-type: none"> ・農業でも受かるようにすること。（まだまだ生活が大変なので） ・繁忙期は仕方ないとしても、決まって休みがとれるようにしたい
<ul style="list-style-type: none"> ・イチゴ園の規模を拡大して、もっとたくさんの人に美味しいイチゴを提供したい。 ・農園にカフェなどを併設して、地域のみなさんが気軽に集まるようなコミュニティスペースを作りたい
加工所を建てて、近所のおばあちゃん達でも働けるような場所を作りたい。 女性だけの別会社をつくりたい

<p>・耕作放棄地の増加と担い手不足は重度に深刻です。農村の住環境を整えるためにも、農地の利用方法を合理的に考え直し、担い手に円滑に手渡せるシステム作りをして行く事が急務です。当社は担い手育成を自ら行ない、青年給付金や農の雇用などの制度を利用して人材の育成に取り組んでいます。彼らの定着を促進するには、まだまだ多くの課題があります</p>
<p>毎日を楽しみ過ごし、たくさん働いて、疲れてぐっすり寝る・・・という生活が私の目標です。心身共に健康であること！</p>
<p>農業をしながら悠々自適の生活をする</p>
<p>就職時と同じくらい給与を貰えるような農業法人にしたい</p>
<p>いつかは規模拡大したいが、今は栽培技術のみがいて、今の面積で収量を上げること</p>
<p>規模拡大、安定した生活。家族を作る</p>
<p>今は子供中心の生活で仕事が思うようにできないが、手が離れたら、栽培管理に力を尽くし、売上を3倍にしたい</p>
<p>家が古いので、立て直したい</p>
<p>生産者の部会の中で、トップクラスの成績を取り続ける</p>
<p>農業一本で食べて行けるようになり、ゆくゆくは農業を目指す女性の受け皿になりたい</p>
<p>ただの農家で終わることなく、加工品の受託等を請け負って、会社組織として収入の多い農家を目指したい</p>
<p>ビニールハウスを建てるかして営農の中心にしたい。（現場1棟のみなので） 加工場を建てて、農業仲間とシェアし、加工品を開発販売し売上UPを図りたい</p>
<p>目指すのは”儲かる農業”をすること。人を雇えるくらいの規模になりたい。また、農業は男性の仕事という概念を覆すくらい、女性が自立できる仕事だと言えるようにしていきたいと思う。男社会が根強い環境は古い。もっと女性にも農業をやってほしいと思う。主人が動けなくなっても、私だけでも農業がやっていける位にするつもりだ</p>
<p>多品種栽培で直売出来る野菜を増やしたい。経営が安定したら、小さい子を持つ女性の雇用を積極的にし、女性のやる気を応援したい。加工品にも取り組み、冬の収入を増やしたい。</p>
<p>もう少し自分の自家を持てるように農作業を効率化していきたい</p>
<p>規模が大きくなりすぎているので、少しずつ縮める。環境整備をもっとする。もっと効率よくいろいろなことが出来るようになる。牛の寿命をもっとのばす。</p>
<p>私の地域で出来る作物をもっと他府県の方々に広めていきたい。</p>
<p>農地が悪く収入にならないので、その改善と新たな農作物も考えていかなければいけない状況です。加工品も考えていきたいです。</p>
<p>・人々にやさしさを与えられるような農園をつくっていききたい。ただ、作物を作る場所ではないこいの場にしていききたい。 ・安心、安全な食べ物について学び、良い情報を発信し、健康や環境を守っていききたいという人々の意識を高められるよう努力したい。</p>
<p>10年以上農業をして自分の自由になるお盆も貯金も一円もなく未だ借金をしなくてははいけない。毎年、体力的にも弱っているので将来より来月の心配もしなくてはならない日々不安がある。 安定（自然相手だけ）した入金がある作物をかんがえていくよう又、加工も考えたい。</p>
<p>今年は1年目という事で、所得も思った程なかったし、栽培技術の点でもまだまだなので、来年は少しでもよくしたいです。また、来年はハウスも増えて計7棟になる予定なので母と2人で頑張ります。5年度までに今借りている農地をハウスで埋めてしまいたい。そうすると雇用も考えないといけなくなりますが・・・。 あと問4-④答えになっていないと思いますが、なんで独立したかは自分でもよくわかりません。ただ、雇用されて農作業だけしている方が楽だし、自分もつかわれている方が楽だけど、それだと忙しい時は良いけれど忙しくない時は仕事がない状態になってしまうので、それではいけないし自分で農業したいと思ったので研修してそのままの流れで独立してしまっただけです。実家がりんご農家でハウスたてる農地がなかったので農地の確保は大変でした。</p>
<p>農業で生計を立て、規模拡大を行っていききたい。</p>
<p>・堆肥作りが資材を購入しなくても栽培をとりくめる環境を作りたい。 ・パートを雇用しているので雇用費を十分まかなえるだけの収入を得たい。</p>
<p>作付面積をもっと広げたい。繁忙期は人をやといたい（摘果等）</p>
<p>自分はこの時代に生きている一人として昔からある農業を次の世代へ引き継いでいけたらと考えている。</p>

・農産物加工品の販売に挑戦したい・生活面ではいろいろなものを自給自足したい
農地の改良をすすめ、農業所得を増やし効率的にまた今の所有している農地をまわして合理的に作業が出来るように日々考えています。よくばりですが食育につながる農地にしたいです。
現状に満足せず常に栽培技術の向上を目指して頑張りたい。シーズン中は子供と遊ぶ時間、趣味を楽しむ時間など、ゆとり時間が少なくなりがちなので、さらに作業効率を上げる工夫をして農業一色でなく充実した生活が送れるようにしたい。
苺の観光農園をつくって、その中に子供たちの遊ぶところや、子供たちのめんどうをみてる場所があり、大人の人もゆっくりとしてもらえる苺狩り園を考えている。
小さな村でこれといった産業がなく、各自で農業を（自分たちだけの）している状態です。地域の特産物をもっとアピールして村全体が協力できる地域づくりをしたい。
今は農地を借りているので自分の農地として使いたいです。また販路は産地ですが自分で配達できる範囲しか販売できないので、都市方面への販路も欲しいと思っています。そのためには野菜や加工食品とも連携した販路を考えたいです。
今のままで満足
子どもや孫に継いでもらえるような農業経営者になりたいです。農薬や除草剤、化成肥料を使わないでも経営を継続できる栽培技術を身につけたいです。そして、農業をやりたい女性の研修生を受け入れたと考えています
定年がないので、ずっと農業で働いていきたい
私の今の夢は、若者を農業に参入させることです。彼らの何年か後の成長、変化がとても楽しみです
今の仕事が続けられるように、無理をあまりしないで、細く長く働いていたい
過去、私が農業をする上で考えていた事が、現在では思い描けなくなってきた。若い時に出来ていることが、これから先自分がどのようにして農地（作付）を守っていくのか重荷になってきている。家族経営でも子供達に後を継がせるという事を考えても農業は大変なもので、それだけの収入が見込めるものではないと思う。農地を新たに求める人は資金的に大変だと思うが、農地がある人にとっても重荷になっていく問題でもあると思う。今の法人化する仕組みは少し考え方が甘いと思う。進め方にも問題があるのではないかな
いい品物を作りたい。現在、バラを作っているが、長持ちしていいね・・・と言われるようになった。長く保ち、しっかりした品物を作る肥料、水の管理などを身につけていきたい。また、経費が3分の2以上もかかるのももう少し経営的に楽になりたい
農園をもっときれいにしたい。まだ手つかずの草だらけの土地があるので花、果実を増やしたい。約4haあるので、管理できない（農薬を使わないので）
土づくりにもう少し力を入れ、もっと勉強したいです。とにかく奥が深い。電気関係の知識を漬けて、灌水システムを自作してみたい。そのことで省力化していきたい。道内だけでなく関西方面にもう少し、販路を広げてみたい。
六次産業に力を入れたい。いろんな野菜を作っているのだから、それらを加工して商品化したい。それによって、通年雇用出来る環境を整えたい
ハーブを育て、ハーブティやハーブを利用したクラフトなどを提供したい。現状ではトマト栽培で手いっぱい、自然環境や恵まれた食材を生かしてきていない。時間、人手が悩みだったが、工夫すれば人手も確保できそう。ハーブの加工については、再生可能エネルギーでやりたい。「人間として豊かになりたい」そう話し合える仲間と共に歩みたい
夫婦二人で始めた農業を会社化しました。次世代に引き継がせたい為です。今年こそ赤字体質を抜け出し、私達二人がいなくなっても営農、経営が安定化するよう、頑張りたいです。そのあとは草むしりボランティアで会社に貢献したい。死ぬ間際まで土に触れる毎日が夢です。
・みつばちとバラを核に、年をとっても続けられる農業を行う。 ・有機農業を通して、地域の自然を守るための核となる場を作り、子ども達が農作業の体験を通して生きる喜びを知ることが出来るような事を行いたい。自然や命を守る・大切にすることを伝えられるような場所作りを行いたい
定期的な休みを取れる。ゆとりをもった経営。野菜のみでなく、穀物、その加工、エネルギーの自給等身のまわりのものは、なるべく自分で作るようになりたい。障害を持った方の雇用など・・・
色々な加工品などを覚えて、加工所を作り販売したい
稲作ができるように自分の環境を整えてゆきたい。体力面、資金面、強化、土地の確保、機械化！家族を巻き込んでゆきたいですね。

<ul style="list-style-type: none"> ・生活に余裕が出来たら施設とか老人ホームとかに新鮮な作物を配りたい。 ・太陽光発電で安定的な作物を生産したい。-あくまでも夢です。 ・台風の恐怖が無いハウスを持つことができたら…育てたい作物がいっぱいです。
安心安全の食材の生産農園から「いこいの場」としての農業体験（食育、日本文化の伝承）、カフェ地域貢献（放棄地の改善、雇用（過疎化の改善、地域の活性化）、新規就農者のお手伝い
昭和32年生まれの私が60歳になるまでに（あと5年）何とか経営の道筋をつけたい。
健康を維持し、年老いても農産物加工をしたい。
農業が安定してきたら自分たちの作った野菜などで加工やカフェをしてみたい。
頭を柔軟にして考え、どんな形でもいいので農業に関わって35歳までに目標1,000万！（売上）のこりが700万あるといいなあ…と思い、それに向けてプランを立てている所です。
法人化をし、ほかに協力してくれる。同世代の農業に従事する方々と研修生と地域のお手伝い（アルバイト）して下さる方々と楽しく働きたい。農業でも週1回は休みを入れ、長期休暇もあつたりと栽培計画を立てたりして頑張りたいと思っています。私は今のところ夫について行っているだけなので自分もいろいろ法人化についてや畑についても学んでいきたいと思っています。
法人化をする。農作業は若者に任せて自分達が生産した農作物や加工品を日本中に紹介して、納得して購入してもらえるように営業したい。
健康をテーマにした観光農園（体験農園）の展開。「食」や「農」に関心を持って欲しい。いろいろ情報発信をしていきたい。
問10. これから新規参入(独立就農)しようと考えている女性がいた時に、あなたが真っ先にしてあげたいアドバイスは何ですか。自由に記述して下さい。
自由記入
無自覚なセクハラに注意して欲しい。 悪気がこないとか、よくあることとかでうやむやにしない。 失礼なことは変わらない。
知人のいる地で就農したほうが良い。始めは中古の資材や機械を安くゆずってもらえる事が多いので顔の広い知人がいると探してもらえる。
本当に自分がやりたいと思ったらすぐ始めれば良い。 始めてからが勉強だから。 お金は時に厳しい事もあるけれど、それ以外にももらえるものがたくさんあるから、そこが農業のよさでもあるから。
直売、6次産業をできるように資金の確保や知識を身に着ける事やJA女性部などの参加で若い人達との交流を積極的にすること。
農業、特に野菜や花き、果樹などはたくさん農薬を使うので妊娠した時に胎児に影響があるので今まで通りにいかなくなる。
私は夫が就農を希望したので、それを支える形で一緒に就農地を探したりしました。農業は一人では出来ないし、就農する時も一人では受け入れ側も（心配）信用しにくいものです。女の人が一人で就農したいならば農家のヨメになることが一番ではないかと思います。または研修などで志をおなじくするパートナーを見つけて就農地を探したりするとよいと思います。
資金繰りが大変。 独立する前に技術を習得した方が良い。 研修見学は十分に行う。 一流の産地一流の技術は知って置くこと。
<ul style="list-style-type: none"> ・就農するということは他に就職することとはだいぶ違います。 ・本当に農業が好き、楽しい、純粋にそう思えるのなら、是非トライしてみてください。色々な問題はありますが、なんとかなると思います。 ・体力は絶対に必要です。
農業とは就農とは何かをよく勉強してから取り組むべきだと思う。農地があればすぐ出来るものではないので営農技術だけではなく販売や環境(生活環境等)の問題まで知ってから参入した方が良いと思います。
たくさん経験(作物を育てる)をしてから独立しないと大変なことになると思うので農業をするということはどういうことなのか体でわかってからの方が良いとアドバイスします。農業関係の機関・役所は力になってくれないよと。

<p>体力面ではやっぱり男性に劣るので女性のやり方で、例えばスケジュールをきちんと立てて天候に左右されても余裕で作業がこなせるように1人で無理な作業は無茶をせず頼める部分は周りの人をお願いする。自分の圃場をきちんと管理できるかどうかは後に就農する人にも影響する(農地を貸してもらえない)のでよく考える!周囲の人との交流を大切に!!</p>
<p>やれば出来る。しかしサラリーマンのような安定した収入を(特に始めのころは) 売ることは難しいため工夫(バイトをするなど)が必要。</p>
<p>夢だけではやっていけないので資金、農地と人生設計も十分考えたうえで就農したほうがよい。</p>
<p>農業以外にもう一つ仕事(収入の確保)をしておく必要があること</p>
<p>自分の意思をしっかり持って家族や相談窓口の人や知り合った農家の人など、周りとなんでも話したり相談したりして少しずつやりたい農業に近づいて行くとよいと思います。一生懸命やっていれば道は開けると思います。</p>
<p>気持ちが固まったらいろんなチャンスをつかみ、様々な事に挑戦して行って欲しい。</p>
<p>自分が機械等に弱いなら家族でもよいので器用な方がいてくれると良いと思います。何でも自分で出来ないし出費ばかりです。</p>
<p>農作業のことを話したり相談できる相手になるべく多く作ったりして欲しい。モチベーションが下がる時もあると思うので目標をきちんと持った方がいいと思う。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・配偶者(家族)と一緒にやるならばきちんと約束をつくりお互い守る ・子供が小さい時は子供にしっかり目をかける ・子供と一緒に楽しめる環境、人づくり、地域にゆっくと溶け込む
<p>頑にならず人の意見を聞いて。でもその意見などに流されず柔軟な態度でいてほしいです。笑顔で楽しく農業をして下さい。</p>
<p>親が農業をしていないのであればやめておいた方がよい。</p>
<p>ケースバイケースと思います</p>
<p>後悔のない人生を送ってください。チャンスは前髪しかありません。</p>
<p>新規参入する人がスローライフをしたいタイプか、経営したい人なのかによる。前者なら「いいね～」としかいいようがない。後者なら農業の栽培技術よりも経営感覚を磨くことをすすめたい。現在の農業者はたとえ若くても頭が堅く、経営感覚を持っている人は少ないので幅広い職種の話の聞けるといいと思う。栽培技術は基本をマスターすればあとは毎年の積み重ねなのでコツコツ工夫を重ねるのみ。これを楽しめる人に向いていると思う。</p>
<p>誰とでも仲良くなれる様に周りの人に心を開いていくことが大切です。その実、土地の人々をすなおに受け入れる事が大切です。農業であろうが、どんな仕事であっても人間関係をうまくすることが一番大切です。十分な貯金があった方が追い詰められないと思います。</p>
<p>お金を貯めてから独立したほうが良いです</p>
<p>女性だからといって不安にならず、自分の特性を活かして自分らしく生きられる農業の道が必ずあるはず!まずは飛び込んでみるべし。</p>
<p>近くの農家同士で協力したり困った時に相談したり情報交換できる仲間づくりも大切だという事。</p>
<p>信頼できる相談相手をもつことだと思います(自分発信) 絶対に思い描いたようにいかないのに頑張ろうとするのでカベにぶち当たった時などに話せる人がいると心強いと思います。</p>
<p>いろいろな困難はあるが自分の価値観を一番大切に</p>
<p>販路を決めてから始めるのが必要と思います</p>
<p>よき理解者がいるといいと思う。あせらないで一步步計画を進める。</p>
<p>私はたまたま研修先でのご縁に恵まれた為、就農や農業経営に際し、女性である為に苦勞をしませんでしたので特に女性に向けてアドバイス出来る事はありません。 新規参入される方一般に向けたアドバイスとしては農業をするという事は起業することであるという事です。資金の準備、業務の知識等の事前準備はもちろん必要ですが本人の持つ総合力が発揮できる(試される)ので人付き合いや数値管理など不得手があるようなら克服しておく(これからする覚悟)のが良いと思います。</p>
<p>まずはやってみる!それからだと思います。</p>
<p>生活するためのお金の計算が大切です。何をどれだけ作っていくらで売るのがか。年間の作付け計画。働きすぎると体が壊れてしまいますので無理しないように。</p>

<p>農家の嫁にならなくとも農業はできる。が就農するとあちこち（の農家）から嫁入り話を持ちかけられる（自分もローンを組んで家を建てるまではそうだった）それを受け入れると経営者というよりヨメになる。断ってひたすら我が道を行くと自分のように一生独身が見えてくる。農業は結婚すれば旦那が主人となり代表者となる職業（今の日本では）自分の自由にやりたければサラリーマンの夫を捕まえるのが一番。</p>
<p>結婚をしている、していないで大きく変わりますが結婚をしていない人の場合はどこに行っても嫁候補の目で見られることを覚悟してどれだけ受け流せるか。頑張ってくださいと言いたい。結婚している人なら配偶者と得意、不得意で作業を分担し、男だから、女だからと性別にとらわれないで仕事をしてくださいと言いたい。</p>
<p>あれこれ考えるよりまずやってみるのが一番いいですよ。</p>
<p>まだまだ私がアドバイスを頂きたいです</p>
<p>出産、子育てを考えて場所選びを。産み時を逃さないで！特に僻地では未満児保育がなかったりするので地域の保育所事情をよくよく調べておいてください。新規参入者が親と同居する場合は少ないと思います。ということは子育てに親の支援はないので。</p>
<p>女性だから厳しい、どう克服するかよりも女性だからこそ有利、向いていることをたくさん見つけてください。</p>
<p>女性ということは意識せず、ただ農業に集中してください</p>
<p>（女性の就農者に限らず…）農業は一人でやるのは無理がある。出来れば一緒にやってくれる良いパートナーがいれば心強いと思う。でも常に雇用していると人件費がかさむので、フレキシブルに忙しい時だけでも頼める人を確保しておく自分にとって都合が良い。</p>
<p>結婚して二人でやる方が地域にも受け入れられやすいし、自分ひとり+相手で、1 + 1 = 2以上のことができる。自分ひとりでは出来ないことがお互い出来る。</p>
<p>結婚、出産できるなら就農前にした方がいいと思う。</p>
<p>途中でアクシデント、失敗しても改善して続けること。 できたもの（収穫物）をどの様に売っていくか販売先もある程度考えておくこと。</p>
<p>一人で悩まずにいろいろな方に相談をかけて一歩を踏み出す。お勧めしたい。また自分の知っているネットワークなどを紹介し、参考になるようアドバイスを行ってあげたい。</p>
<p>農業のしくみ、農政のしくみ、農村のしくみ、加えて農業技術を可能な限り調べつくし計画をたてること。</p>
<p>自分はこの地で長くやっていく！と決めた場所でやるといい。また、お金や農作業の事だけでなく地域全体を通して自分はこの地域のどんな部分になりたいとか大きくみるようにしたらよい。</p>
<p>イメージがかけ離れている人がけっこういるので現実出来るだけ近づけるようなことを言います。</p>
<p>結婚すること。農業という大きな負債を抱える、そして返していくには大きな覚悟が必要。その大きな力になるのが家族のためにこどものために、だと思ふ。やりたいからだけでは人間逃げ道を探してしまう。お金を借りるにも信用が弱くなると思う。（男性のみの就農もダメだと思う）</p>
<p>自由がきくことです。</p>
<p>うちに視察にでもきてみて！</p>
<p>まわりの行政や農協はもちろんですが農家の人々となるべく積極的にかかわることは大切だと思います。質問もどんどんした方がいいと思います。</p>
<p>お金を貯める。一緒に働いてくれるパートナーを見つける。</p>
<p>同年代の仲間づくり。両親への理解（理解があれば出来る職業）。外に出ていく行動力。精神的に頼れる人をつくる。「経営者になる」という強い意志を持つ。既婚者には育児と主婦業の両立の大変さ。未婚者には将来パートナーになる人への理解。</p>
<p>地域の人々を無視して自分のやり方を貫かないこと</p>
<p>市や県からキツク言われるよと伝えてあげたい。</p>
<p>本気で就農を考えているのなら、何があっても農業の側にいてください。そして自分の意志をアピールしてください。必ずあなたの話に耳を傾けて力を貸してくれる人が現れますよ！</p>
<p>自然や気候に影響されやすいので、収入は低い上に安定しません。経済的に余裕がなければ安易に就農しない方がいいと思います。思ったほど、野菜は売れません（直販の場合）JAを通す場合は規格が厳しい割にもうけは少ないそうです</p>

<p>女性だから不利という事はないと思うが、まだまだ周りは男性ばかり。男性の中でも対等に意見を言えたり気にしないで出来たりした方がいい。(就農しようとする人なので充分できると思いますが)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲間を作った方がいい。できれば同じ経営作物で、相談やアドバイスがもらえたり、助け合ったりもできるので・・
<ul style="list-style-type: none"> ・やる気があればなんとかなる。女性だからとネガティブになるのではなく、前向きに頑張っていれば助けてくれる人は必ず現れると思う
<p>農業関係の人達とのつながりを大切に、何でも相談するようにアドバイスしたい</p>
<p>すべてはやる気と憧れから始まります。迷わず前進することだけです</p>
<p>女性、男性はどちらでもいいし、年齢もどうでもいい。全ての仕事(農業に限らず)や大きく言えば、人生に必要なことは「やる気」と「行動を起こす力」と「本気でやり続けること」だと思います。</p>
<p>これからの農業経営は地域の農家がまとまって行動しないと成り立たない。よって良いリーダーがいるところで就農されると良いと思う</p>
<p>頑張りすぎず、楽しめるくらいの計画を立てて、取り組んだ方が良い</p>
<p>まず、どのような農業がしたいか決めること。師匠を作る(農業の事を教えてくれる人) 就農資金を作る。本当に農業が好きか一生続けることができるのかを考えること。体力をつけること。</p>
<p>男女関係なく就農前は協力者と技術を得ること。就農してからは協力者と資金が必要。個人でやっていたら男女は全く関係ない。重いものは分けて運ばばいいし、軽いものを作るようにすればよい。機械化が進み力仕事は多くない</p>
<p>お金をしっかり貯めておいてください</p>
<p>夫の専従者でしかない私にとっては想像できません。土木仕事とか機械の手入れなど、女性でも可能ならぜひ成功して前例となってください。応援するのみです。</p>
<p>変人扱いされると思うけど、気にしないで。いいものを作れば周りは認めてくれる。力がない分、知恵を使ってやれば、男性並みの仕事出来る</p>
<p>田舎に住むという事は思っている以上に、近隣とのコミュニケーションに時間を取られるだけでなく、一挙手一投足見られているので、人間関係を円滑に出来る様努力することと、相談以上に資金が必要になるため、精神的な苦労が絶えないことも最初に教えてあげることが必要だと実感している</p>
<p>初期投資がきつてもある程度、トラクターなどの農機はそろえた方がいいと思います。農業大学校へ行かれることも進めています</p>
<p>とにかく体力勝負な所もあるので、気合いと努力と根性は大事。初めから軌道に乗るほど甘くないので、中途半端な気持ちや軽い気持ちでやるなら辞めた方がいいと思う。それなりの覚悟を決めて頑張りたい。</p>
<p>自分が食べたい物、子供に食べさせたい物を良い品質で作るようになれば、大丈夫。良い先輩を見つけてください。</p>
<p>独立就農している農家に出向いて話を聞く</p>
<p>言葉より行動(労働)で夢を語る。一人では何もできません。人間関係を避けることなかれ。</p>
<p>資金が多ければ多いほど安心して農業に取り組めると思います。私は資金不足でけっこう苦勞しました。あとはやる気と根気と行動するのみです。</p>
<p>一人では体力的にも精神的にもつらいと思います。体が資本なので助けてくれる人がいないと何かあった時、無理をしてしまいます。思ったより厳しいので貧乏を覚悟してください。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・農地を選ぶ際には相場に足を運び、生活環境を含めてしっかり検討すること。高齢になった時も農業が続けられる環境がどうかも検討したほうがいい。 ・自分の農業方針をしっかり持ち、実現させるようという強い意志を持つこと。
<ul style="list-style-type: none"> ・体だけは健康に又、人との付き合いは大切に教えてあげたいです。 ・インターネットや自分の今までの人脈はフルに使えるように! ・甘えられるものには甘えてしまえ!女性だからと力を入れてもしょせん女性、まだ田舎は女性に優しくないので甘えるのも策だと思います。

<p>知識だけでなくやる気と目標が大事です。自分は高校・大学とりんごを勉強して、りんご農家を継ぐつもりでいたけどなぜか大学卒業した年に苺出荷組合に研修いっていちご農家として独立就農していたら先のことで考えて自分で行動してなんてことはしなかっただろうし、手伝い程度だったかもしれません。なので、なんで独立したかはまだよくわかっていないけど、疲れているだけじゃダメだと思ったかもしれないし、本当に農業が好きだからやっているだと思います。ただ、やっぱり一度でも会社員として働いて（勤めて）から就農すれば良かったかなとか悩みもありますが口でも新規就農して研修でかわいがってくれた組合長や研修先の先輩の期待に応えたいのでこれからも頑張ります。</p> <p>話それましたが、やっぱりやる気と目標が大事です。やる気だけあっても目標がないと続かないと思います。</p>
<p>体力的には男性に劣るかもしれないが商品に対する気配りは日々食品と向き合う機会の多い女性の方が優位だと思う。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・女性として細やかな視点を大切にすること ・周囲のアドバイスや好意は素直にうけること ・頼める関係を作っておくこと ・重機をつかえるようにしておくこと
<p>栽培作物の一年間のサイクルをよく習得すること。小さい子供がいる状況では自分自身が作業に集中する事が出来ない様に思うのでサポートしてくれる人がいるのが良いと思う。</p>
<p>女性が一人暮らしをして一人での就農はとても心細く、農業経営は精神力も必要なので家族と住む事や何人かと就農するなど近くに相談できる人がいる環境での就農をおすすめします。</p>
<p>パートナーを確保する。情報をたくさん集める。</p>
<p>初めはすべて自力でと思っていました。しかし本当に大変です。自分で出来る事、お願いする事を無理せずにあきらめず続ける力だと思います。台風にながされた畑を見たその足で苗や種を買いに行くタフな心が大切です。季節は植えても植えなくてもどんどん流れます。</p>
<p>農業は力仕事が多く女性だけではきつい作業なので夫婦での就農を勧めます。夫婦で働く職業としてはやりがいもあり、協力しながら楽しく働くことが出来ます。</p>
<p>めんどくさいとは言わない。楽しんでしていく。お客さんの笑顔が楽しい。お客さんが喜ぶと「ありがとう」が嬉しい。</p>
<p>同世代の集まりに参加してもらい、夢を共有できる人を紹介したい。</p>
<p>女性だから不利と私は思った事はありません。むしろ女性の方が良い事が多いと思います。周囲の人も手伝ってくれますし、話もして下さいます。少々長話が多いですが…。ただ、実際、力仕事などは大変です。“農業＝大変・重労働”と思われがちですが全てが大変ではありません。栽培する品目や品種でも大分変わりますのでマイナスのイメージばかりだと思わずにやってみると良いと思います。時間の融通も効きますし。</p>
<p>経営をはじめて1年未満で経営もまだ成り立っていないとはいえないので、アドバイスといえるほどのものではないですが、今まで自分なりに感じた事を書かせて頂きます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのように農業に関っていきたいか、何を最優先にしたいか（農業経営、家族など）を先に考えておいた方が良いと思います。 ・有機農業を志す場合でも慣行農業の農家の方々からも、沢山学ぶ事があると思うので、全く別のものと考えない方が自分にとって得だと思います
<p>新しい事にもためらわず挑戦してほしい。ある程度、資金があった方がいい</p>
<p>女性ならでは出来ることをしっかりと身につけて欲しい。まずは農業の楽しみを自分がしっかりと分かることだと思う。自分にその思いがないと結果に繋がらないと思う。</p>
<p>孤立せずに沢山の人に助けてもらいましょう</p>
<p>良きパートナー（結婚という事ではなくて）を見つけてお互いの話し合いで農業を推し進めていく</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・お子さんのいる方は、まず経済的に成立するのか計画の段階で販路等を確保できると良い。（私の場合は、夫との年金で生活をしているが）また、現在、夫は週2~3日手伝ってくれるが家族をどう取り込んでいくか、一人で行うには限界がある
<p>体力的に無理だと思う作業も工夫次第で一人でやれちゃうものです。だから頑張ってください</p>
<p>健康で、近所と仲良く、土地で作物など違うので、進んで集まりに出る奉仕活動するイベントの手伝いなど役所にも相談に行く</p>
<p>女性だから出来ないという事はないと思います。手段、方法はたくさんあるので自信を持って進んでください</p>

壁にぶちあった時、無理だと思って諦めず、行動に移そう！まずは成功している人たちのまねをするのがうまくいく一番の近道だと思う
とにかく身体をこわさないよう。結婚ではなく、一人で始めようとされている方にはアドバイス出来ることがない。きっと、意欲にあふれる方でアドバイスの必要はないだろうと思う。結婚して就農される方には、忙しいけれど農業には「夢」がいっぱい潜んでいるので、日々の中で見逃さず、（夫の目で物を見ない女性というか自分の目でしっかり見る）楽しもう！と伝えたい
作物を作りそれを食べてもらう喜びがあれば道は切り開かれると思います。畑や田んぼ仕事が好きでなければ、長続きしないと思います。営農は家族単位でなくともいいと思いますが、一人ではなく、複数人しかも同性だけではない方がスムーズだと思います。一般的に夫婦で始めるというのはやりやすいと思います
<ul style="list-style-type: none"> ・どのような農業をしたいのか。その理由、希望農業スタイルの体験をする ・経営についてしっかりした考えを持つ ・有機農業の場合・・・加工や雑貨など副収入になるような業を就農前に身につける ・子どもがいる（産む予定がある）場合、子育ての手伝いをしてくれる人（親、兄弟、知人当）ができるだけ近くにいる場で就農地を探す
ある程度、資金をためてから仕事を辞めるべきだということ。女性一人農業は、体力的にもかなりきついで、できればパートナーを見つけるのが良いのでは・・・
土手が多い畑、斜面になっている畑は、農地として借りるにはリスクが多い。夏場の土手の草刈りは時間もかかる上、腰に負担がかかりすぎる。しかし、近隣の人や地主が草を嫌がるので、やらねばならなくなり、ストレスとなる。斜面も、腰への負担、また収穫物の運搬が大変になる。
孤軍奮闘しなくても済むような環境作りをすること、人間関係、良好でないと続きません。家族経営協定とも地域とも。
<ul style="list-style-type: none"> ・自分にかかるお金は極力押さえる。オシャレ、遊びはあきらめる。農業は服が自由だから子供のお下がりでも充分。別のところに喜びがある。ただ、皮膚がんには注意して日焼け止めを。 ・せまい通路を何かを持って歩く-体のバランス感覚がよくなります。 ・資金をどうするかを考えてください。
自分の経験談、人つなぎ。自分が出来ることをしてあげたい。相手が求めていることで。
農業経営は商売。だから作っているだけではダメ。売る方法を考える事。
農業が好きになること。自分の健康は食べ物からが基本。
農業技術をしっかり身に付けた上で就農してもらいたい。
誰かと一緒にするより、1人で農業をした方が責任感が出ていいのでは？と私は思います。作業も工夫したら案外、1人で出来ます。
女性は家事、育児、仕事と全てちゃんとするには時間が足りません。農業にも女性の働き方はいろいろな方法（仕事）があります。無理なく自分を生かせる分野で輝いてほしいです。私はただ夫の後ろと追っかけて畑仕事も他も一緒にずっとやっています。（袋詰め、会計、朝市袋に貼る、畑仕事、ブログなど、シール作り、チラシ作り）
男性と同じように農作業をするのは無理ということをまずは理解して、自分の得意分野を生かせる農業経営を考えて欲しい。
仕事（農業）が好きであれば出来る。自分を生かした工夫をする。
問 11. 女性の新規参入(独立就農)が円滑に進むために必要だと思う新規就農対策は、どのようなことだと思いますか。自由に記述して下さい。
自由記入
<p>単身女性ほどとにかく農地が借りられない。 女性に関わらず関係機関の土地の管理が必要。</p> <p>助成金の充実。</p> <p>資金援助とネットワーク（人との関わり）づくり</p> <p>6次産業を円滑にする対策</p> <p>一人では絶対無理。夫、もしくは友人などと共同でやるべき。</p> <p>農村でのお見合い（農家の嫁になるために）。 新規就農受け入れ地での研修兼パートナー探し。</p> <p>知識と技術</p>

女性の独立就農はかなりきびしいのが現状でしょうか？細部に至る万全のサポート(特に資金)が必要なのかと思います。
農業関係の機関・役所が全くサポートしてくれない。農業がこれから大変なことになる(年配の方々ができなくなったらどうする?)のが目に見えているのだから見守る体制づくりがすごく大事だと思う。現状は「勝手にやれば」っていう感じです。
自身が独立就農するなら何が不安かと想像すれば体力面と経営面なのでそれをバックアップしてくれるシステムがあれば農業や田舎暮らしに感心のある女性が入ってきやすいのではないかと思います。
否定しないこと。 就農支援センター等の窓口は否定的な相談員が多く、腹が立った。
・住居の相談 ・力仕事の時の援農システム(ネットワーク作り)
資金援助、住居の確保、農地の確保 でも他業種に比べて資金援助については農業は恵まれていると思います。(相談機関の方がよく対応してくれたからかもしれませんが)住居や農地のあっせんがあると心強いです。
男女の分け隔てなく広い情報提供して行政の方のサポートも同じ女性の方に担当してもらおう等、相談しやすい環境も必要だと思います。
好きならば出来ると思います。いろんな工夫をすることも楽しいです。頑張ってください。
・農業機械の講習や研修、定期的な指導 ・施設の設備の資金補助 ・農地の貸し出し ・女性でも独立就農ができるという実績を発信する
・女性だけでも資金、土地が借りやすく、子育て期間中であっても融通のきく研修、勉強会(実践を伴うもの)、環境づくり ・女性の声も大事にするしくみ ・子供を連れて行って働いてパートに出るくらいは難しいにしてもそれより少し少ない位のお給料をもらえるような場所(農業の勉強にもなるような)があったら本当に有難い
相談窓口で質問しやすくしてほしい。 地元の農家さんへの紹介の仲介員のような方がいて農家さんとの顔合わせがスムーズにいくようにしてほしい。自分たちはそこが少し苦労したから。知り合いがいなかったのです。
農地の斡旋と資金援助
ケースバイケースと思います
信頼のおけるパートナーや従業員に恵まれる事。販売先、販売単価、天候、タイミング。
まず窓口で「農家に嫁に行け」と言うのはやめてほしい。完全にセクハラだから。女性に限らず新規就農者には販路が必要だと思う。様々な販路(可能性としても)を用意して自分がどのような農業経営をしたいのか考えることが出来ることが重要だと思う。農業をビジネスとしてとらえることが出来、かつ地域にどのように貢献できるか考えている人を特に助けてあげられたら農業はちょっと良くなると思う。
都会(大消費地に近い)に近い所で就農して、いろんな野菜などを直売する農業が女性には向いているのではないかと思います。
考えつきません
農地のあっせん。指導者の紹介。地域全体で見守る仕組み作り。
家さがしがとても大変だと思うのでこちらも協力してもらえたらいいと思います。
たまたま私が研修を受けた時、もう一人女性の方がいましたし同期の方もいました。そして地元、地域にUターンを受ける組織がありました。 仲間がいたからこそ頑張れたと思います。そして、先輩農家さんに相談し多大に助けてもらいました。たくさんの出会いがあれば良いと思います。就農までも就農してから不安なので。
・出産、育児の機関の救済制度確立、情報提供 ・他の面では男性と同じようにつかうこと
相談窓口を充実させて欲しい
私の就農に直接的な障害はありませんでしたが県の就農認定の際「ご主人の年収が十分あって生活に困らないのになぜ就農をするのですか？」と質問されました。どのような立場の方からの質問かは分かりませんが、新規就農者を指導サポートするような方の意識は変えて頂く必要があると思います。

なにが必要かアンケートをとらないとわからないという現状がまずいのではないですか！今さらって気がします。ダッシュで動けー！すでに現場でなんだよ！
農家の独身男性を紹介すること。夫婦で農業をすれば助けあえるのでいいと思います。
わかりません。というのが就農対策でなぜ〈女性の〉と区別しなければならないのか。その必要性を感じません。政府の本音は就農に意欲を目指す女性が農村に入り、農家の嫁となって村に活力を生んで欲しい、ということだと思うのですが自分の方に始めから経営権を手放したくない女性は正直農村では受け入れられにくいと思います。新規就農に関しては「男女問わず」でいいのでは？
使われていない農地やハウスなどの施設を安いリースで使えるように行政の方でなんとかしてもらえたら。あとは住む場所が田舎になればなるほど借りにくいので雇用促進のアパートなどでもあるといいと思います。男と女と同じ研修生なのにお茶くみなどで無意識の差別があったりするの、悲しいことだと感じていました。
仲間づくり（同じような志の人が集まれる場、語り合い話合える仲間がいることがとても大切だと思います）
女性というだけではなく農地、住宅の確保が難しいのでそこを支援してもらえるといいと思います。
保育所の充実（農繁期の休日保育、育児保育）
周りの目に仕方がないので本人がどれだけ熱意をもっているかが必要。これは男性も同じだと思います。
女性でも独立就農したい人は結構いる様で、時々話を耳にします。しかし不安な部分が多いのでなかなか踏み切れない様で、まずは研究生として先進農家に受け入れてもらい、ある程度、栽培技術や軽軽ノウハウなど身に付けてから独立するのが望ましいと思う。受入先を紹介して欲しい。
<ul style="list-style-type: none"> ・行政からの経済的支援 ・農地の提供 ・研修先農家の確保 ・販路の確保 ・農業者としての対応（嫁ではないという認識）
情報の開示と就農した後のサポート。 農作業の技術指導、販売先、経営資金についてなどなど。
青年就農給付金の拡大
家族の理解を得られる助けとなる情報を提供。 仲間を紹介し、交流が持てるようにする。 資金をどのように借りられるか返済はどうするかなどのアドバイス。
形式的でない、就農、営農、技術指導。条件不利農地ではない農地斡旋、農地集約。心と力のある（やる気）営農指導員の配備。既存の農家、農協に独占利用されない資金支援。
市県国がもっと女性を求めている事をアピールする。女性も男性もあわせて就農というハードルを上げる。決まりが固い。ゆうずうがききにくい。手続きであきらめてしまう人も多いように思う。
孤立しないように出来るだけ仲間のようなグループづくりがあるのいいと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・JAの理解 ・実績の増加（女性が就農して結果を出す事、途中で辞めさせないこと） ・どうやっても女性だけではこなせない（こなすには相当な苦労のある作業）ときにカバーしてくれる体制が整っているかどうか、または整っている地域を紹介し就農させられるか、就農した後にダメだったでは負債は返せない。
夫との就農を目指し、基盤が出来るまで夫は会社、本人は研修、就農、子育てと分担してやっています。子供小さく夫と別居生活をしながらの農作業は子供の体調にも左右されてとても大変です。実家や親せきも遠いので頼れる人がいません。保育園のやっている時間内に作業しようと思うと非常に厳しい時期もあり、出産、育児に関するサポートが必要だと思います。
どうにも資金がかかるのでスムーズな資金準備制度が必要だと思います。私は県の就農支援資金を利用しましたが申請から決済まで半年以上かかりましたので少し大変でした。 農機具や資材などのレンタルやリサイクルシステムがあるのいいと思います。高額で買うことはなかなか出来ないし人をお願いして借りるのも大変です。
家族（パートナー含む）での就農なら独立もよいと思いますが、一人なら法人への就職の方が安心だと思います。（機械好き、体格体力に自信があれば一人でもできるでしょうが…）
同じ志をしている方々との仲間づくりの場の提供。農家ファミリーサポートのような地域の方々の協力が得られる体制。2、3年ごとに営農計画の見直し。婚活できるようなイベント。すでに新規参入している所へのバスマー見学などのイベント。

田舎に住むのに男女どちらでも未婚はハンデと思う。地域の制度をもっとインターネットにのせて誰でも見られるようにすること。ほとんどの情報が直接問い合わせないとわからないので。それから現地訪問する人の足がないと公共交通機関では見たいところが見られないので車を安く貸す制度など。
女性だからこそ新規参入だからこそバックアップしなければならないのに最初から芽をつむような言動をしないで助けてあげて欲しい。今は女性も普通に働く時代。農家は減る時代。ならば古い考えは捨てて、農業にチャレンジする女性を応援すべきです。
出来ない決めつけ門前払いをしないで欲しい。農家での研修の橋渡し。農地の紹介。
補助金、助成金、研修制度など
今迄の成功例、失敗例を伝えてあげるのが親切だと思います
子供を育てつつ、農業をして行くのは大変で、サポートが必要
私には今は子供がいませんが、女性の就農には子育て支援が欠かせないと思うので、そういった面での対策は十分すぎるくらいするべきだと思う
資金を調達できるような仕組みを、もっと女性にわかりやすく説明してもらえれば嬉しい
①機械作業・運転の習熟 ②農作業のしやすい体力作りをプログラム化する ③100万円程度の小規模低利融資の充実
新規就農の相談員が女性だと話はしやすいと思います。(私は初めて相談に行った日に「女性で独身だと就農にいいですか?」と聞いたら、「今の時代、そんな事あるわけじゃない!!」と女性の相談員にいわれて、とても嬉しかったです)
農業で暮らしが成り立つような戦略を立てて欲しい。ブランドの確立、販売先の確保など。男性、女性の区別はないと思う。
現実的経営相談。指標は新規就農者には当てはまらない場合が多いと思う
子供が出来た時にあまり休むことなく、夫や家族に迷惑がかからぬよう臨時雇用や子供を預ける場が就農先にあること
トイレの無料貸し出し。農地内に作業小屋を建てても良いことにしてほしい。人材派遣(一人女性だけではできない作業を手伝ってくれる人)
自分の場合、相談窓口が女性で「1人でやっている人もいるし・・・」と偏見なく就農にとっても協力的だった。就農活動をしていると「女性1人でなんてバカなこと」と言われたり、「結婚して旦那の仕事の手伝いをすればいい」と言われたりもしたが、たまたまそうでない人達が多く、助けてもらった。そして県の農業大学校で研修課が始まり、技術取得の機会も得られた。だから協力者と技術への援助、就農してからは農機(トラクター)などの貸出が必要
女性でも作業しやすい畑(車が入れる、平坦地、作業できる小屋がある等)を集め、希望者に紹介する。女性が活躍している農家、農業法人を研修受け入れ先にし、女性ならではの技術や作業方法を伝える
就農は楽しいとか儲かるとか時間の制限がないとか、楽しく農業が出来るという紹介でなく、最初に本当の農家の苦労がどんなものなのか教えてあげることが、一番重要だと思う。TVなどで芸能人が楽しそうに農業体験などをして、いかにも農業が楽しいというイメージを植え付けているが実際に苦労した体験を伝えてあげるのが一番の親切だと思います
これからは女性のみに関係なく農業法人など、チームで営農出来る形を最初に進めるのも良いのではないのでしょうか。同じ農法や想いの仲間を見つけるのは難しいのですが、女性を集めた集会があっても良い。離農された方からの中古農機具の販売会を開催したりという場もありがたい
設備投資などに係る資金は、農業を始める前に十分に用意しておくことを勧めます。これは女性男性に関らず、皆さんが必要だと思います。女性の新規参入だから特別にしなくてはならない対策などないと思う。そういった考えや質問を持つ時点で、男女差別や比較してしまっていて、誰でも新規参入できる職業ではなくなっているのではないかと。より多くの方に農業を始めてもらいたいのであれば、男性社会という固定概念を捨てるべきだ。サラリーマン社会では、男女関係なく、女性でも管理職や役職のある仕事をしているのが普通になってきていますよ。もっともっと女性も強くなってそして女性が農業をする事が普通になってほしいです。
希望農地の周辺の小規模農家をあっせんし、技術指導をせよ。後継者がいない農家なら、将来的なことも含め一挙両得と思う。
必要な支援は人によって違うと思うので、それぞれに合った支援をお願いしたい

多様な就農形態を認める農政が求められると思う。農地保全の観点からすると現在の中、大規模農家偏重の傾向は逆行していると思う。農家戸数が増えるには農村の持つ魅力を別の方向から見直すべきでは?その辺が女性の新規就農のキーポイントでもあります。
受け入れてくれる道府県が市町村と連携し空き家、空き農地等の情報を公開し、受け入れ体制を整える。後、補助金などの事業が通るまでに時間がかかりすぎていると思うので、円滑に対応することだと思います。
女性の視点で考えた時にファッションも華やかであれば気分も乗れるしやる気が出ます。これからは農作物の加工もアイデアを出し合って開発して行かないと農業だけでは生活していけません。農協もしぼり取るだけでなく農家の生活の質向上にもっと協力的になって自分自身の問題として取り組んでほしいです。
<ul style="list-style-type: none"> ・家族で行う場合、家族経営協定をきちんと結び、家事との両立ができるように家族に理解を求めること。 ・機械や農薬を使用することに抵抗を感じるなら無理に使用しないこと。女性の立場から意思表示をはっきりする。
<ul style="list-style-type: none"> ・トイレが近くにある畑や周りに同年代の方がいる地区 ・家と圃場が近い場所 ・新しいこと（消費者に近い目を持っている大切な女性だから）を始めても見守る事が大事だと思います。 ・いろんな体験が出来るよう、いろんな分野や公民の集まりに声をかけてあげる。
販売先の確保が必要です。独立就農しても売り先がないと安心して生産できないからです。自分たちは組合で販売先が決まっているので安心していちごをつくっています。各地域の女性就農者のネットワークづくりも大切だと思います。
農地の斡旋と資金援助資金の支援
<ul style="list-style-type: none"> ・女性の住みやすい農地を周知しておくこと ・同性の農業者がいれば紹介するなど
設備投資への援助。農業ボランティア（ある程度知識のある人）
女性の新規参入をしたい方は少ないのでこれからやりたいという人の交流などがあると先々心強かったり、意気投合した人がいればグループ就農といった事ができると思うから。
新規就農制度の受け入れ農家さんに女性農業士の方がいる。もしくは女性一人でも問題ないという考えのある方の選出。
女性は特に資金を借りるところか借家もなかなかかりられません。そのうえ農地はぜんぜん無理です。本当に考えてください！ 1haと言わず100坪でも用意してください。スタートだけでもさせてあげる環境作りをお願いします。
就農までしっかりサポートしてくれる研修施設の充実が一番だと思います。就農や研修をする前に先輩女性のアドバイスを聞けたり、相談できる場があればよいと思います。
女性が楽しんでつくれる苺をもっとアピールすると増えるかも。苺は女性向きです。
私もですが、一人で就農すると結婚した時にどうしようかと悩みます。特に子供が出来た時に育児に専念できるか心配です。1年も農地を放っておくことも出来ませんし、薬剤散布もあるので心配です。そのあたりの対策があると若い方にもプラスの考察点になると思います。また、私の場合、返済が必要な資金しか活用できませんでした。なので、今になって多数の返済が重なって大変です。もう少し資金制度を考えた方がよいと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・女性を経営者として育てようと考えている研修の受け入れ農家さんが必要だと思います。 ・女性農業者との交流の場をもうける
資金、技術、農地確保など、様々な問題に対処してくれる窓口が欲しい
男女問わず就農するためのプランを理想よりも現実を見て、考えてほしい。行政側も農家に対する事業などを積極的に知らせてほしい
グループ作り（出来るだけ近場での話が出来る体制）以前は地域での指導者がいてその方がその地域でのグループ作りをして下さり、勉強会等もあり、お互いの話を聞いたりすることでやる気も出たものです。今は国の方針が違ってきているため、予算の関係等で無くなってしまった。
ボランティアや援農制度を確立してほしい。ただ、ボランティアはあくまでボランティアでゆくゆくお金を支払うパートさんの形に行かないと、仕事が中途半端であてにならない。規模を一人でやれる範囲にして、楽しみながらやれると長生きすると思う
農地の斡旋、住居、地元の親切で信頼されている人を紹介する。 役所で相談に乗れる人を確保（農業では儲からないと言われた、企業誘致に力を入れているので・・・）
各市町村の新規参入窓口で女性で就農している事例などをきちんと紹介してあげることだと思います

女性が新規就農するための研修受け入れ先があまりないので、そういった場所を見つけてあげる支援が必要だと思う
私をもっともおそれていたことは①地域に受け入れられるか、でした。県や、自治体職員さんが地域の方とのパイプ役となってくれたら、心強いし地域の方も安心して接してくれると思います。就農後、悩んだ事は②の孤独感でした。県の職員さんは夫とのやりとりがメインなので、夫との意見の違う事などは話せないし、友人もおらず、気楽に妻の方へも「困っていることないですか」と一声かけてもらえるといいかなあと思いました
女性に限らず、新規参入には色々難しい面があると思います。行政は一つひとつのケースに柔軟に取り組んで下さい。各町村の農業委員会や振興事務所と情報を交換しあい、一人でも多くの新規就農者が実現することを願います。このままでは農地の荒廃はどんどん進みそうです
・農作業の協力体制を作る（女性でなくても、独立就農を一人で行うのは大変）・加工等の勉強会、講習受講支援・農地・住居あっせん・子育て支援
住宅や農地の紹介が、女性一人の場合スムーズにいかないという話を周りで良く聞くので、せめて同じ条件になればと思う
耕作放棄地を借りることになった場合、農地作りのために農業機械の無料貸出しがあると良い。堆肥などの運搬サービスなどあればなお良い。女性だけの場合、地域の人に慣れるまで大変なので、せめて、農作業の負担を軽くしてあげられる対策があると良いと思う。また、男女問わず、住まいの補助（修理等の費用）が絶対必要だと思います
女性男性問わず ①自由に土地を手に入れられる事 ②必要な機械をもう少し安く手に入れられる事 ③情報の窓口を集約して頂くこと…です。よろしくお願いします。
力が弱くても続けられる公設の設備資金を援助して欲しい。
・生活環境面での支援→子供（保育園、病院）、家事に関する問題 ・資本金 ・婚活、出会いの場の提供
男性の教育（家事、仕事）への協力、ホームヘルパー（老人）、ベビーシッター等、地域の介護、保育、教育の充実。 何しても女が社長になるということは3足のわらじをはくということ。（妻、母、家政婦）どう両立するか、または面倒を見てもらえるか、男は仕事さえしていれば良い、というのは女にとって負担が重過ぎ。
資金面と技術
私は地域の方々とともに仲良くさせて頂いているので地域の交流かなあとと思いますが、よくわかりません。仲良しだから自分が持っていない機械等を格安でレンタルさせていただいています。この協力がないと農業は出来ません。
女性も男性も同じだと思いますが突然農村へ入り、畑を借りるのは難しい状況です。（どこの馬の骨的な…）畑が決まらないと全く事は進みません。出来れば公共団体の方々をもっともっと力を入れて新規の方々の相談にのっていただけたらと思います。JAや普及センターさん、農政課さんが独立出来る様に心を持って責任を持って力を入れて頂きたい。昔より農家さんと離れていっているのではないのでしょうか。私たちの地域は専業農家は3、4軒です。ほとんどが脱サラ農業です。脱サラ農業の方々はいろいろ勉強しています。新規参入の方がいらっしゃればその農家さんへ相談すると同じ境遇だったからお話することはたくさんあると思います。（しかし同じ農家さんにばかり新規の方をふられても農家さんはいっぱいっぱいの仕事をしているので…）
直接、新規就農した女性と話す機会を増やすことだと思います。講演会では一方通行になってしまうので女性同志、いわゆる女子会みたいな形をセッティングしてみると良いと思います。
生産だけでは売上がのびないので6次産業化を進めていくこと。その指導は必要だと思う。

「女性の視点に立った新規就農の課題や支援施策のあり方調査」

調 査 票

一ご回答いただくにあたってのお願い—

- ◆ このアンケートにお答えいただきたいのは、新規参入者のうち独立就農タイプの女性ご本人様です。独立就農タイプとは、農業法人等への雇用就農や、実家・配偶者の実家等への農業に従事する形ではなく、本人のみ、又は配偶者等とともに新たに農地や機械、ハウスなどを手に入れたうえで独立して農業を開始し経営するタイプ（農業法人等から新独立された方も含みます）です。
- ◆ 質問にはご自身のお考えでお答え下さい。
- ◆ 質問に断りなければ、質問番号順に回答の選択肢（1. 2. 3...の数字）に○を1つ付けてご回答下さい。（複数回答が可能な質問では、それぞれの指示（あてはまるもの全てに○をつけて下さいなど）に従ってお答えください。）
- ◆ 矢印（↑）がある場合は、その流れに沿って次の質問にお進みください。
- ◆ 調査票や返信用封筒には、お名前をご記入いただく必要はありません。

お手数ですが、ご記入いただいた調査票は同封の返信用封筒にて、
平成25年1月10日（木）までに必着でお願いします。

調 査 主 体 全国農業会議所
調査業務委託先 (社) 農山漁村女性・生活活動支援協会
【お問い合わせ先】 担当：齋藤、石井
電話：03-5777-5383 FAX：03-5777-5385 E-mail：saitou@we li. or. jp
(平日 9:30～12:15、13:15～17:45)

アンケート調査に御協力ありがとうございます。

問1. あなたの所在地（都道府県名と市町村名）をお答え下さい。

() 都道府県 () 市町村

問2. あなたの年齢をお答え下さい。

満 歳

問3. 独立就農してから何年目ですか。○を1つ付けて下さい。

1. 就農後2年未満 2. 就農後2～3年未満 3. 就農後3～5年未満
4. 就農後5～10年未満 5. 就農後10年以上
6. その他 ()

問4. 就農の動機についてお聞きします。

問4-①家族など農業との関わりがありましたか。○を1つ付けて下さい。

1. 実家が農業を営んでいる (いた)
2. 父母は農業に従事していないが祖父父母や親戚が農業を営んでいる (いた)
3. 実家や親戚に農業を営んでいる者はいない
4. その他 (自由記入)

問4-②農業法人等での雇用就農や現在の独立就農など、農業で働く前は何をされていましたが。○を1つ付けて下さい。

1. 会社などに勤務 2. 農業関係教育機関の学生 3. 学生 (農業関係以外)
4. 農家や農業法人の研修生 5. 農家や農業法人等の社員
6. 実家の農業 7. フリーター 8. 自営業
9. 家事手伝いなど
10. その他 (自由記入)

☆問4-③あなたはどのような理由で就農しましたか。就農した理由を3つ選び○をつけて下さい。

1. 農業が好きだから 2. 時間が自由だから
3. 自然や動植物が好きだから 4. 農業はやり方次第でもうかるから
5. 農村の生活 (田舎暮らし) が好きだから 6. 家族と一緒に仕事が出るから
7. 自ら経営の采配を振れるから 8. 子どもを育てるには環境が良いから
9. 有機農業をやりたいから 10. 以前の仕事の技術を生かしたいから
11. 努力の成果が直接みれるから 12. 雇われて働くことに向いていなかったから
13. 都会の生活に向いていなかったから 14. 食べ物や安全性に興味があったから
15. その他 (自由記入)

問4-④あなたは、農業法人等への雇用就農ではなく、独立して農業をはじめたのはどのような理由ですか。あてはまるもの全てに○をつけて下さい。そのうち一番重視するものひとつに◎をつけてください。

1. 自分のやりたい農業を実現したいから 2. 家族で農業経営をやりたいから。
3. 雇われずに自由に働きたいから 4. 経営者として働きたいから
5. 親と別経営で独立したかったから
6. 農業と他の仕事や趣味と組み合わせたいから 8. 農業法人から紹介されたから
7. 農業法人へ就職するより儲かると思うから
9. その他 (自由記入)

問5 就農の経緯について教えてください。

問5-①就農前に営農技術・知識はどのようにして身につけましたか。役だったもの全てに○をつけて下さい。また、一番重視するものひとつに◎をつけてください。

1. 農業大学校・農業専門学校・就農準備校 2. 農学系大学 3. 農業高校
4. 先進的な農家での研修 5. 農業法人での研修 6. 農協での研修 7. 普及センター
8. 家族や親戚 9. 友人・知人 10. 書籍や雑誌 11. インターネット
12. その他 (自由記入)

☆問5-②就農に当たりあなた現在の地域を選んだ理由であてはまるもの全てに○をつけて下さい。

また、一番重視するものひとつに◎をつけて下さい。

1. 行政等の受け入れ・支援対策があった 2. 営農指導体制が充実していた
3. 取得できる農地があった 4. 希望作目の適地である
5. (販売面も含めて) 都市へのアクセスが良い 6. 自然環境が良い
7. その地域を以前からよく知っていた 8. 相談窓口の斡旋による
9. 就業先・研修先があった 10. 家族の実家に近い
11. その他 (自由記入)

問6-⑩農業経営をよくなるために今後何に取り組みようと思っていますか。
あてはまるもの全てに○をつけて下さい。また、一番重要なものひとつに◎をつけてください。

- | | | |
|-------------------|--------------------|-----------------|
| 1. 規模拡大 | 2. 新規作目の導入 | 3. 直売など販路の拡大 |
| 4. 農畜産物の栽培飼養技術の向上 | 5. 農産加工 | 6. 観光事業・レストラン |
| 7. コスト削減 | 8. 労働環境の改善 | 9. 農地の拡大・改良 |
| 10. 雇用の導入 | 11. インターネットによる情報発信 | 12. 他産業・異分野との連携 |
| 13. その他(自由記入) | | |

問6-⑪あなたが女性ということで男性に比べて農業経営を行う上で大変だったと思ったことがありますか。○を1つ付けて下さい。

- | |
|--------------|
| 1. 思ったことがある。 |
| 2. 思ったことはない。 |
| 3. その他 () |

→問6-⑫前問で「思ったことがある」と答えた方に伺います。それはどのようなことですか。
あてはまるもの全てに○をつけて下さい。また一番大変だったものひとつに◎をつけてください。

- | |
|------------------------------|
| 1. 体的に男性に比べ力が弱い |
| 2. 農業機械が女性の体格にあっていない |
| 3. 農業をやっている同世代の男性はいるが女性がいらない |
| 4. ほ場にトイレがない、トイレに行けない |
| 5. 日焼けなど美容面で心配 |
| 6. 男性の雇用者を採用しづらい |
| 7. 資金が借りられない |
| 8. 農地が借りられない |
| 9. その他 () |

問6-⑬前々問で「思ったことがある」と答えた方に伺います。農業をやっている大変だと思ったことを、
あなたはどのようなようにして改善・工夫しましたか。主なものを具体的に記述して下さい。

--

問6-⑭あなたが女性ということで農業をやっている男性に比べて良かった点がありますか。
○を1つ付けて下さい。

- | | |
|----------------|--------|
| 1. ある。 | 2. ない。 |
| 3. 男性、女性の違いはない | |
| 4. その他 () | |

→問6-⑯前問で「ある」と答えた方に伺います。それはどのような点ですか。思い起こして記述して下さい。

--

問6-⑭農業経営のスタイルについて当てはまるものに○を1つ付けて下さい。

- | | |
|-------------------------|---------------------|
| 1. 自分が一人で経営している | 2. 自分と夫と一緒に共同経営している |
| 3. 夫が経営主で自分はその経営に従事している | 4. 自分と友人で共同経営している |
| 5. その他 () | |

問6-⑮あなたの経営内での役割であてはまるもの全てに○をつけて下さい。

- | | |
|-------------|----------|
| 1. 農作業・飼育管理 | 2. 事務・経理 |
| 3. 出荷・販売 | 4. 労務管理 |
| 5. 営業 | 6. 加工 |
| 7. その他 () | |

問6-⑯農作業や飼育管理の他に次のことを実施していますか。あてはまるもの全てに○をつけて下さい。

- | | | | |
|-----------------|------------|-------------------|---------|
| 1. 農産物加工 | 2. 直売・直販 | 3. 作業受託 | 4. 農業体験 |
| 5. 食育活動 | 6. 消費者交流 | 7. インターネットを活用した販売 | |
| 8. ブログやホームページ作成 | 9. 農家レストラン | | |
| 10. フェアームステイ | | | |
| 11. その他 () | | | |

問6-⑰年間の売上高(農産加工等を含む)はおよそどのくらいですか。○を1つ付けて下さい。

- | | | | |
|--------------|--------------|----------------|--------------|
| 1. 50万円未満 | 2. 50～100万円 | 3. 100～200万円 | 4. 200～300万円 |
| 5. 300～500万円 | 6. 500～700万円 | 7. 700～1,000万円 | |
| 8. 1千万円～2千万円 | 9. 2千万円～5千万円 | 10. 5千万円以上 | |

問6-⑱年間の農業所得(農産加工等を含む)はおよそどのくらいですか。○を1つ付けて下さい。

- | | | | |
|--------------|--------------|----------------|--------------|
| 1. 50万円未満 | 2. 50～100万円 | 3. 100～200万円 | 4. 200～300万円 |
| 5. 300～500万円 | 6. 500～700万円 | 7. 700～1,000万円 | |
| 8. 1千万円～2千万円 | 9. 2千万円～3千万円 | 10. 3千万円以上 | |

問6-⑲休日は、取り決めがありますか。○を1つ付けて下さい。

- | | | |
|------------|---------------------|----------|
| 1. 週休二日制 | 2. 四週六休制(日曜と隔週土曜など) | 3. 週休一日制 |
| 4. 天候の悪い時 | 5. 決まっていない | |
| 6. その他 () | | |

問6-⑳農業経営上で苦労している点の全てに○をつけて下さい。

また、苦労が一番大きいものひとつに◎をつけてください。

- | | | |
|---------------|-------------------------|---------------|
| 1. 所得が少ない | 2. 農畜産物の栽培飼養技術の未熟さ | 3. 販路が少ない |
| 4. 農業機械が高い | 5. 農薬・肥料などの資材費が高い | 6. 人手が足りない |
| 7. 仕事がつきつづ疲れる | 8. 農地の問題(集まらない、状態が悪いなど) | |
| 9. 運転資金不足 | 10. 設備投資資金の不足 | 11. 相談相手がいらない |
| 12. その他(自由記入) | | |

問9. 将来の抱負はなんですか。こんな事をしたい、こんなふうになりたいなど自由に記述して下さい。

問10. これから新規参入（独立就農）しようと考えている女性がいた時に、あなたが真っ先にしてあげたいアドバイスは何ですか。自由に記述して下さい。

問11. 女性の新規参入（独立就農）が円滑に進むために必要だと思う新規就農対策は、どのようなことだと思いますか。自由に記述して下さい。

これで質問は終わりです。ご協力ありがとうございます。

「女性農林漁業者とつながる全国ネット（愛称ひめこらぼ）」スタート

ひめこらぼの会員になりませんか?! 全国ネットは、インターネットを活用して、農山漁村女性だけでなく、消費者サイト、都市サイト、農業以外の産業種分野、民間企業のメンバー等との情報交換・交流・連携を進めます。そして、農山漁村の女性経営者や他産業との出会いやビジネスチャンスを創出し、それぞれの経営発展や6次産業化の取組に活かしていくものです。詳しくは、コチラをご覧ください。

<https://www.well.or.jp/zenkoku-network/>

★ただいまひめこらぼの会員募集中! 会費はありません。個人でも団体でも加入できます。z@well.or.jpへ空メールを送信してください。

★FACEBOOKページオープン <http://on.fb.me/Svmt6b>



問7 農村での生活について

問7-①農村生活で苦労している点を3つ選び○を付けて下さい。

- 1. 生活費が足りない
- 2. 買い物物が不便
- 3. 子どもの教育費がかかる
- 4. 病院が遠い
- 5. 隣近所つきあいが難しい
- 6. よそ者に見られてしまう
- 7. 同世代の友人がいない
- 8. 共同作業やむらの集まりが多い
- 9. 一挙一動を注目され息苦しい
- 10. 教育環境が悪い
- 11. その他 (自由記入)

問7-②前問で「苦労している点」を、あなたはどのようにして改善・工夫していますか。前問で選んだ点について具体的に記述して下さい。

問7-③農村生活で満足している点や充実している点など住んで良かったと思われる点を3つ選び○を付けて下さい。

- 1. 新鮮な農産物が手に入る
- 2. 自然環境に恵まれている
- 3. 子育てにより
- 4. 物価が安い
- 5. 人間関係が温かい
- 6. 家族と一緒に過ごせる
- 7. 祭り等の伝統文化に触れられる
- 8. 自由に使える時間が増えた
- 9. その他 (自由記入)

問8. 最後に、あなたの家庭のことについてお伺いします。

問8-①同居家族は何人ですか。

同居家族は _____ 人

1. いる 2. いない

問8-②家事はどうしていますか。(あてはまるもの全てに○をつけてください)

- 1. 他の家族が担当している
 - 2. 自分と他の家族で分担している
 - 3. ほとんど自分がしている
- それほどなただですか ()
 [あなたから見た就労でお答え下さい]
 4. その他 ()

問8-④あなたの家では、未就学児童（小学校に入学前のお子さん）がいますか。

- 1. いない
- 2. いる

問8-⑤前問で「いる」と答えた方に伺います。(いくつでも○)

- ①保育所等の送迎は誰がしていますか
 - ②お子さんの夕食の支度は主に誰がしていますか
1. 自分 2. 夫 3. 姑 4. 舅 5. その他 ()
 1. 自分 2. 夫 3. 姑 4. 舅 5. その他 ()

平成 24 年度 農林水産省新規就農等相談支援事業

「女性の視点に立った新規就農の課題や支援施策のあり方
調査結果」

全国農業会議所

(社) 農山漁村女性・生活活動支援協会

発行 (社) 農山漁村女性・生活活動支援協会

〒105-0011

東京都港区芝公園 2 - 6 - 8 日本女子会館 4 階

(社) 農山漁村女性・生活活動支援協会内

TEL : 03-5777-5383 FAX : 03-5777-5385

URL : <http://www.weli.or.jp>

平成 25 年 3 月
